

牧師養成講座

巻頭言

歴史に学び、歴史を創る

萩窪栄光教会牧師
中 島 秀 一



「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ1:15)

昨年10月29日に淀橋教会創立百周年記念式典が行われた。これまでの激動する百年間、純粋なホーリネス信仰を高く掲げて、幾多の困難を乗り越えてこられたことに對して深い敬意を覚えると共に神の御名を崇めずにはおられない。この教会の初代牧師は笹尾鉄三郎である。笹尾と言えはホーリネス陣営の重鎮であり、竹田俊造と共にバックストン人脈の双壁をなす人物である。この式典を通してわが教団とホーリネス陣営とが、その源流を一つにしていることに今更の如く大きな感動を覚えた。

「歴史に学ばない者は、歴史を創造することは出来ない」(泉田昭師)と言われるが、まさに至言である。今こゝで三つの歴史を取り上げることにする。

第一は、聖書の歴史である。

最大の歴史は聖書である。聖書の成立や、翻訳の歴史もさることながら、重要なことは聖書のメッセージである。「牧羊者」は教団創立一年目に発刊された。そうした先輩たちの熱意、信仰、スピリットにしっかりと学ぶと共に、聖書そのものに精通し、現代における伝道と教会形成に活用しなくてはならない。

第二は、教団の歴史である。

教団の歴史は1951年の創立から54年、前史のイエス・キリスト教会から75年、バックストン来朝から115年となる。新教伝来から30年を経過した1890年は、内に自由主義神学

の侵入、外に教育勅語の発布などの脅威が押し寄せる時代であった。そこに神は、充ち足りた福音、見せる聖潔を備えたバックストンを送られたのである。

第三は、教会の歴史である。

わが教団には創立百年を越える高和教会、香登教会を初めとして、様々な歴史と伝統を有する135の教会がある。その背後には多くの困難があり戦いがあったが、信仰によってよく乗り切ってきた。教会には長所もあれば短所もあるが、そこが家族であり居所なのであるから、安易に教会を非難し、教会を渡り歩く者になってはならない。大切なことは母教会の歴史に学び、母教会に仕え、母教会を愛し、建て上げて行くことである。

バックストンは「最も願わしく思われることは、我らのどの宗派のどの線にも従わず、全ての日本人クリスチャンを一つの会衆に結合させる日本人教会があることである。(中略)分かれた単位としては彼らは何事もなし得ない。結束した一隊としてこそ多くをなし得るのである」と述べている。まさに現代の教会にとって耳の痛い警鐘ではなからうか。

現代は個性が尊重される時代であるが、その反面一致団結することに困難を覚える時代でもある。それは教会においても決して例外ではない。豊かな聖潔信仰を伝えられた我々は、決して教派主義に陥ることなく、聖霊による一致を保ち、福音宣教と教会形成に努めなくてはならない。「歴史に学び、歴史を創る」者でありたい。

目次

巻頭言.....1

教師養成講座
「ありのままに子育てお母さん大丈夫ですよ」(2).....3

二〇〇五年度カリキュラム解説.....6

1月教案.....7

2月教案.....27

3月教案.....43

牧羊ひろば.....59

おわりに.....60

1月

2月

3月

教師養成講座

2003年 兵庫教区CS部主催 教育講演会

「ありのままで子育てーお母さん大丈夫ですよ」

講師 内田 みずえ師（聖書宣教会）

（講演内容に加筆修正したものです）

（午前の部―後半）

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」第1コリント 3章6節

3. 神様の恵み、憐れみを感じていますか？

私たちは子育ての中でたくさんさんの罪を犯してきました。失敗をしてきました。過ちを犯してきました。それにしては、子どもたちは本当に良く育ってくれました。そうではないでしょうか？

神様が私たちを、そして私たちの子どもたちを憐れんでくださり、恵みを注ぎ続けてくださったからこそ今日の私たち、そして私たちの子どもたちがあるのではないのでしょうか。

詩篇103篇8〜10節を「一緒に味わってみましょう。」

「主は、あわれみ深く、情け深い。」

怒るのにおそく、恵み豊かである。

主は、絶えず争ってはおられない。

いつまでも、怒ってはおられない。

私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、

私たちの咎にしたがって

私たちに報いることもない。」

私たちの罪、失敗、そして過ちがそのまま神様に裁かれていたら、今よりもずっと悲惨な状態になっていたことでしょう。私たちが蒔いた種がそのまま実を結んだら…と想像するだけでも恐ろしくなります。

恵みと憐れみに富んだ神様が私たちの足りない所を補い、カバーしてくださったからこそ、今日の私たちがいるのです。今日の子どもたちがいるのです。

子育ての中で、足りない所、うまく行っていない所、欠けている所にばかりに目を向けて嘆くのは止めましょう。神様の恵み、憐れみに目を向けましょう。聖歌の「のぞみも消えゆくまでに」のおりかえしの部分にありますように、まさに「数えてみよ、主の恵み」です。子どもたちをじっくり見て、神様の恵みを数え、神様に感謝しましょう。どんなに小さい事も丁寧に一つ一つ挙げて感謝していくなら、ついには、深く頭を垂れて、「神様、今、この子が生きていることを感謝します。」と感謝の祈りをささげるように導かれるでしょう。

しかし、この祈りを心から祈れるようになるまでには、親は幾多の試練を通らされるでしょう。余計なものがそぎ落とされ、子どもの存在そのものを喜ぶことができるようになるまでには、神様から多くのお取り扱いを受けることでしょう。碎かれる経験をたくさんするでしょう。

4. 子どもたちに過度の期待をしていませんか？

「うちの子ったら遊んでばかりいて、ちっとも勉強しないで困ってしまうわ。」

と嘆くお友達に皆さんはどんなことをおかけになりますか？

「子どもは元気がいいのが一番よ。勉強より体の方が大切よ。健康なら勉強はいつでもできるわ。」と理解ある態度を示すでしょうか。

あるいは、

「うちの子は散らかしっぱなしの名人で、片付けるっていうことを知らないのよ。」

と言われたら、どうお答えになりますか？

「きつと次から次へと夢中になってしまふものがあるのよ。片付ける暇もないくらい好奇心旺盛なのよ。芸術家肌なのね。」

素晴らしい答えですね。でも、これがご自分のお子さんのことだったら、こんな名解答が出せたでしょうか。

よそのお子さんには寛容で、やさしい気持ちになれるのに、最も愛しているはずの我が子には、なぜやさしくしてあげられないのでしょうか。なぜ冷たく接してしまうのでしょうか。最善を願っ

ているはずの我が子に、なぜ自信をなくさせるようなひどいことをぶつけてしまうのでしょうか。

我が子はいつも身近な所にいるので、親の側に遠慮が無くなり、感情のコントロールが効かなくなるのでしょうか。さらに深い所にある原因は、親の子どもに対する「期待」ではないのでしょうか。期待が大きく、理想も高い分、子どもがそのように振舞ってくれない時、失望が大きくなります。怒りが募り、爆発してしまいます。よそのお子さんに対しては、当然のことながら、期待も理想も持っていませんから、冷静に判断できますし、寛容にもなれます。結果的により良い対応ができるのですから、何だか皮肉な話ですね。

時には、自分の子がお隣の家の子どもだったら、自分の目にはどう映るのだろうか、と少し距離を置いて見るのも良いかもしれませんね。案外、「こんな子がうちにいたらいいな」と思えるくらいユニークで素敵な子かもしれませんよ。

皆さんのお子さんが生まれた時のことを思い出してみてください。生まれたての赤ちゃんが真白なキャンパスであるかのように思っていないか。たででしょうか。自分の思い通りの色を使って、自分の思い通りの絵を描くことができるような錯覚をしてはいなかったでしょうか。または、柔かい粘土のように自由自在に形を造っていくことができるような気がしていませんか。あるいは、今は小さな種でも、環境を整え、丹精込めて育てれば、自分の願っているような花を咲かせ、実を結んでくれると期待していらっしゃった方もある

でしょう。

自分が実現することのできなかった夢を我が子に託す親。逆に自分が成功したので、当然のように子どもにも成功を期待する親。逆境を克服して目標に到達したという自負心のある親は、恵まれた環境の中で育っている子どもは自分を越えるべきだと思ってしまう。音楽一家、代々医者の家系、学者の一族等々では、子どもも同じ道を進むだろうという暗黙の了解があるかもしれません。

親の成功や破れた夢、あるいは一族の期待とは無関係に、親の目から見た子どもの才能や傾向に従って子どもが歩むべきレールを敷く場合もあるでしょう。もちろん子どもの幸せを願ってそうするわけですし、親が子どもをよく観察し、与えられている才能を伸ばすための環境を整えてあげるのには素晴らしいことです。けれども人間の洞察には限界があります。神様のように子どものすべてを見ることはできません。子どもの将来も見通すことはできません。子どもの幸せを願ってスタートしたとしても、いつの間にか、親の願望や欲望が入り込んでくることもあります。

ある年齢までは、子どもが素直に、敷かれたレールの上を走っていたのに、ある日突然、そこから降りて別の道を行きたいと宣言されて、シヨックを受けた経験のある方がこの中にもいらっしやるかもしれません。

子どもはいずれ花を咲かせ、実を結びます。それが大輪のバラなのか、道端にひっそりと咲くオオイヌノフグリなのか、大きなスイカなのか、小さ

なミニトマトなのか、それはわかりません。育っていく過程の中で徐々に明らかになっていくのです。大切なのはオオイヌノフグリがバラにならないからといって、あるいはミニトマトがスイカにならないからといって腹を立てたり、無理やりそうさせようとしなくていいのです。

子どもは親の所有物ではありません。親の期待に答えて、親に満足感をもたらす手段でもありません。親の幸せや惨めさの供給源でもありません。子どもは神様から一時的にお預かりしている賜物です。神様は子どもたち一人一人に特別なご計画を持っていらっしやいます。詩篇139篇16節はそのことを高らかに歌っています。

「あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。」

私のために作られた日々が、

しかも、その一日もないうちに。」

神様のご計画は、私たちの期待や願いとは異なるかもしれませんが。けれども、それが子どもにとって最も幸せな道なのです。信じますか。

子どもたちを親の過剰な期待から解放してあげましょう。「過剰な」という形容詞もはずしましょう。極端な言い方かもしれませんが、子どもに期待するのは一切止めましょう。子どもが生きていくだけで感謝しましょう。子どもの存在そのものを喜びましょう。そして、子どもに対する神様のご計画が何であるかを見つけるお手伝いをしましょう。

「お手伝い」ということばを使いましたが、私たちはしばしば、子どもの先頭に立つて、子どもを無理矢理引っ張ったり、子どもの後ろから力一杯押したりします。親の役割は、子どもの横に立つて子どもの応援団長としてエールを送り、コーチとして助言することです。

子どもが幼いころ、献児式をしていたら、子どもを神様にお献げした方も、そうでない方も、今日、ここで改めて子どもを神様にお献げしよう。神様にお返ししましょう。そして、子どもたちが神様のご計画の道をまっすぐに、喜びをもつて歩んでいくことができるように祈りましょう。私たちが親として、良い応援団長、良いコーチに徹することができるように祈りましょう。

神様に子どもたちをお返ししたつもりでも、いつの間にか子どもたちを自分の手の中に取り返してしまふことが度々あるでしょう。知らず知らずの内に、大きな期待や小さな期待を子どもに押しつけている自分を見るかもしれません。子どものありのままの姿を受け入れることができなくて、「どうして？」と子どもを責め、理想と現実のギャップに腹を立てることもあるでしょう。

けれども、今、ここで本気で神様に子どもをお献げするなら、神様はご真実な方ですから、その約束を覚えていてくださいます。私たちがその約束からはずれていく時、さまざまな方法で私たちをお取り扱いくださり、原点に立ち帰らせてくださいます。

先ほど「子どものための祈り」の一部を抜粋し

てお読み致しましたが、ここで残りをお読みしたいと思います。

「――略――
神様、

本当に至らない親ですが、あなたが憐れんでくださったゆえに、子どもたちはここまで大きくなりました。ありがとうございます。

――略――
神様、

どうぞ、知恵をお与えください。子どもたちの成長段階に合わせて、そして一人一人の子どもにふさわしく接するためには、あなたの知恵が必要です。

天のお父様、
子どもたちが、あなたを心から愛し、あなたが用意してくださっている道を、喜びをもつて歩んでいくなら、親として

こんなに嬉しいことはありません。
子どもたちを御手にお委ねしますので、どうぞ、

誘惑から守り、
お導きくださいませ。

神様、

足りない親ですが、

子どもたちとともに成長させてください。

あなたへの愛と、

子どもたちへの愛を増し加えてください。

アーメン」

オオイヌノフグリが青紫の愛らしい花を咲かせる時、道行く人の心を和ませます。大輪のバラはそのあでやかさで、ぜいたくな気分を味わわせてくれます。熟したミニトマトの美味しさが口いっぱいに広がる時、心も体も健康になるような気がします。夏の暑い日に食べる、よく冷えたスイカの味は格別です。

ミニトマトかと思った子が、成長と共にスイカに変身していくかもしれません。逆もあるでしょう。全く違うものになるかもしれません。子どもたちを親の「期待」から解放してあげる時、その「期待」以上に伸び伸びと成長して、親を驚かせてくれるかもしれません。

高望みすることもなく、秘められた可能性に目をつむることもなく、子どもがその子らしさを輝かすことができるように、お手伝いさせていただきます。こうではありませんか。

応援団長、ガンバレ！ コーチ、ガンバレ！

どのようにお手伝いしたらよいのか、次回（年後の部―前半）は、植える者と水を注ぐ者が心がけるべきことについてお話したいと思います。

二〇〇五年度カリキュラム解説

企画部

はじめに

二〇〇五年度は、3年サイクルカリキュラムの第2年目となります。年題は「イエスさまとともに」、み言葉は「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」（ヨハネ15:5）です。イエス様がどのようなお方であるかを知識として知ると同時に、体験的に知らせ、このお方にしっかりとつながっていくようにというのが目標です。すなわち「救い」に導かれ、主につながる生涯へと祈りをもつて共に学びたく願っております。昨年と同じく、3期に分けて、第1期「愛に生きる」（マルコ1:15「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」、第2期「信仰に生きる」（マタイ16:16「あなたこそ、生ける神の子キリストです」、第3期「希望に生きる」（ヨハネ黙示録22:13「わたしはアルパであり、オメガである。最初の者であり、最後の者である」とし、それぞれ4ヶ月単元の土壌としています。今年度も教会暦を大切にしています。また一部の教会行事も組み入れています。イエス・キリストのご生涯の歩みそのままの流れではありません。時にそのような部分もあります。題目でまとめられているところを解ください。年題から言って、おのずと福音書が多くなるのですが、極力、特別な機会は旧約聖書からとらせていただいています。

単元ごとの解説

4月はおさなごイエスですが、聖書中、記事が限られていることもあって、伝道の準備の項

目が月末から始まります。

5月には「母の日」と「ペンテコステ」という特別な週題で旧約を取り上げつつ、「伝道の準備」の様子を学びます。

6月にも「花の日子どもの日」、そして「父の日」の特別な週題を旧約から学び、「はじめの伝道」に目を向けます。

7月には、イエス様の初期の大切な説教「山上の教え」から天国人の生き方を心に刻みます。

8月から「信仰に生きる」の期題のもとに、8月は「主のみわざ」の中に、人々の信仰にこたえるイエスのみわざ、その背後に深く隠れる主イエスの愛と憐れみと同情のお心をくみ取ります。

9月「救い主」です。特別な週題としては、「ラリー・デイ」と「敬老の日」がありますが、いずれも福音書に見られる「救い主」イエス・キリストの流れの中に取り入れられています。

10月には「支配者」なるイエスへの信仰を励まし、確認したい月です。自然界と、霊界、人の病苦を、そして死をも支配される方への偉大な信仰告白で締めくくります。

11月には「神のしもべ」なるイエス・キリストに学び、私たちもまた主のように、神のしもべとされて歩もうとの勧めとなります。月末に特別な週題「収穫感謝」が入ります。

12月には「クリスマス」の月。今年はマタイによる福音書で統一しました。25日がクリスマス聖日、また年末感謝の聖日となり、クリスマスチャンとっては大変喜ばしく感謝な年末、そして年始となります。

1月は元旦が第1聖日という幸いなスタートで、

テーマは「神の子」です。ヨハネによる福音書にみなざる神の子としての緊張感の中から、信じる者には多大な恵みとして注がれる「神の子」キリストのお姿に触れます。

2月には、主イエスが語られた「たとえ話」を取り上げます。期題「希望に生きる」を底流に覚えながら学びたいと思います。

3月には「十字架への道」です。今年度は受難週もイースターも入らない年度になります。十字架へしっかりとみ顔を向けられたイエス様のスピリットから学びます。

終わりに

夏期学校では「夢見る人ヨセフ」を取り上げ、第1日目「ヨセフの夢」、第2日目「ヨセフの苦しみ」、第3日目「ヨセフの信仰」と題して、主イエス・キリストの型なるヨセフの生涯から学びます。これまで「金言」とか「中心聖句」と表示してきたものを「暗唱聖句」でまとめています。文字どおり、み言葉を暗唱し、魂に印刻することを目的としています。少し長めのものもありますが、子どもたちには十分可能ということであえて長い日もあります。「心に植えつけられている御言を、すなおに受け入れなさい。御言には、あなたがたのたましいを救う力がある」（ヤコブ1:21）のとおり、子どもたちの魂に、み言葉そのものが働きかけて、救いへと導いていただけますようにと願っています。続いて子ども聖書日課が用いられますように。CS教師の方の献身的なご奉仕に主が祝福と報いを注がれるこの1年となりますように、お祈りいたします。

カリキュラム解説

聖書 エレミヤ29・10～14
テーマ 主の計画

序論

(鎌野)

今週から4週間は、旧約聖書の中に記されている希望に目をとめよう。これは、昨年11月から中断していたイスラエルの歴史の学びも兼ねている。ハバククが預言したように、神に背いた南王国はバビロニア帝国に攻撃され、紀元前605年と597年、多くのユダヤ人たちが首都バビロンに連行されていた。これがバビロン捕囚で、今週のテキストは、自分たちの不幸を嘆くこの捕囚民にあてて書かれた、預言者エレミヤの手紙なのである。エレミヤは、このような歴史的事件の中にも、希望に満ちた主の計画があることを述べる。

一、限定された苦難

バビロン捕囚は、確かにイスラエル民族の罪の結果であった。しかし、その苦しみの期間は限られている。ハバビロンで七十年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み／＼と、主は言われた。神は正義の神である。真の神を忘れ、偶像崇拜に走った民の罪を見逃すわけにはいかない。そのために神は、70年という苦難の期間を与えられたのである。出エジプト後の神不信の結果、40年の荒野の放浪を余儀なくされたことを思い出す。

神からの苦難は、ハ災いを与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、…将来を与え、希望を与えようとするものである。だから苦難にあつても、決して気落ちしてはなら

ない。その苦難の中で、神は何を自分に求めておられるのかを悟ることこそが大切なのである。現代でも、私たちが苦難にあうときには、このことを心にとめる必要があるだろう。

二、真剣な悔い改め

苦難のときになすべきこと、それは何よりも真剣に罪を悔い改めて神に立ち返ることである。捕囚という苦難の中でこそ、ハあなたがたはわたしに呼びわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う／＼と主は言われるのだ。それまで神と交わりをしていなかったことを悔いて、真心をもつて神に祈るとき、神との交わりは回復する。

神はしばしば、人々を悔い改めに導くために苦難を与えられる。彼らを憎んでそうされるのではない。愛しておられるからこそ、彼らが自分の罪に気づき、素直に悔い改めるようにと、あえて苦難を与えられるのだ。安楽に暮らしているとき、私たちは神のことを忘れやすい。かえって苦難のときこそ、「神様、助けてください」と、必死になつて祈るのではないだろうか。自分の罪を認めて、悔い改めるのではないだろうか。そのとき、主はつきりと私たちに会つてくださる。

悔い改めなくしては、本当の平安はないし、将来も希望もない。私たちも、苦難にあつたとき、神から離れていないかどうかを点検しよう。もしそうだったら、そのことを悔い改めよう。神は碎かれた魂を望んでおられるのだ。

三、奇跡的な回復

神との交わりが回復するとき、ハわたしはあなたがたの繁栄を回復し、…わたしがあなたがたを捕われ離れさせたそのものに、あなたがたを導き帰ろう／＼と主は言われる。霊的な回復があるとき、国家もまた奇跡的な回復を経験するのである。このことは、紀元前58年、バビロニア帝国を滅ぼしたペルシャ帝国の王クロスによって、文字どおり実現した。彼は、イスラエル人の母国帰還を許す勅令を発布したのだ（歴代下36・22～23）。時は、最初の捕囚から70年後のことであった。

しかし、国家の回復は、個人の霊的な回復の結果であることを忘れてはならない。エレミヤが訴えたのは、イスラエルの民が人格的に神とお出会いすることであった。まず個人が主に呼びわり、主に祈り、主を尋ね求めることであつた。そのような誠実な民が、70年間、主の約束を信じて求め続けるときに、国家も回復する。エレミヤは、民が捕囚となつたのは、このような生き方を学ばためだと確信していた。この信仰的な姿勢こそ、災い希望に変える態度なのである。

結論

私たちの人生にも、捕囚と思えるような試練の時期があるだろう。しかしその時こそ、自分の歩みを反省し、主を尋ね求める生き方に立ち返る機会である。このとき、試練はかえって恵みとなる。今年も、神は一人一人に良い計画をもつておられる。主の計画は、将来と希望を与え、喜びをもつて歩んでいける力を与えるのである。

研究資料

(長田)

神のご計画

「人の心には多くの計画がある。しかしただ主の、み旨だけが堅く立つ」（箴言19・21）。「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ…」（詩篇37・5）。

神は私たち一人ひとりのためのご計画を持つておられる。しかも、そのご計画は常に最善であり、私たちが豊かな祝福に導くものである。それゆえ、私たちは全き信頼のうちに自分の生涯を神のご計画に委ねることができる。

バビロン捕囚の憂き目に遭っていたイスラエルの民の多くは、将来に希望が持てないでいたであろう。しかし、神は彼らのためにも、ご計画をお持ちであつた。そのご計画は、以下のようなものであつた。

- ① 災いを与えようとする計画ではない（11）
神のご計画は、決して災いを与えようとするものではなく、私たちにとつて常に良いものである。信仰を練り清めるための試練や罪に対する懲らしめもあるであろう。しかし、そのすべては、私たちが正しく、また、祝福に満ちた歩みへと導かれるためのものである（ローマ8・28）。
- ② 平安と希望を与えようとする計画（11）
今暗黒の中に置かれているとしても、主は、ご自身に信頼する者を常に平安、豊かな将来、希望へと導いて下さる（ローマ15・13、ヘブル12・11）。
- ③ 交わりの回復への計画（12～14）

神のご計画において目的とされているのは、すべてのことを通して、私たちがなお主に近づき、主との深い交わりの中に導かれることである。

テキスト

10 バビロンで七十年が満ちるならば ユダ王国は、紀元前586年、バビロニア帝国によって滅ぼされる。これは、ユダの度重なる罪の故であつた歴代志下36・15～20。その後、数回にわたり、民のおもだつた者たちが首都バビロンに捕虜として引き連れられ、帝国内でバビロニアの王に仕える者とされる（バビロン捕囚）。その最初の捕囚は、紀元前605年行われた（ダニエル1・1～3、6）。エレミヤ25・11、12において、国々がバビロンの王に仕えるようになって70年後、神がバビロンを滅ぼすことが預言される。29章は、エレミヤが捕囚の民に送った手紙であるが、ここで再び、70年という期間の確認がなされると共に、その後、民のエルサレム帰還がなされるとの預言が与えられる。この預言は、紀元前539年、バビロニア帝国がペルシャ王クロスによって滅ぼされ、翌年、紀元前538年、クロスによるユダヤ人帰還命令が出されたことにより、成就される。神は、ご自身のご計画によって国々の歴史をも導かれる。

11 わたしがあなたがたに對していただいている計画はわたしが知っている 神のご計画は、人知をはるかに超えており、私たちは時折その一部を垣間見ることができるのみであるが、神はそのすべてをご存知である。私たちは、まず、その事実にあ息することができる。

それは災いを与えようというのではなく 当時の民が置かれていた状況は、災いとしは見えないものであつたが、神のご計画は、常に現状を超えたところにある。

平安を与えようとするものであり 神は、私たちを不安の中にとどまらせるお方ではなく、平安の中に導き入れてくださるお方（ヨハネ14・27）。あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである 神は、困難や試練の中からさえも、希望を生み出してくださる（ローマ5・3～5）。神を信頼する者の前には、暗黒の中にも常に明る

い将来が開かれていく。

12 その時、あなたがたはわたしに呼びわり、来て、わたしに祈る 祈りは、神の祝福の条件であるが、同時に祝福の結果でもある。自由に神の御前に出て祈れること自体、神の恵みなしにはありえない。

わたしはあなたがたの祈をきく この前提に罪の赦しの恵みがある（イザヤ59・1、2、43・25）。

13 あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会うと主は言われる 信仰者にとつて、神の御顔が隠されることほど大きな裁きはない。しかし、あわれみに富む神は、私たちの罪を赦し、御顔の光を照らして下さる。罪の故に暗黒の中に置かれたならば、悔い改めつつ、また、御子の十字架を仰ぎつつ、御顔の光が輝くまで主を尋ね求めなければならぬ。そして、そのように尋ね求める者を、神が拒まれることはない。

聖書 エレミヤ29・10～14

タイトル 希望に満ちて

暗唱聖句 あなたがたに将来を与え、希望を
与えようとするものである。

目 標 望みの神にあつて新しい年をスタートする。

エレミヤ29・11

導入

(小野)

主の年2005年、あけましておめでとうございます！
「主の年」とは「A・D」のことで「主のご支配の年」という意味です。日本語では「紀元」と言います。この1年も、私たちを愛していてくださる神様のご支配の中にある、と思ううれしくありませんか。さて、今日は新しい年の2日目、今年最初の日曜日です。「1年の計は元旦にあり」と古くから言われていますが、皆さんはどんな計画を立てたでしょうか？今日は、自分が立てる計画ではなく、神様が、私たちのために立てられる計画についてエレミヤ書から学びましょう。

イスラエルのために

今日の聖書は、預言者エレミヤがバビロンに捕らわれて行ったユダの人々にあてて書いた手紙なのです。え？バビロンにいるユダの人々？そう、まことの神様に聞き従わないで、偶像を拝み続けるユダの人々を神様はバビロンの国を用いて懲らしめられたのです。自分の国を離れ、遠いバビロンで奴隷にされるのは大きな苦しみや悲しみ、不安や恐れがいっぱいになる出来事でした。1、2週間、海外旅行をするのとは大違い！なんと70年という長い間です。ユダの人々が心から悔い改めて神様に立ち帰り、偶像を捨てるには、そんなに長い年月が必要だったのですね！でもユダのための神様の計画は、きつちり70年間という約束です。確かに苦しく厳しいバビロンでの涙の生活ですが、「それは災いだけを与えるというだけではないよ、それはまた平安を、将来を、そして希望を与えようとする計画だよ」と神様はエレミヤをとおして語られます。「ユダの人々よ、70年が満ちたならばきつと、わたしはあなたがたをもとの所に導き帰るのだから、今はバビロンに家を建てて住みなさい。偽預言者たちが、うその計画を言いふらしても、惑わされてはいけません」と。この神様のお言葉はとても信じられないものだったことでしょう。しかも2年、5年、10年、20年、50年とたつうちに、だんだんと忘れられたり、そんなこと本当に神様は計画していただきたっているの？と疑いたくなつていったかもしれませんね。ところが、神様はご自分の計画をちゃんと覚えておられて、70年がたった紀元前538年ベルシャのクロス王の命令により、その計画がみごとに実現したのです。ユダの人々は、平安と将来への希望で喜びに満たされたのです。すごいですね。神様の計画は絶対に間違いがないのです。

私のために

イスラエルのために希望の計画をもたれた神様は、今、私たち一人ひとりのためにも、平安、将来、そして希望を与えようとする計画をもっていてくださいます。たとえば、誰か自分の誕生日を自分で決めて、計画して生まれてきた人いますか？誰

かここで生まれるんだと自分で計画して生まれてきた人？僕は男に、私は女に生まれるたいと、自分で選んで生まれてきた人いますか？こんなお父さん、お母さんがいいな、こんな兄弟姉妹、こんな顔、性格がいいよと自分で計画して生まれてきた人なんて、絶対にいませんよね。そう考えるだけでも、自分の考えや計画をはるかに越えている、神様が私のために立てていてくださる計画が一番すばらしいのです。その計画が行われるために、時には苦しい所や悲しい所を通るでしょう。でもその時も、自分の思いを神様にお任せしてお祈りすると、神様は平安と将来と希望を約束する聖書のみ言葉をもつて、導いてくださいます。何が起ころうとも、神様の愛の計画の中にあるのです。

例話―エミー・カーマイケルのこと

エミーは1867年12月16日、北アイルランドに生まれました。3歳のとき、両親と共に住んでいた教会で、「祈りは聞かれる」と教えられていたので、エミーはある夜、自分の部屋で一大決心をして祈りました。「私の茶色い目を、母の目のように、大好きな海のような青色にしてください」と。翌朝、鏡をのぞいてがっかり！祈りの答えは「いいえ」でした。その後、エミーは成長しインドの宣教師となり、白い肌コーヒーパウダーを塗りサリ―を着て寺院に入り、かわいそうな子どもたちを救う働きを50年もしました。もしも、青い目だったら？！神様のご計画はなんとすばらしいことでしょう。この1年もイエス様と共に、希望に満ちた1日1日を歩みましょう。

♪明日を守られるイエスさま♪
(日本ホーリネス教団 こどもさんびか66番)

ワーク A

話し方のヒント

この新しい一年も、神様が私たちのために希望に満ちたご計画を考えていてくださるというのは本当にうれしいですね。

私たちは、神様にお祈りしても自分の願いどおりにならないことがあります。でも、神様は私たちが願う以上にすばらしいことを考えていてくださることを信じて、毎日を歩んでいきましょう。

ワークについて

希望のゴールに向かって、迷路を進みます。何番からスタートすればよいでしょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 エレミヤは、バビロンに捕囚となったユダの人々のために、神様のご計画を伝えました。それから70年がたった紀元前538年に、クロス王によって帰還命令が出され、神様のご計画は実現しました。

●質問3 神様は私たちひとりひとりに将来と希望を与えるご計画をもっておられます。自分の願いや思いをお任せして、神様のみ言葉に従って歩んでいくなら、神様のご計画の道を歩むことができるのです。

ワーク C

●エレミヤ29・11全体を開き、み言葉を書き込みます。【計画】【災】【平安】【将来】【希望】

●四角マスへの答えは「1」で示しています。

●本日の箇所は、イスラエル回復についてのエレミヤの預言であり、来週の箇所はその預言の成就のところです。預言として、エレミヤ25・8～14、イザヤ44・28～45・5、その歴史の記録として歴代志下36章(特に15～23節)、エズラ1章も確認しておいてください。

●文章や漢字のレベルが、小学校中学年にとつては難しいことがあります。ワークは教師の指導と会話の中に進めていくので、そういう点は会話しながら教えてあげてください。

ワーク D

●2005年最初の礼拝がスタートしました。神様の計画は、私たちが求めているものと違うかも知れませんが、また神様の方法は私たちが考えるものと違うかも知れません。だから神様に聞く、神様にゆだねる、神様に求める必要があります。子どもたちもすでに計画を立てているかも知れませんが、新しい年が始まった今、そのことに気づけば幸いです。

●神様の計画は私たちにとって最善です。だから希望があります。希望を抱いて新しい年を始めましょう。

中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 バビロンに連れ去られた民が解放されるのは、捕われてから何年後だと預言されていますか。
- 2 神様が私たちにいっていておられる計画はどんなものだと書かれていますか。(平安、将来、希望を与えようとするもの/11節)
- 3 私たちが苦しい目にあうとき、どうしたらよいと書かれていますか。(神様の助けを求めて真剣に祈る/12節)

考えてみよう

- 1 「わたし(神)があなたがたを追いやった」(14)と書かれていることから、イスラエルの民は神様にどんな態度をとったと考えられますか。(神様に背いて、自分勝手な道を歩んだ)
 - 2 神様の祝福に満ちた計画にあずかるために、私たちは何をしたらよいでしょうか。(み言葉に従って道を選ぶ)
 - 3 神様に背いたイスラエルの民が悔い改めるなら、神様は彼らをどのように扱おうとしておられますか。(繁栄を回復し、もとの所へ導き返す)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたのために神様が計画を持っておられるということについてどう思いますか。
 - 2 あなたは今、神様の計画に沿って生きていると思いますか。
 - 3 苦しい目にあったとき、自分を顧みて悔い改めた経験がありますか。



聖書 エズラ1・1～11
テーマ み言葉の成就

序論

(鎌野)

エレミヤが預言したとおり、最初の捕囚から70年後の紀元前538年、捕囚民は母国に帰還できるようになった。しかもそれは、異邦人であるクロス王の勅令によって実現した。これは神のみわざとしが言いようがない。そこでこの出来事がおこつてから1世紀近く経過した時に登場した祭司エズラは、この奇跡的な歴史を後代に伝えるために本書を著した。神のみ言葉は必ず成就することが、本書を学べば容易に理解できるだろう。

一、異邦人の王によって

△主はさきにエレミヤの口によって伝えられた主の言葉を成就するため、ペルシャ王クロスの心を感動された▽という一文は、聖書の神は、異邦人の王の心さえも動かされるお方であることを、明確に示している。クロス王は、バビロニア帝国を攻撃し、滅亡させた。不思議なことに、エレミヤよりも前に登場した預言者イザヤは、彼の名を主から示され、「クロスについては『彼はわが牧者、わが目的をことごとくなし遂げる』と記している(44・28)。これは、クロスが登場する150年以上も前に書かれていることに注目したい。神はユダヤ人だけではなく、異邦人の神でもあり、全世界の歴史を支配しておられる。クロスも、神が自分を置いておられると認め、△主は地上の国々をことごとくわたしに下さつ▽たと告白している。

現在の世界も、主の御手の中にある。日本の首相も、米国やロシアの大統領も、神はご自身の目的のために用いられる。このことがわかるなら、私たちは世界の動きに一喜一憂することなく、神の最善を期待することができるのである。

二、主の宮の復興によって

クロス王は、先のことばに続いて、△主の宮をユダにあるエルサレムに建てることをわたしに命じられた▽と宣言する。イスラエルの民が故国に帰るのは、主を礼拝するための宮を再建するためにはかならない。故国への帰還は、単に捕囚の身から自由になるためだけではなく、先週学んだように、民が神に祈り、神を尋ね求め、神に会い続けるためである。先ほど引用したイザヤ44・28にも、「エルサレムについては、『ふたたび建てられる』』と言ひ、神殿については、『あなたの基がすえられる』』と預言されている。

現代に最も必要なのは、本当の神を神として認めることである。多くの現代人は「神はいない」という。ごう慢にも、人間の力ですべては解決できると考えている。しかし、環境汚染、地球温暖化、異常気象、地震、戦争、人口問題、どれ一つをとってみても、本当に人間の力で解決できるだろうか。さらに、人々の心に広がる虚無感や、愛が冷え、みな利己的に生きている現状に本当の解決はあるのか。今こそ、「主の宮」を復興せねばならない。真の神を認め、利己的に生きている自分の罪を悔い改め、神の言葉に謙そんに従うことこそ、今求められていることである。

三、民の服従によって

クロス王はさらに、△その民である者は皆その神の助けを得て、ユダにあるエルサレムに上つて行き、…主の宮を復興せよ▽と命令した。バビロンからエルサレムまで、直線距離でも千キロメートルもある。大変なことだが、民が従つてこそみ言葉は成就する。どうしても行けない人に対しては、王は△神の宮のために真心よりの供え物をささげよ▽と命じた。経済的な支援がなければ、主の宮を建てることはできないからである。

その結果、△すべて神にその心を感動された者は、…主の宮を復興するために上つて行こうと立ち上がった▽。また、△もろもろの物を惜しげなくささげた▽人々も多かった。さらにクロス王自身も、バビロンの王が70年前に奪い取っていた主の宮の器を返還した。

神の言葉は、み言葉に服従する人々によって、最終的に成就する。△セシバザル▽（2・2のゼルバベルのこと）や、来週学ぶネヘミヤもそういう人々だった。心に感動を与えてくださったのは神であるが、それに応答する責任は、私たち一人一人にあることを忘れてはならない。

結論

神のみ言葉は必ず成就する。神は権力者さえ用いて、奇跡的なわざをなしてくださるが、最も用いたいと願つておられるのは、私たちクリスチャンである。神が感動を与えられたとき、それにノ―と言つてはならない。それに服従するときにこそ、希望は現実にかわるのである。

研究資料

(長田)

み言葉の成就

「このように、わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない。わたしの喜ぶところのことをなし、わたしが命じ送った事を果す」(イザヤ55・11)。「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」(ルカ1・45)。

天地創造のみわざは、神の言葉によってなされた。神が「光あれ」と言われたとき、光が現れた。また、キリストが「きよくなれ」と言われたら、重い皮膚病が完全にいやされた(マタイ8・3)。神の言葉が一旦語られたならば、それが実現しないままむなしく地に落ちることなど決してない。預言者エレミヤを通して、バビロン捕囚の民の帰還について語られた神の言葉は、長い間実現する気配を見せなかった。しかし、神が語られた通り、70年という期間が終わろうとするとき、み言葉は成就したのである(1)。

キリストの誕生をはじめ、その苦難と死、復活など、キリストに関わる多くの預言はそのまま成就した。イスラエルの国をはじめ、地上の国々に対して語られた多くの預言の言葉も、その通り成就した。

私たちは、聖書に預言されていることで、いまだ実現していない終末の事柄についても、神は必ずそのみ言葉を成就されると信じなければならぬ(キリストの再臨、新天地、永遠の都の出現

など)。同時に、聖書中、すべての信仰者に対して与えられている数々の約束のみ言葉も、必ずその通りになるのだと信じるべきである。信仰者の生涯とは、神のみ言葉を最後まで信じ抜く生涯である。

テキスト

1 ペルシャ王クロスの元年 紀元前538年。ペルシャのクロスは、メディアを征服、併合、強大なペルシャ帝国(メド・ペルシャ)を出現させ、その後、紀元前539年、バビロン王国を征服した。ユダヤ人解放のために用いられる彼の名は、彼が生まれるはるか以前に、預言者イザヤによって預言されている(イザヤ44・28、45・1～4)。さきにエレミヤの口によって伝えられた主の言葉先週研究資料(エレミヤ2・10解説)参照。ここでのクロス王によるユダヤ人帰還命令によって、エレミヤによる預言の言葉が成就する。

ペルシャ王クロスの心を感動されたので 神は、み言葉の成就のために、異邦の王の心までも動かすことがおできになるお方(箴言21・1)。

2 天の神、主は…主の宮をユダにあるエルサレムに建てることをわたしに命じられた クロスが、イザヤの預言(右記)を目にしたかどうかは定かでないが、何らかの形で、神からのご命令としてこれらの言葉を受け取ったと思われる。

3 ユダにあるエルサレムに上つて行き、イスラエルの神、主の宮を復興せよ ユダヤ人帰還の命令の目的は、エルサレム神殿の再建にあった。異邦の王としては、そこに王と帝国の繁栄を祈らせ

る意図を持っていたかもしれないが、神は、そのような王の心をも用いてご自身のご計画を成就される。

その所の人々は、金、銀、貨財、家畜をもって助け 神が地上にご自身のみわざをなさる時には、それに必要なすべてのものも十分備えてくださる(6節参照)。

5 そこでユダとベニヤミンの氏族の長、祭司およびレビなど、すべて神にその心を感動された者は 異邦の王の心を動かされる神は、もちろんのこと神の民の心をも揺り動かされる。ユダヤ人たちのエルサレム帰還後、様々な事情で中断、遅延された神殿再建が再開され、完成に至るためにも、神は再び民の心を揺り動かしておられる(ハガイ1・14)。神は、ご自身のみわざが完成されるまで、何度でも民の心を動かし、励まされる。立ち上がった 神に心動かされた者は、即立ち上がつて御心を行うべきである。

6 彼らを力づけ…惜しげなくささげた 周囲の人々は王の命令であるからという以上の心でユダヤの人々を助けた。周囲の人々の心をも神が動かしておられたと見ることができる。

7 クロス王はまたネブカデネザルが、さきにエルサレムから携え出して自分の神の宮に納めた主の宮の器を取り出した 二度と取り戻せないと考えられた主の宮の器が再び自分たちの手に戻ったとき、ユダヤ人たちの心はどれほど感動したことであろう(エレミヤ27・21、22)。

8 ユダのつかさせシバザル ゼルバベル(2・2)のことと考えられるが、異説もある。

聖書 エズラ1:1-11
タイトル 感動に満ちて
暗唱聖句 イスラエルの神、主の宮を復興せよ。
目 標 驚くべき復興はみ言葉の成就であることを知る。

導入 (小野)

「うわーっ、感動した！」「めっちゃめっちゃ感動！」
「超、超、感動！」って、涙も出そうなくらい感動したことありますか？どんな時に、どんなことに、皆さんは感動するのでしょうか。欲しくて欲しくてたまらなかったものが、サンタクロースによって届けられた！とか、今まで見たこともないようなきれいな景色を見たとか、すごくかわいいうペットに出会ったとか、長い間会いたくても会えなかったお友だちに会えた！とか。今まで食べたこともなかったようなおいしいものを食べた！とか、いろいろな人の感動物語を聞いてみたら、とても面白いにちがいありません。さて、では今日の聖書はどうでしょう？

感動したクロス王

エレミヤがユダの人々に、バビロンにいるのは70年ですよと言いましたね。神様の立てられたこの計画は、きっちりそのとおりになりました。神様はバビロンの次に興ったペルシャの国の王様クロス王が位についた最初の年に、その約束を守られました。つまり、神様を信じないペルシャの

王クロスの心に感動を与えて、次のように言わせました。「さあ、天の神の民である者は皆、ユダにあるエルサレムに上って行きなさい。そして、イスラエルの神、主の宮を復興しなさい！」と。聞いていた人々はきつと目を丸くしたことでしよう。何ですって!? クロス王の命令ですって!? どうしてこの王様がそんなことを言えるんでしょう...? 実は、その答えは聖書に書いてあるのです。「ペルシャ王クロスの元年に、主はさきにエレミヤの口によって伝えられた主の言葉を成就するため、ペルシャ王クロスの心を感動されたので」とあるとおりです。私たちの神様は、神様のことを知らない人々をさえも用いて、その心に感動を与えて、ご自分の計画をちゃんとし成し遂げられています。まさに感動の神様ですね。

感動したユダヤ人

そのクロス王が語った神様のみ言葉に、またまた感動したのがユダの民たちでした。
「おーい、クロス王からの信じられないような命令が出たぞ！ 主の民は皆、神様の助けを得て、ユダのエルサレムに上って行って、主の宮を復興しようではないか！」

「えーっ!? 本当か！ 夢のような話じゃないか。しかし、エルサレムは70年もの間、荒れ放題だったんだぞ。その復興さえ大変じゃないか、しかもバビロンからエルサレムへの旅は危険なことがいっぱい、考えただけでも恐ろしいよ。それでも行くのかい？」「もちろんだとも！ われわれの神がクロス王の心を動かして、70年の約束をしっかりと守るって言うてくださるんだ。大丈夫さ。さあ、

立ち上がって、上って行くうじやないか！」

このように、「すべて神にその心を感動された者」はエルサレムにある主の宮を復興するために上って行くことと立ち上がったのです。それらの人々の名前のリストが大事な記述として、エズラ2:1-58に記されています。あわせて4万2千3百60人とあり、それにしもべたちも加えられたとあります。神様によって感動させられることはなんとすばらしいことでしょう。旅への恐れも吹き飛ばし復興の労苦も喜んで受けとめる力が与えられました。ユダの民にとって本当に大切な主の宮の復興は、神様の真実なみ言葉によるものだったのです。

感動する私たち

今から40年くらい前のことです。則子さんはクリスチャン看護学生。学校の自分の机の中には、いつも聖書を置いていました。その日は、マタイ7章を開いて机の下に置いていたのですが、隣にすわっていた文恵さんはとっても興味しんしん。則子さんのいない時に、そつとその聖書を手にとってみました。開かれたそのページには「だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりによせよ」(マタイ7:12)と記されている、その言葉が目から心に飛び込んできました。文恵さんの心が感動させられたのです。次の日曜日から則子さんと教会へ行き、ついにクリスチャン看護師になりました。

この1年も「感動の本、聖書」を読んで、すばらしい約束がそのとおりになることをみさせていただきますように。

♪ガリラヤの風がおる丘で♪ (新聖歌40番)

ワーク A

話し方のヒント

神様のことを知らないクロス王様の心が、神様によって感動されたというのは、すばらしいことです。これも神様のご計画で、いよいよ、ユダヤの人たちはエルサレムに上って主の宮を復興することになりました。民たちの心の中には不安もありましたが、復興も神様のご計画であり、み言葉によるものでした。私たちにとっても聖書は、心を感動させる真実な神様のみ言葉です。

ワークについて

神様の確かなご計画は、どこに書かれているでしょう。印のついている所をぬってください。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 神様は、異邦人であるクロス王の心までも動かして、み言葉を成就されました。クロス王の語った神様のみ言葉に感動したユダの民は、エルサレムに帰って、主の宮を復興しました。

●質問3 神様のみ言葉によって、感動させられ、励まされ、慰められます。私たちもみ言葉に従って歩みましょう。

ワーク C

●言(ことば・ロゴス)である神は、み言葉によってすべてのことを実行なさいます。その全知全能の力と権威により実現することを確認します。

●長らく実現しないように見えながら、時が来ると一気に実現していくことをクロス王の命令の出来事から確認します。

●お祈りの中の「...」の部分には、①「自分が示され教えられた事を自由に祈る」という意味と、②「主イエス様のお名前によってお祈りします」を入れる」という2つの意味が込められています。

ワーク D

●質問に丁寧に答えながら、確かに神様は計画、約束、み言葉を成し遂げてくださったことを発見できれば幸いです。また神を知らない王の心さえも感動して用いられる神様であることを知って、神様への信頼を強めて、従うことができますように。

中高校へのヒント

●観察してみよう

- 1 「エレミヤの口によって伝えられた主の言葉」つまりエレミヤによる預言は、エレミヤ書25:11にあるので、調べてみよう。
- 2 イスラエルの民が主の宮を建てるようにクロス王の心を動かしたのは誰ですか。(主なる神)命じていますか。(エルサレムに帰って主の宮を建てよ。そのために必要なものを献げよ)
- 3 イスラエルの民は、クロス王の命令に対してどのような反応を示しましたか。(感動して従い、できる限りのことをした)
- 考えてみよう
- 1 エレミヤの預言どおり、バビロン捕囚は70年で終わったことについてどう思いますか。
- 2 主なる神様が、外国の王様の心も動かすことができることについてどう思いますか。
- 3 イスラエルの民は、クロス王の命令を聞いてどのように感じたと思いますか。(驚きと喜び)
- 4 主の宮(神殿)を復興することは、何を意味していると思いますか。(神様を第一として生活すること)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたの心と生活を本当に支配しているのは、神様ですか、それともあなた自身ですか。
- 2 神様を第一とし、み言葉に従う人は神様から喜ばれます。あなたはどのようにか。



聖書 ネヘミヤ8・1～12
テーマ リバイバル

序論

(鎌野)

ネヘミヤは、紀元前445年、祭司エズラより10年ほど遅れてエルサレムに帰還した。彼はペルシヤ王の給仕役という高い地位にあったが、その職を投げ打ち、崩れていた城壁を建て直すために帰ってきたのである(1章)。しかし彼は、短期間に城壁を補修した後には、祭司エズラと協力して民の信仰を復興するという、より重要な働きにたずさわった。まさにリバイバルの立役者となったのだ。今週のテキストは、このリバイバルの発端となった集会での出来事を学んでみたい。そこには3つの要素があったことが観察される。

一、律法の朗読

時は八月の一日、城壁完成から6日目のことである(6・15参照)。律法によれば安息の日であり、ラッパを吹き鳴らして聖会を開くべき日であった(レビ23・24、民数29・1)。民は、神殿の南東部にあった水の門の前の広場に集まり、あけぼのから正午まで、ずっとエズラが読む律法の書に耳を傾けていた。容易に律法の書が手に入らない時代、さらにほとんどの人が読み書きのできない時代だったゆえに、はじめて律法を聞くような人々も多数いたであろう。

リバイバルは、何よりも神の言葉を聞くことから始まる。それは単なる感情的な高揚感ではない。み言葉に対する尊敬を抱き、あがり立ちして聞く態

度こそが不可欠である。その結果として賛美が生まれる。また、民はみな謙そんにあがりうべをたれ、地にひれ伏して主を拝するようになる。現代のリバイバルもこれと同じであろう。

二、徹底的な悔い改め

朗読が終わった後、13人のレビ人たちは人民に律法を悟らせ、あその意味を解き明かしてその読むところを悟らせた。これは、今でいうところの説教であろう。すると、あすべての民が律法の言葉を聞いて泣いた。自分たちが律法に背いて歩んできたことを認め、悔い改めたのである。エズラ記9章に記されているとおり、神殿が再建された後であっても、民の霊的な標準は決して高くなっていなかった。物質的に豊かになるうとして土地の有力者の娘と結婚したために、彼らの偶像崇拜が入ってきたことはゆゆしい問題だった。また、ネヘミヤと同時代に生きた預言者マラキは、その時代には祭司が墮落し形式的な犠牲がさげられていた、と記している。

リバイバルがおきるとき、徹底した悔い改めが始まる。自分の罪がわかるとき、泣かずにはおれない。それこそ「鼻と涙の悔い改め」である。み言葉の光が心に鋭くさしこむならば、それはだれもが経験することだろう。徹底した悔い改めのないリバイバルはありえない。

三、赦しの喜び

泣き悲しむ民に対して、ネヘミヤとエズラ、またレビ人はあこの日はあなたがたの神、主の聖な

る日です。嘆いたり、泣いたりしてはならない」と告げた。さらに、10節と11節でもあ憂えてはならない」と重ねて言っている。なぜか。

イスラエルの暦では、7月は収穫の季節である。律法はこの月の15日から22日までを「仮庵の祭り」として祝うように定めており、本来は喜びの時であった(申命記16・13～15)。粗末な仮庵に住むことによって出エジプト時の荒野の生活を思い出し、現在の豊かな恵みを神に感謝することこそ、この祭りの意義なのである。

悔い改めは確かに大切だが、それだけで終わってはならない。罪を悔い改めるのは、それを赦してくださる神がおられるからである。この方を信頼して、赦された喜びの中に生きることこそ、この方が望んでおられることなのだ。7月の10日が「贖罪の日」と定められているのは、まさにそれを示している(レビ23・27)。

あ主を喜ぶことはあなたがたの力です。悔い改めだけでは力はやってこない。罪赦されたとの確信こそが力をもたらすのである。リバイバルの目標は、クリスチャンが本当の喜びを経験し、輝いて生きることだ。そして、その喜びを他の人々と分かち合うとき、リバイバルはさらに拡大する。

結論

私たちの信仰生活にもリバイバルが必要ではないだろうか。み言葉を真剣に聞き、悔い改め、赦しの喜びに生きるなら、リバイバルは実現する。それは最初は個人的なものから始まるが、野火のように周囲に広がっていくのである。

研究資料

(長田)

リバイバル(信仰復興)

「信仰復興とは、神の民に与えられる聖霊による霊的覚醒である。ラテン語のrevivio(再び生きる)をもとに、通常、『リバイバル』と日本語でも言われている」(いのちのことは社「新キリスト教辞典」『信仰復興』の項)。

ペンテコステの日に教会に与えられた聖霊の注ぎは、使徒行伝の中でも幾度か繰り返し記録されている。その後のキリスト教の歴史の中でも、ルターに始まる宗教改革、17世紀ドイツの敬虔(けいけん)主義運動、18世紀英国のメソジスト運動、18、19世紀アメリカにおける二度にわたる大覚醒(だいかくせい)など、キリスト教の歴史は、リバイバルの歴史と言ってもよい。教会の信仰が形骸化(けいがいか)し、その本来の命を失ったかに見えるとき、神は教会の中に繰り返し聖霊によって命を注ぎ込んで来られたのである。現代においても、私たちはこのようなりバイバルを切に祈り求めるべきではないだろうか。

リバイバルの特徴として、み言葉の真理の回復が挙げられる。神の栄光と神聖、自らの罪深さ、イエス・キリストの救いの素晴らしさなど、これまで知識として慣れ親しんできた事柄が、突如圧倒的な形で多くの信仰者たちの心を支配するようになる。リバイバルとは、神の民の中でみ言葉が聖霊によって圧倒的な形で霊的真理として受け止められるようになることと言ってもよいであろう。その意味で、ネヘミヤ8章は、旧約聖書における

リバイバルのひな型と見ることができる。

テキスト

1 その時 7・73からの続きで、7月。恐らく、エルサレム城壁完成の翌月のことであろう(6・15、城壁の完成が6月)。クロス王の解放令によるエルサレム帰還(紀元前538年)後、神殿再建(紀元前536年～516年又は515年)に引き続き、ネヘミヤの指導のもと城壁再建が進められ(1～6章、紀元前445年に完成した。こうして、目に見える部分での復興が進められてきたが、この時、ユダヤ人たちは、神の民としての内面的な復興が必要であることを感じていた。

エズラ 祭司であり、また、モーセの律法の書に精通し、学者として指導的な立場にもあった彼は(エズラ7・6、11)、エルサレム帰還(エズラ8・1)後、民の信仰上の改革の役目を担った。

3 あけぼのから正午まで 広場での律法の朗読は、朝から正午にまで及んだ。民がいかにみ言葉を慕い求めていたかが伺える。

5 彼が書を開くと、すべての民は起立した 朗読は、長時間に渡ったにもかかわらず、み言葉を畏れ敬う民は、起立せずにはおれなかった。

6 エズラは大いなる神、主をほめ、民は皆その手をあげて 聖書の朗読は、やがて神への賛美とひれ伏しての礼拝に導かれる。ここには自然発生的な礼拝の姿を見ることができる。

7 レビびとたちは民に律法を悟らせた レビびとたちがエズラを助け、律法の意味を解き明かした(8)。

9 この日はあなたがたの神、主の聖なる日です。嘆いたり、泣いたりしてはならない 7月1日は、ラッパの祝日(レビ23・23)。それゆえ、民の指導者たちは、嘆き悲しむ民に、嘆かないようにと勧める。

すべての民が律法の言葉を聞いて泣いたからである 朗読され、解き明かされた神のみ言葉が、人々の心を貫き、刺し通した。ここに、み言葉と聖霊によって、人々の心の中になされた信仰復興のみわざを見ることができ。

10 この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。主を喜ぶことはあなたがたの力です 再び、聖日であることを思い起こさせ、泣くことをやめるように勧めます。そして、主を喜ぶことの中に自分たちの力があることを思い起こさせる。真の悔い改めは、悲しみ嘆きでとどまらず、主への感謝と賛美、喜びに導くものであり(IIコリント7・10)、賛美、感謝、喜びが、信仰者に大きな力を与える原動力となる(1テサロニケ5・16、18、ピリピ4・6、7)。なお、直訳は、「主の喜びはあなたがたの力」であるので、「主はあなたがたが力強くあることを喜ばれる」と受け取ることも可能。

12 すべての民は去って食い飲みし、また分け与えて、大いに喜んだ。これは彼らが読み聞かされた言葉を悟ったからである 民は、指導者たちの勧めに従い、食い飲みし、食べ物を分かち合い、喜んだ。その喜びは、単に喜ぶことがふさわしい日であったからというにとどまらず、み言葉によって神の御心と恵みを悟ったゆえの喜び。

聖書 ネヘミヤ8・1～12
タイトル 喜びに満ちて
暗唱聖句 主を喜ぶことはあなたがたの力で
す。ネヘミヤ8・10
目標 聖書の神を喜んで力に満たされよう。

導入

(小野)

新しい年になって2週間たちました。お正月には「お節料理」を食べましたか？ その中には、いろいろありますが、煮豆とか「まめ」でも豆じゃない、高野豆腐そして昆布とか。「よろこぶ」という昆布だそうですよ。やっぱり喜ぶと言うことはとてもいいことだし、いつも喜びがほしいという願いを込めて、年の初めにみんなで食べるんでしょうね。皆さんが喜ぶのはどんな時なのか？ 元氣もあり、おいしいものをいっぱい食べる時？ お年玉をたくさんもらった時？ お友だちと大好きなゲームをして遊んでいる時？ かわいくてたまらないペットと一緒にいる時？ 他にもきつといういろいろと喜ぶことがあるでしょうね。さて、今日の聖書から学ぶ喜びは今まで出てきた喜びの中にはないものです。ネヘミヤが人々に与えた喜びはどんな喜びだったでしょう？

主のみ言葉の力

ネヘミヤは紀元前5百年くらいにペルシャからエルサレムに帰って来て、壊れた神殿を民と一緒に修理しました。今日の聖書には、ネヘミヤより10年くらい前に主の宮の復興のためにエルサレム

に帰って来ていたエズラと一緒に集会を開いたことが書かれています。民は皆心をびったり一つにして、水の門の前の広場に集まりました。学者であり祭司だったエズラは神様の律法の書を読みました。なんと、「あけぼのから正午まで」！ きっと6時間くらいかもつと長い間ですよ。主のみ言葉がどんどん読まれ、読み続けられていったのです。そして「その意味はこうですよ、ああですよ、わかりますか」と言って解き明かして、聞いている人がよくわかるように教えてあげたのです。するとどうしたことでしょう。聞いている人々の眼が赤くなつてきて、みるみるその眼が涙にぬれ、ほおに伝わって落ちてきました。みんな泣き出してしまったのです。主のみ言葉を聞くうちに、民は、自分たちが神様の教えから遠く離れて、たくさん罪を犯してきていることがハッキリとわかったからです。まことの神様以外の偶像を拝んだり、形ばかりの礼拝や犠牲をささげていることをみ言葉によって示されたから、泣かずにはおれなかったのです。

主を喜ぶ力

それを見て、ネヘミヤとエズラと、律法を教えていたレビ人たちは、すべての民に向かって言いました、「この日はあなたがたの神、主の聖なる日です。嘆いたり、泣いたりしてはいけません。おいしいものを食べ甘いものを飲みなさい。みんなで分け合つてそうしなさい。この日は主の聖なる日だから悲しんだり泣いたりしなくてもいい。主を喜ぶことはあなたがたの力です」と。

この日は、何よりも神様がお喜びになるリバイバルの日となりました！ み言葉によって罪がわか

り、心から悔い改めた民に、主のゆるしが与えられて、喜びがわき上がったのです。ゆるしの恵みをくださる神様を喜ぶことが、すべてにまさって心の力となるのです。民は涙をふいて、すがすがしい清い心とされて、心から大いに主を喜び、力に満たされました。

例話ーリバイバルの器D・L・ムーディ

アメリカの古い町ボストンにあるマウント・ペルノン教会の日曜学校に一人の新しいメンバーが迎えられました。ドワイト・ライマン・ムーディ君です。がっしりした体格の少年には、分厚い聖書からヨハネによる福音書を探るのは大変でした。エドワード・キンボール先生の聖書が開かれているのを、そつと見せてもらった時のドワイトの喜び。その後先生は、熱心に日曜学校に通うこの少年を1度訪ねて、ゆつくりとイエス様の救いを話してみなければと考えるようになりました。数ヶ月後、「神様は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる」とのみ言葉を胸にキンボール先生はホルトン靴商店を訪れました。「靴を包みながら、僕、さつきから先生のことを考えていました」とうれしそうに話すムーディに、先生はみ言葉と神の愛を語り、少年は自分の罪を悔い改め、イエス様を救い主と信じました。1856年春、後の大伝道者ムーディ18歳の輝きに満ちた信仰生涯のスタートでした。アメリカだけでなく、1882年にはケンブリッジ大学で主の言葉を語り学生のリバイバルがあり、バックストン青年も救いと主の喜びに入れられました。主を喜ぶ本当の喜びで力に満たされよう！

♪ほくの心の中が♪(ブレイズ・ワールド4番)

ワーク A

話し方のヒント

神様のみ言葉を聞いていた人々は、自分が神様から遠く離れていたことに気づいて、泣き出しました。神様に「ごめんなさい」という気持ちが出てきたからです。そして、心から神様におわびした人の心には、今度は神様からゆるされた喜びがあふれてきました。ネヘミヤもエズラも、本当にうれしかったでしょうね。私たちも、いつも神様のみ言葉である聖書を読みましょう。

ワークについて

ばらばらになっている絵を組み合わせて、1枚の絵にしましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 祭司エズラは律法の書に通じ、広場で朝から正午まで、朗読しました。民はみ言葉を慕い求め、畏れ敬い、起立しました。そして、罪が示されて、真の悔い改めの涙を流しました。

●質問3 悔い改める者は誰でも、主のゆるしの喜びが与えられ、賛美と感謝となり、主の力に満たされました。

ワーク C

み言葉【主を喜ぶ】【力】

●モーセの律法の書は、いつしか失われ、BC 622年ヨシヤ王の時に神殿で発見されました。この時、律法を読み聞かせられた王と民は、泣いて悔い改めました。その様子は今週の箇所と似ており、それが歴代志下34・14～33に出ています。確認しておいてください。また、詩篇119・130「み言葉が開けると光を放つて、無学な者に知恵を与えます」を思い出させる箇所です。

●どうして民は喜んだのか、主を喜ぶとは何か、力とはどういう力かを一緒に考えます。それらは人間の中にあるものではなく、み言葉と聖霊によるものであることを確認します。

ワーク D

●3の④の質問は、神様に祈ること、聖書の言葉を読むこと、神様を信じることなどとなりますが、あらゆる物を通して、神様を知り、実感し、信頼し、お祈りすることなど全員の体験などを話し合えば、神様がもつと身近に、現実を感じられるのではないのでしょうか？

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 民が律法の書を開いていたときの情景を思い描いてみよう。(あけぼのから正午まで、起立したまま聞き続けた)
- 2 民が律法の言葉を聞いたとき、どのように反応しましたか。(嘆いた、泣いた/9節)
- 3 ネヘミヤやレビびとたちは、民に対して何と命令していますか。(泣いてはならない、むしろ主を喜べ/9～11節)

考えてみよう

- 1 6節から、み言葉を聞く(読む)姿勢はどうあるべきだと思いますか。(心を低くして祈りながら)
- 2 9節で、民が律法の言葉を聞いて泣いたのは、なぜだと思いますか。(神にそむいてきた罪を悔い改めたから)
- 3 12節で、民が大いに喜んだのはなぜだと思いますか。(神にそむいてきた罪を赦されたから)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 み言葉を聞いた時、自分には罪があると示されたことがありますか。
- 2 示された罪を、神様におわびしたことがありますか。
- 3 イエス様の十字架の贖いによって、自分の罪を赦していただいたという体験がありますか。
- 4 イエス様が自分と一緒に生きてくださるという喜びを経験していますか。



聖書 エステル4・15-17

テーマ 献げて生きる

序論

(鎌野)

エステル記は、エズラやネヘミヤがエルサレムで活躍していた時代から40年ほど前に、ペルシアの国でおこった大事件を描いている。このころ、ハマンという人物がたくらんだユダヤ人虐殺計画を、当時の王妃であったエステルが、自分の身を以て防いだのである。この書には、神とか祈りとかいう言葉は一度も出てこないのだが、普通の人々が大切に思っている3つのものをエステルが献げたことは、神に身を献げる生き方がどういうものかを私たちに、はつきりと教えてくれる。

一、自分の将来を献げた

王妃候補として選ばれたとき、エステルはそれを喜んだであろうか。彼女は自分が孤児であり、またペルシアの国では少数民族だったユダヤ人であることを、ちゃんと自覚していた。美人だった彼女には、あるいは将来を約束していた恋人もいたかもしれない。しかし当時、王の命令は絶対で、王宮への召しを断ることなどとても考えられなかった。幸い、父親がわりに育ててくれたモルデカイは王宮の警備隊員だったので、当然彼に相談しただろうが、彼も、「ユダヤ人であることを知らずな」と言うだけで、王の命令に従う以外に方法がないと判断したに違いない。

「エステルはモルデカイの言葉に従うこと、彼に養育てられた時と少しも変らなかつた」(2・

20) という言葉に注目したい。彼女は、自分の将来がどうなるかわからなかつたが、モルデカイが近くにいることを頼みとして、王宮に入った。彼女はまさに自分の将来を献げたのだ。

二、自分の安楽な生活を献げた

エステルは王のちょう愛を受け、晴れて王妃となった。それまでの貧しく厳しい毎日は、安楽な生活へと一変した。多くの人は、彼女が幸福の絶頂にあると思っていたであろう。しかしそのころ、ユダヤ人虐殺計画がぼつ発したのである。モルデカイはこの事実をエステルに告げ、八彼女が王のもとへ行つてその民のために王のあわれみを請い、王の前に願い求めるよう、彼女に伝言した。

これは深刻な問題だった。というのは、王が絶対な権力を持つ国においては、たとい王妃であっても、政治的な事柄に意見を述べることは困難だったからだ。ひよつとして、前の王妃ワシテのように失脚するかもしれない。しかし、この場合においても、彼女はモルデカイの言葉に従い、王の前に出る決意を固めていた。安楽な生活より大切なことがあることを確信していたからである。

三、自分の命を献げた

王の前に出るのは、単に失脚する可能性があるだけのことはなかつた。たとい侍臣であっても、権力の座をねらつて王に反逆することがしばしばあった時代である。八すべて召されないのに内庭にはいつて王のもとへ行く者は、必ず殺されなければならない、という法律があるのも当然だった。

しかもエステルは、過去30日間、王から召されないなかつたのである。多くの王妃や側女に囲まれていた王だから、他の女性に心が移ってしまったのかもしれない。エステルは自分の命を失うかもしれないことを覚悟せねばならなかつた。

しかし、モルデカイは彼女に言う。八あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかつたとだれが知りましょう。これで彼女の心は決まつた。だが不安は隠せない。彼女はモルデカイに、八すべてのユダヤ人を集め、わたしのために断食してください、と依頼する。ここには断食して、神に祈つてほしいという要請が隠されている。祈った上で、八わたしがもし死なねばならないのなら、死にます、と、神の御心なら、自分の命をも献げることを表明したので。

神・祈りという言葉は一度も出ていない本書であるが、エステルの生き方は、私たちクリスチャンが見習うべき尊い生き方であることがわかるのではないだろうか。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」(ヨハネ15・13)と主イエスが語られる5百年も前に、まさにエステルはそうに生きたのである。

結論

私たちは、自分の将来や自分の安楽な生活、また自分の命を、自分のために用いてはいないだろうか。それは神の御心ではない。エステルがモルデカイの言葉に従ったように、私たちも聖書の言葉に従い、それらを献げて生きていこう。そのとき、神はすばらしい業をなしてくださる。

研究資料

(長田)

献身―神の召命に応えて

「すべてのわざには時がある」(伝道の書3・1)とあるように、神に献げるのにも時がある。神が「今」と言われるときに、献げるべきものを献げることができるなら幸いである。

エステル記は、全編、神の摂理の不思議さで満ちている。時代は、紀元前480年前後、ユダヤ人のエルサレム帰還が行われた後、ペルシア帝国に残ったユダヤ人たちに関わる出来事。重臣ハマンによるユダヤ人殺害計画がなされる中(3章)、神の救済のみわざはいかに進められたか。王妃ワシテの王命拒否(1章)、続く王妃選びでユダヤ人エステルが選ばれたこと(2章)、モルデカイの功績の記録(2・21、23)、エステルの酒宴招待(5章)、モルデカイの功績記録発見と褒賞(6章)、エステルの訴え(7章)、ユダヤ人擁護の勅令発布(8章)と続き、神のユダヤ人救出のみわざが進められる。エステル記には、「神」の名が一度も登場しない。この書はまさに「自己自身を隠される神」「摂理の中で働かれる神」のみわざの書である。

そういう中、神に大きく用いられたのがエステルである。「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかつたとだれが知りましょう」(14)とのモルデカイの言葉によって、彼女は立ち上がる。自らの上に働く摂理の神の御手を覚え、神の召命に応えた一女性の姿は、現代に生きる私たちにもチャレンジを与えている。

テキスト

- 1 モルデカイ 彼は、おじの娘エステルに両親がなかつたため、彼女を養女として養育てた(2・7)。すべてこのなされたこと 12月13日と、月日を指定してユダヤ人殺害の勅令が出されたこと(3・13)。荒布をまとい、灰をかぶり 悲しみ嘆きの表現。
- 2 王の門の入り口 彼は城門をあずかる役目を受けていたようである(2・19、3・3)。
- 3 王の命令と詔をうけ取った各州では ペルシア帝国全域でのユダヤ人の嘆きが描かれる。
- 4 王妃は非常に悲しみ 王の勅令を知らない彼女は、ただ養父の嘆きの様に心の痛みを感じた。
- 7 ハマンがユダヤ人を滅ぼすことのために王の金庫に量り入れると約束した銀の正確な額 3・9。詔書の写し(8)と共に、事がらがあいまいな憶測に基づいたものではなく、正確で、間違いないことであることを示すもの。
- 8 彼女が王のもとへ行つてその民のために王のあわれみを請い、王の前に願い求めるように モルデカイは、単刀直入にエステルへの期待を言い送る。
- 11 すべて召されないのに内庭にはいつて王のもとへ行く者は、必ず殺されなければならないという一つの法律 王の権威の誇示のためと同時に、暗殺者などから王を守るための法律。
- 金の笏 ペルシア王は常に長い杖を持っていた。わたしはこの三十日の間、王のもとへ行くべき召をこうむらないのです 王の寵愛(ちょうあい)を受けただけのエステルも(2・17)、1ヶ月召し

をこうむらない状況では、王の前に出て命の保障はないことを覚悟しなければならなかつた。

13 王宮にいるゆえに難を免れるだろうと思つてはならない エステルがユダヤ人であることは人々には知られていない(2・20)。そうであっても、やがて難が彼女の身に及ぶ可能性はあつた。

14 あなたがこのような時に黙っているならば、ほかの所から、助けと救がユダヤ人のために起るでしょう 神は、ユダヤ人を救うため、無限の方法を持つておられるとの信仰的確信。

しかし、あなたとあなたの父の家とは滅びるでしょう 今同胞のために立ち上がらないなら、神がその責めをお与えになるであろうとの警告。

あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかつたとだれが知りましょう エステルが王妃とされたことの背後に神の摂理の御手を認めないだろうかとの問いかけ。恵みによつて救われたのは、私たちもまた救済のために立ち上がるためではないだろうか。

15 そこでエステルは命じてモルデカイに答えさせた モルデカイのチャレンジを神からのチャレンジとして受け止め、応えるエステル。

16 わたしのために断食してください 厳しい状況の中、神への切なる祈りこそが鍵。

王のもとへ行きます 明確な決断。わたしがいもし死なねばならないのなら、死にます 生も死も神に委ねきつた者としての言葉。彼女の死を覚悟しての行動を主はお用いになり、ユダヤ人は見事に救済される。

聖書 エステル4・1～17
 タイトル ささげる愛に満ちて
 暗唱聖句 わたしがもし死なねばならないのなら、死にます。エステル4・16
 目標 ささげて生きる、新しい尊い生き方を知る。

導入

(小野)

おやつは一番大きいのがいい、おかずも一番たくさんほしい。プレゼントも一番高いのを一番先にもらいたい。デパートやスーパーの安売りも一番先に行つて買いたいというのが普通の人の、神様のことを知らない人の心とやり方ですね。もしかして神様を信じてからでもこんな心が残っているかもしれません。そういうのを古い人の心と言いますよ。この1月は「新しく生きる」というテーマで学んでいます。今日学ぶエステルは生き方は全く新しい、尊い生き方です。「ささげて生きる」、それは私のために尊いひとり子イエス様を与えてくださった神様の愛と、私のために十字架で命までささげてくださったイエス様の愛を本当に知ってはじめてできる新しい生き方、愛に満ちた生き方だと思えます。まずエステルのことを見てみましょう。

命を献げたエステル

時は紀元前478年、広大な国を治めていたペルシャのアハシユエロス王のために新しい王妃が選ばれました。その名はペルシャ名でエステル(星)、ユダヤ名でハダッサ(ミルトスの木)でした。信仰深

いとこのモルデカイに養女として育てられた人でした。エステルは王妃になつて王宮に入つても、ずっとモルデカイの言葉に従う、信仰深い忠実で謙そんな人でした。突如としてエステルやモルデカイの同族ユダヤ民族に危機がやってきました。王の1番の大臣ハマンが、モルデカイが自分を拝まないのに腹を立てて、ユダヤ人全滅計画を立て、まんまと王のゆるしを得て、その知らせが全国に送られました。首都ササの都は大慌て。モルデカイは死に物狂いで衣を裂き、荒布をまとい、灰をかぶつて町中大声で叫んで王の門の入り口まで行きました。またすべての州のユダヤ人たちも彼と同じようにして嘆き悲しみました。エステルは一体何事?と侍従ハタクを遣わしてモルデカイに聞いてくるよう命じました。やがてハタクはすべてを知らせて、さらにエステルに、王のもとへ行つて願い求めるようにとのモルデカイの言葉を告げました。しかし、30日間王の召しをもらっていない自分が王のもとへ行くことは死を意味しているとモルデカイに告げたとき、彼は言いました、「あなたもユダヤ人だ。同じ目に合うのだ。もしあなたが黙っているなら他の所からきつと助けがやってくる。しかしあなたとあなたの家は滅びる。あなたが王宮に迎えられたのはこの時のためではないのか!」と。エステルはササにいるユダヤ人全員に断食(祈り)を願い、自分も侍女たちも3日間そうするから、そして私は法律にそむいてでも王のもとへ行きます。「私がもし死なねばならないのなら、死にます」と決死の覚悟をしました。愛する同胞のユダヤ人たちのために若い命をエステルはささげたのでした。

命を注いだマザー・テレサ

うら若いアグネス・ボワジュ(テレサ実名)は生地旧ユーゴスラビア、スコピエにあるイエズス会所属の聖心教区カトリック青年グループに自ら進んで加わっていた時、宣教への召しを強く感じ、1928年18歳でアイルランドのロレット聖母修道会に入会し、3ヶ月過ごしました。1929年カルカッタ派遣、1937年終生誓願を立てて、「テレサ」という修道名が与えられました。イエスの言葉を顔面どおり受け取る数少ない人間の一人として、マタイ25・40を聞いたのです。数年後、「召命中の召命」神からの呼びかけを聞き自分の生涯を捧げるべき仕事を悟りました。1948年8月16日、シスター・テレサはカルカッタの街外れにあるスラム街の厳しい現実の中にいました。まもなく教え子たちと共に新しい修道会が形成されました。神の愛の宣教者たち、貧民街で神の愛を伝えるメッセンジャーたちでした。産み捨てられた孤児たちを育てる働きもしました。またある日、歩道で死にかけている女性を見つけ、彼女の苦しみを和らげベッドで心静かに人間らしく死なせてやりたいと思つて連れて帰つたこの愛の行為をきっかけとして生み出された「死を待つ人々の家」の働きなどもしました。「愛は、キリストご自身がご自分の死で示してくださったように、この世で最も偉大な贈り物なのです」(テレサ)。来日時、このお話に感動した学生たちがカルカッタへのボランティアを申し出たとき、マザーは彼らに感謝した後「カルカッタまでわざわざ来なくても、あなたがたの『周囲のカルカッタ』で働く人になつて下さい」と言われました。♪愛アイあい♪

(ノアオリジナル礼拝讃美集Vol.3—28番)

ワーク A

話し方のヒント

エステルは、王妃になつてもいばつたりしないで、仲間のユダヤ人たちのことを考える優しい人でした。そして、ユダヤの人々を助けるために死ぬことも覚悟しました。神様は、そのようなエステルを守って、ユダヤ人を救ってくださいました。神様は、すばらしいお方ですね。そしてイエス様は、私たちを救うために十字架で死んでくださいました。何という大きな愛でしょう。

ワークについて

それぞれの絵に色をぬり、ペープサートを作つて、今日のお話を振り返りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 モルデカイの養女エステルは、アハシユエロス王の王妃として迎えられました。ハマンがユダヤ人を滅ぼそうとしているのを知つて、エステルはモルデカイにお祈りの応援を頼みました。

●質問3 エステルはモルデカイを通して、自分が何のために王妃とされたのかを悟ることができました。そして、それを神様からのチャレンジとして受け止め、神様にすべてを委ねきり、死を覚悟して、ユダヤ人の救いのために行動しました。

ワーク C

●題に16節の文語訳を持つてきました。今日のみ言葉を口語訳で書きながら、同じ意味だよと教え、この美しく勢いある文語訳を覚えてしまいましう。人生の中できつと役に立ちますから。(ただし、送り仮名は現代仮名遣いと違います。)

●エステルがモルデカイの言葉(神の御心)に従つてささげた3つのこと①自分の将来、②安楽な生活、③自分の命を確認します。

●そして、この自分が救われたのも、他の人々の救いのためだと自覚させます。

ワーク D

●問題に出てくるようなことが実際に起きたとき、自分はどう考えるか、どんな気持ちになるか、またどうするかを考えてみましょう。

●自分のことはわかりません。でもイエス様の気持ちはなかなかわかりません。死を覚悟で同族の民を救う決心をしたエステルの気持ちや、さらにまた私たちのために十字架におかかりくださったイエス様のお気持ちを考える時を持ちたいと思います。

中高校へのヒント

観察してみよう

- 8節でモルデカイは、エステルに何を命じましたか。(王がユダヤ人を救うように頼むこと)
- 12節では無断で王のもとへ行く者は、どうなると書いてありますか。(殺される。ただし王が金の効(しやく)を伸べれば生きる)
- 16節でエステルは、ユダヤ人たちに何をして欲しいと願っていますか。(自分のために3日間断食して欲しい、つまり祈つて欲しい)

考えてみよう

- エステルは、なぜユダヤ人に断食を願つたと思いますか。(みんなで真剣に祈れば、神様が王の決定を変えてくださると信じたから)
- 16節でエステルは、たとえ殺されることになつても王にお願いしようと思ったことについて、どう思いますか。
- 14節を見て、エステルが神様によって王妃とされたのは、何のためだと思いますか。(ユダヤ人が救われるため)
- 自分に当てはめてみよう
- あなたは、まわりの誰かが救われるために生かされていると考えたことがありますか。
- イエス様を信じないで滅びようとしている人が沢山いますが、あなたはどう思いますか。
- イエス様の救いを知っているのに黙っているのは良いことでしょうか。あなたは何をしたらよいでしょうか。



聖書 IIコリント5・11～21 テーマ キリストにあつて

序論

(金井)

新年を迎えて早くもひと月が過ぎようとしている。年明けの新鮮な気持ちも、多忙な生活の中で吹き飛んではないだろうか。世にあるすべてのものは古びていく。しかし、日毎に新しくされて、永続するものがあることを聖書は教える。本日は新しい力を受けてタフに生きる秘訣を学びたい。

一、キリストによつて

コリント人への第二の手紙は、紀元56～57年ころに、パウロがマケドニアからコリント教会の人々に書き送ったものである。パウロは第2回伝道旅行の途中紀元50年ころにコリントで伝道して、教会を生み出した(使徒18:1～18)。その後も彼は地中海世界を駆け回りつつ、コリント教会に手紙を書き、使者を送り、自ら訪問して、牧会的な関わりを続けた。この教会には分裂、分派、不品行、偶像崇拜、異言、復活の否定など多くの問題があった。

加えて、この教会にはパウロの使徒としての權威を認めず、彼を中傷する「にせ使徒」(11・13)がいた。彼らは「異なるイエス」、「違った霊」、「違った福音」(11・4)を持ち込んだ。信徒も「うわべの事」でパウロを批判した(10・7、10)。教会の土台は使徒伝来の正統的信仰である(1コリント15・1～11、エペソ2・20)。それゆえパウロはこの手紙で、自らの使徒としての權威について弁

明し(1・1、10・8)、福音の真理を弁証した。にせ使徒が「うわべだけを誇る」のに対して、パウロは「心」を誇る。彼の心には「キリストの愛が……強く迫っている」。かつてパウロは教会を迫害したが、キリストと出会ってすべてが一変した。キリストによつてその罪が赦された恵みを、彼は常に意識して生きていた(1コリント15・8～10)。△神はキリストによつて、わたしたちを自分と和解させ「てくださった。△神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあつて神の義となるためなのである」。キリストの身代わりの死のゆえに無罪とされて、神に受け入れられた。その喜びがパウロの宣教の原動力であった。

二、キリストにあつて

神の愛は、イエス・キリストの十字架上の死という歴史的事件において完全に啓示された。神の愛は聖霊によつて今も私たちの心に注がれている。パウロはキリストにある(in Christ)、「主にある(in the Lord)」ある「はこれに類似した表現を彼の手紙において多用している。17節を「キリストのうちにある」(新改訳)、「キリストと結ばれる」(新共同訳)と訳す聖書もあるように、この表現は、現在において継続しているキリストとキリスト者との内在的な深い人格関係を表す。△だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」。この新しさは質的な新鮮さであり、その結果はずっと継

続している。私たちはキリストの復活の命をいただいて、新しく生まれた。今もその命によつて、私たちは生かされている。それゆえ、「たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく」(4・16)のである。

三、キリストに代わつて

キリストにあつて生きる者は、キリストの命を代価として買い取られ、キリストと心を一つにして、キリストのために生きる。△彼がすべての人のために死んだのは、生きている者がもはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえったかたのために、生きるためである。△神は……和解の務をわたしたちに授けて下さった。△神は……わたしたちと和解の福音をゆだねられた。△神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。△私たちが△キリストに代わつて△人々に神との和解を勧める。何と榮譽ある務めか！

結論

史上最高の神学者であり、最大の伝道者であるパウロでさえ、その職務を中傷された。私たちはこの事実に驚きつつ、この手紙によつて彼の肉声を聞き、「慰め」を受ける(1・3～6)。自分の職務、例えばCS教師であることを他人から中傷されたら、あなたはとうするか。私たちを選び、この職務に任じたのは神である。私たちは他人から何と言われようと、忠実に職務に励もう。△キリストにあるならば、主が常に新しい力を注いで私たちを造り変え、強め、助けてくださる。

研究資料

(足立)

この箇所は、IIコリントの中心部分にあたる。パウロは先ず自分の伝道スタイルへの批判に答えることで、神との和解の理由を明確にしている(5・11～15)。そして、和解に基づく神学的基盤について述べている(5・16～21)。

テキスト

11 主の恐るべきことを知っている 主を畏れることがパウロの確信と関係している。すなわちやがて神の前に立ち、自分が成して来たことを弁明する時こそがゴールである(5・10)。

16 それだから、わたしたちは今後、だれをも肉によつて知ることはすまい パウロはキリストの死の重大さを自覚したとき以来(14)、彼にあらわされたキリストの愛は彼の生涯を動機づける力となってきた。またそれだけではなく、彼の全視点が変えられてきた。彼はもはや人間的な視点からではなく、恵みの賜物として神の前に立つ存在としてだけ自らを誇っている(12)。彼は自分の死(14)とのち(15)という基本的な確信を得てから、皮相的に人を判断することを止め、永遠の出現に基づいて考えるようになった(参照、ローマ2・28～29、Iコリント5・12～13、ガラテヤ3・28、6・15、エペソ2・11～22、コロサイ3・11)。かつてはキリストを肉によつて知っていた(使徒9・1～2、26・9～11)。

17 だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である パウロはここでキリスト

の死と復活の所産を述べている。人が信仰によつてキリストのからだの一部とされるとき、神の側における新しい創造の行為が起こっている。過ぎ去った(パレルセン)という動詞は不定過去形で古い関係が終わったことを意味し、なった(ゲグネン)という動詞は完了形で別の仲間にとどまるようになったことを意味している。この新創造への参加は16節で言及した変えられた視点や新しいいのちのきよさ(参照Iコリント6・9～11)に反映されている。明らかにパウロは、古いものとキリストのいのちにある新しさとの間にある断絶を強調している。

18～19 すべてのこれらの事は、神から出ている16節の新しい態度と17節の新創造への言及。神は第一の創造(参照4・6)の創造主であつたように、確かに第二の創造の創始者である。この点においてパウロは和解の事実を述べることで、贖罪の主観的側面から客観的側面へと推移する。和解はキリストの死に基づき、罪深い人間に対する神の聖なる疎外を和らげるものであり、神と人との間にある憎悪を取り除き、人が神との適切な関係を回復するための神の聖なる行為である。パウロは和解の概念を大切にしている(参照ローマ5・10～11、コロサイ1・20～22)。和解は礼儀を無視することや敵意を割引することではなく、神が罪人にもたれた疎外感を完全に排除することである。18、19節は神が和解の行為者であることを明確にしている。そしてキリストは和解を成し遂げるための使者であり、和解はキリストにあつて、またキリストを通して成就した。

20 平和の福音(エペソ6・15)の使者として、和解という朗報をパウロは持ち運ぶ。彼はキリストによつて正式に任命された使徒としての責任を重く受けとめつつ、キリストに代わつて伝道者の働きを続けていた。またそれだけでなく、キリストにより既に成就した和解の恩恵をコリントの聴衆が受けとめるように、招いている。和解の福音の伝達者は、客観的な和解のみわざ(十字架)とそれが罪人にどう適用されるかを結びつける神の作品である。この視点から和解は成就した事実であると同様に、今後も継続する過程である。

21 神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた これこそ神が私たちと和解された基本的な記述である。この表現からなぜ十字架が、キリストにある神の愛をあらわしているかがよくわかる。新約聖書は一貫してキリストは罪を知らないお方であると伝えている(参照マタイ27・4、24、ルカ23・47、ヨハネ8・46、ヘブル4・15、7・26、Iペテロ1・19、2・22、Iヨハネ3・5)。父なる神がキリストを罪とされた行為が持つ栄光の目的は、信者がキリストにあつて神の義となるためであつた。これが義認の本質を伝えている。信者がイエスにある信仰(「信じ」3・9)を基盤に神の前に正しい立場を神から与えられるだけでなく、キリストにあつて信者はある意味で神ご自身をあらわす義を事実共有するとパウロはここで言っている(参照Iコリント1・30)。

参考図書 Harris,M.J., "2Corinthians: The Expositor's Bible Commentary, Vol.10 (Zondervan). Kruse,C.G., 2Corinthians(TVP).

聖書 IIコリント5・11～21
タイトル 新しい命に満ちて
暗唱聖句 だれでもキリストにあるならば、
その人は新しく造られた者である。
IIコリント5・17
目標 キリストにある新創造の恵みにあ
ずかる。

導入

(小野)

新年あけましておめでとう！とあいさつしてか
らもう明日で1月も終わります。1ヶ月もたつと
新しくはき始めた靴もだいぶ汚れてきたかしら。
新しい洋服も古くなってくるし、新しい鉛筆も短
く古くなり、ノートも使い古してきていますよね。
新しい自転車も少しほこりがついてきて、古い感
じになりましたか？ そうなのです。すべて、もの
は時がたつと古くなってしまふのです。じゃあ、
本当に「新しい」って何？ いつまでも続く「新し
い」ものがどこかに本当にあるの？ あるのです！
それが今日学ぶ「キリストにある新しい命」なの
です。新しく生きるというテーマを締めくくるの
にぴったりですね。

キリストにあつて新しく造られる

このお手紙は、パウロ先生によって生み出され
たコリントの教会にあてて書かれたパウロ先生
のお手紙です。パウロ先生自身が「キリストにあ
つて新しく造られる」ということを見事に体験し
たのです。元はと言えばバリバリのユダヤ人、パリ
サイ人、律法に詳しい人で、ユダヤ名はサウロと

言いました。神様の律法をしっかりと守つてはじ
めて神様に受け入れられるのだと必死になつてい
るのに、「イエス・キリストの十字架をただ信じる
だけで、すべての罪が赦され、神の子とされ、受
け入れられると伝える、キリストの弟子たちは間
違つている！」と、激しく迫害しました。

ところがダマスコにいるクリスチャンたちを捕
らえようと息を弾ませているとき、突然まぶしい
天からの光！「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫
害するのか」と復活のキリストが現れました。サ
ウロは3日間目が見えず、何も食べたり飲まない
で過ごしました。その中で、キリストの十字架が
わかり、悔い改めて回心し、キリストの迫害者か
ら、熱心なキリストの弟子へと造り変えられまし
た。本当に全く新しいパウロとされたのです。

誰でも新しく造られる

これはサウロだけのことではありません。世界
中の誰でも、キリストにあつて新しく造り変えら
れるのです。私たちはサウロのような大迫害者で
はないのですが、きよい神様の目から見ると、と
ても汚れ、醜く、弱い、罪だらけの者です。そん
な恥ずかしい自分を変えたくても変えられない、
いやな自分から抜け出したいけど絶対に抜け出せ
ない私たちです。思い出してみれば、あの罪、こ
の罪、誰にも内緒にしているけれど、心の中にい
っぱい詰まっています。どんなにきれいで新しい
洋服を着ても、だめなものだめ。お金持ちも貧
しい人も、元気な人も病気の人も、頭のとてもい
い人も普通の人も、男も女も、どの国の人も、
誰でもみんな罪を犯しながら毎日過してしまふ。
ただ、そんな私たちの罪を負つて十字架で死んで
くださり、よみがえられたイエス様の前に「ごめ

んなさい。イエス様信じます」と告白するなら、「新
しく造り変えてくださいます」！外側は同じよう
でも中身が全く新しくされるのです。皆さんはも
う新しく造り変えられていますか？

例話「生きるつてすばらしい」

田原米子さんのこと

1955年2月、1人の女子高校生が東京・新宿駅で
走ってくる電車に身を投げました。一命は取りと
めたものの両足片腕を切断、右手の指3本を残す
のみの体となつてしまいました。18歳の米子さん
は鉄道自殺未遂で、絶望の日々を病院のベッドの
上で送っていました。左腕はひざの下、右は足首
のあたりからなく、左腕は肩の付け根からの切断
でした。16歳のある日突然、お母さんが脳溢血で
死んで以来、生きる意味が見いだせず、1日も早
くお母さんの所へとの思いで決行したのでした。

毎週金曜日、キリスト教の宣教師と1人のクリ
スチャン青年が病室に来て「神様がいますならな
ぜ死なせてくれなかったの！こんな体でどうやっ
て生きるというの！」と泣き叫ぶ日々でした。睡
眠薬をためて死のうと思いつつも、その2人のこ
とが気になり、入院3ヶ月後の5月、彼らが置い
ていったテープから十字架のキリストのメッセー
ジを聞いて涙を流し、自己中心でわがままいっぱ
いの自分を受け入れてくださるキリストにまかせ
ました。あふれる喜び！翌朝、すべてが新しく、
美しく見える中でパラパラと聖書を開いたら、1
つの言葉が目飛び込んできました。「だれでもキ
リストにあるならば、その人は新しく造られた者
である」。新しい命に生きる米子さんとされました。
♪十字架なきや生きていけない♪

(アオリジナル礼拝讃美集26番)

ワーク A

話し方のヒント

お洋服や靴など、私たちの持ち物は、古くて使
えなくなつたら新しい物に取り替えることができ
ます。でも私たち人間は、どんなに変りたいと思
つても、自分で新しくなることはできません。と
ころが、私たちはイエス様によって新しくしてい
ただけるので、本当に感謝ですね。それは、私た
ちのかわりにイエス様が十字架にかかつてくださ
ったことを信じることによるのです。

ワークについて

キ→リ→ス→トの順で道を進み、神様に新しく
造られた人にしていただきましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完
成させて、覚えましょう。

●質問2 サウロはダマスコのクリスチャンを捕
らえようとした時、復活のキリストに出会いまし
た。悔い改めて、イエス様を信じたサウロは新し
く造り変えられて、迫害者から主を愛する者とさ
れました。

●質問3 私たちも悔い改めて、イエス様を信じ
るなら、サウロのように新しく造り変えられて、
主を愛する者とされるのです。

ワーク C

●み言葉、17節全体から「キリストにある」「新し
く」「ふるいもの」「新しく」

●「キリストにある」とは、キリストを救い主と
信じ救われることで「キリストにつき木される」
の意味があります。つぎ木を例に考えます。

●「新しく」とは、時間的な新しさや、改善、改
良、成長ではなく、まったく新しい創造です。昆
虫が幼虫から成虫に変態することを例に考えます。

●パウロ自身の変ぼうを確認しながら、自分もま
た、キリストにあるなら同じように全く新しく造
りかえられることを確認します。

ワーク D

●子どもたちがイエス様との個人的な出会いがで
きますように。

●パウロはイエス様との劇的な出会いをしていま
す。イエス様は自分を迫害している者を赦すこと
ができるお方です。だからパウロのように私たち
も、イエス様に出会つていただけたのではないで
しょうか？ イエス様はそこまで柔和でへりくだつ
たお方です。イエス様に倣いながら、子どもたち
と分級を進めたいと思います。

中高校へのヒント

観察してみよう

1 17節で、私たちが新しく造られるためには、
何をしたらよいのでしょうか。(キリストにある
こと、つまりイエス様を信じ続けること)

2 18節で、神様と私たちが和解できるようにし
たのは、誰ですか。(イエス様)

3 21節で、私たちの罪を贖うために、誰が罪と
されましたか。(罪を知らない方、イエス様)

●考えてみよう

1 神様と和解するまで、私たちは神様とどうい
う関係にあると思いますか。(和解の反対だから、
神様にそむいて悲しませている状態)

2 神様はそむいてきた私たちを罰するものではな
く、救おうとして何をして下さいましたか。(罪
を知らない方を罪とされた/21節)

3 「神の義となる」とはどういう意味でしょう
か。(罪を犯したことのない者と認められる)

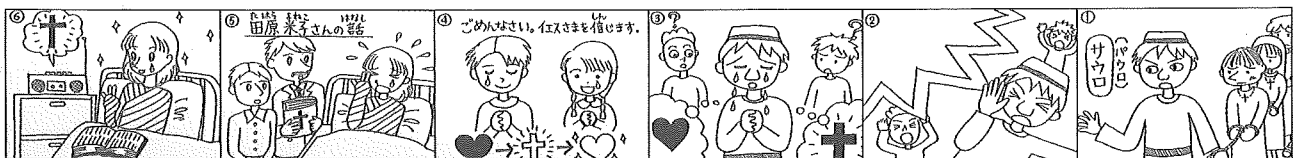
●自分に当てはめてみよう

1 あなたは自分が新しく造られる必要があると
思いますか。

2 神様は、私たちが神様と和解することを願つ
ておられますが、あなたはそう願っていますか。

3 イエス様はあなたの罪を贖うために、十字架
にかかつて神様から罪とされ、さばかれてくだ
さいました。あなたはこのことを信じますか。

4 神様と和解した人はどんな働きをすべきでし
ょうか。



聖書 Iヨハネ3・1～3 テーマ 神の子として

序論

(金井)

この世には人々をのみ込んで押し流していく大きな濁流がある。それは聖書の真理に反する思想、宗教、価値観である。その行き着く先は滅びである。死んだ魚は流されるままであるが、生きている魚は流れに逆らって川を上って行く。キリストによって神と和解し、神の子として新生した私たちは、この濁流に流されずに永遠の御国に向かって上ることができる。今月は「生きる希望」というテーマで、キリスト者の生き方を学んでいこう。

一、神の子とされたから

ヨハネの第一の手紙は1世紀の終わりに使徒ヨハネがエペソで書いて、小アジアの教会に送ったものと伝統的に考えられている。この時代には、「イエス・キリストが肉体をとってこられたこと」(4・2)否定する「多くのにせ預言者が世に出てきて」(4・1)、教会を混乱させた。彼らの思想はグノーシス主義的な霊肉二元論であり、キリスト仮現論と呼ばれる。彼らは霊を善、肉体を悪と見なすため、神の御子キリストの受肉・受難・復活を否定した。彼らは、本来の自己は至高神と本質的に一つであると考え、神秘体験において得るその認識(グノーシス)が人を救うと教えた。

この教えは明らかに福音の真理に反している。ヨハネは信徒が「初めから聞いたこと」(2・24)すなわち使徒伝来の正統的信仰にとどまって、救

いの確信を保持することを望んだ。彼がこの手紙を書き送ったのは異端思想の誤りをただし、「真理」(1・6、他)を明らかにするためである。

ヨハネは地上を歩まれたイエスを直接見た者として証言した(1・1～3)。イエス・キリストの受肉・受難・復活の歴史的事実こそ、揺るがぬ真理の土台であり、キリスト者に与えられる永遠の救いの保証である。それゆえヨハネは勧告する。△わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである▽。父なる神は御子の受難において、どれほどお苦しみになったことか。私たちが神に赦され、受け入れていただくために御父と御子が味わわれた大いなる痛みを、私たちは決して軽く考えてはならない(4・9～10)。十字架は神の子とされた私たちの新しい人生の原点である。

二、神の子として生きる

ヨハネは読者に、重ねて△神の子▽としての自覚を促す。△愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である▽。人間の思考・感情・行動は当人が持つ世界観や自己認識(セルフイメージ)と深い関係がある。正しい世界観や自己認識は倫理的に良い結果を生み出すが、逆にそれが誤っていると思ひ結果を生む。木はその実で分かるのである。霊肉二元論においては、肉体は悪であるため罪と不可分であると教える。そこから、肉体という牢獄に捕らわれた霊こそが真の人間であって、神秘的認識の光を得た霊の人は悪に汚されることな

くその牢獄から解放されるので、地上ではどのような不道徳な行動をとつても構わないという考え方が生まれた。そのため、放縱な生活をする者がいた。ヨハネはこのような考え方や生き方に反対したのである(2・15～17、3・4～10)。

ヨハネは続けて記す。△しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする▽。神が私たちに提示されたモデルはイエス・キリストである。これ以上の倫理的基準がこの世にあるだろうか！人間が神になることは決して有り得ない。しかし、やがてキリストが再臨され、相まみえるその時に、私たちは完全な聖性と永遠の体を賜ってキリストに似た者とされ、栄光に輝く。それは想像を絶する恵みである。この神の子としての高貴な身分を自覚する者は、地上にあってもその榮譽に恥じない生き方を志す。キリストに似た者となることこそ、私たちの人生の目標であり(2・6)、主にあつてそれは可能である！

結論

グノーシス主義の影響は今日でもオカルト、ニューエイジ、新新宗教、ユング心理学、シユタイナー教育など広範囲に見られる。思想・宗教が混乱し、快樂主義がまん延して、愛が冷えていくこの終末の世にあつて、私たちが神の子として生きる意義は大きい。福音の真理をしつかりと伝達し、自らをきよめ、永遠の栄光を目指して進み行こう。

研究資料

(足立)

この手紙の第一の部分(1・5～2・27)で著者ヨハネは、読者に「光の中を歩む」重要性を再確認させている。そしてこのための必要条件を思い起こさせた。彼の意図は使徒の宣教を基盤とし、いずれのものであるとも異端が主張する間違つたキリスト論を矯正することにあつた。この過程においてヨハネは、イエスについて間違つた信仰の結果である不道徳な行為を攻撃してきた。第二の部分(2・28～5・13)でヨハネは異端への攻撃を継続するよりもむしろ、キリスト信仰者の霊的いのちの成長に焦点をあてている。2・29～3・10は、神を知ることと義を行うこととの基本的な結びつきを取り扱っている。すなわち神の子たちと悪魔の子たちとの違いを識別するための基盤を提供している。3・1～3では、神の愛の偉大さ、神の子たちの計り知れない特権、キリスト再臨時彼のように変えられる希望が記されている。

テキスト

28 そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。著者ヨハネは読者を信仰の成熟に導こうとしている。とどまっていなさい(メネテ)という動詞は現在時制の命令形で、ヨハネがここで留意していることは継続中の行為であることを意味している(参照、Iヨハネ2・5、6、27、3・6、24、4・13、15、16、5・20)。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。キリス

トにとどまることの熱心な勧告の目的がここにある。著者が読者にキリストにとどまるよう懇願するのは、彼の心がキリスト再臨にあるから。ヨハネはこの手紙で繰り返しキリストの再臨に言及している。もちろん受肉にも触れている(1・2「2回」、3・5、8)が、この節と3・2は再臨への言及である。現れる(パルーシア)という言葉は新約において至るところ広範囲に使用されているが、ヨハネ文書ではここだけである。この言葉は様々な現れに用いられているが、新約で圧倒的に多いのはキリスト再臨への言及である(マタイ24・3、27、37、39、Iコリント15・23、Iテサロニケ2・19、3・13、4・15、5・23、IIテサロニケ2・1、8、ヤコブ5・7、8、IIペテロ3・4)。確信(パルーシア)という言葉はIヨハネで4回使われ、キリストの来臨(さばき)における確信(2・28、4・17)と祈りにおける確信(3・21、5・14)との両方に言及している。著者のここでのポイント、キリストにとどまる人は主の再臨及びさばきの時に恥じることなく確信を持てると言うこと。

29 彼の義なるかたであることがわかれば、義を行う者はみな彼から生まれた者であることを、知るであろう。ここは神を知ることと義を行うことの両者の結びつきが、条件文で導入されている。義しいお方が神であつて、もし読者が神は義しいことを知っているなら、彼らは義しいことを行う者はだれでも神から生まれた者であると確信するであろう。生まれた(ゲンナオー)という動詞はIヨハネにおいて10回使われている(2・29、3・9「2回」、4・7、5・1「3回」、4・18「2回」)が、

ここが最初の使用例である。ここ以外はすべて神が誕生をもたらすお方として明確に言及されている。従つてこの29節も神による誕生を意味すると解釈することが妥当。神から生まれたことが何を意味するかは、ヨハネ1・12～13、3・3、5を参照。1 わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。著者は読者が神の愛の偉大さを深く認めるように挿入句で始めている。神の子たちと呼ばれることは破格の特権である。なぜなら神ご自身が私たちをご自分の家族になるよう選んで下さったから。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。世(コスモス)という言葉はIヨハネで23回使われ、その意味は文脈によつて異なる。ここでは他の場合(3・13、4・5「3回」、5・19)と同様に、不信仰な世、すなわち神と御子を信じる者に敵対する人々を意味している。

2 愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。前節を繰り返す中で新しい要素は、今や(ニユン)という言葉に強調が置かれている。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。キリスト来臨の時わたしたちは、地上伝道当時の主を見るのではなく、また信仰の目で主を見るのでもなく、今日の栄光にある主を見るのである。

3 きよくする(ハグニゾー)という動詞は、新約では7回見いだすだけであるが、この箇所の意味はキリストの倫理的きよさを身につけること。参考図書 Kruse, C.G., The Letter of John (Eerdmans), Smalley, S.S., 1, 2, 3 John (Word).

聖書 一ヨハネ3・1-3

タイトル 神の子として

暗唱聖句 わたしたちは、すでに神の子なの

である。

一ヨハネ3・1

目標 父なる神の大きな愛の中に神の子とされたことを喜び。

導入

(水野)

(説教者自身の父か母の写真を見せながら)

この写真は私の母です。似ていますか？ どこが似ているかな？ 目の細いところとかまゆ毛がさがっているところですね。皆さんはお父さんに似ていますか？ お母さんに似ていますか？ 親子って不思議ですね。顔だけでなく、性格や食べ物好みも似てきます。でも、ときにはここは似たくなかったと思うところもありますね。子どもは親を選ぶことはできませんから、「こんな親だったら良かったのに」と思っている人もいるかもしれません。たとえば、「もう少し美人のほうがいい」とか「かっこいい人」「何でも買ってくれる人」「頭のいい人」「優しい人」「強い人」いろいろあるでしょうね。でも、子どもは親が「自分のことを一番理解し、愛してくれる人」を求めます。

ここに、だれよりも私たち一人一人を、誰よりも良く知っていて愛してくださっている方がいます。ご紹介しましょう。父なる神様です。

私たちが愛される天のお父様

天の父なる神様は、天地を造られる前から私た

ワーク A

話し方のヒント

● 神様が、私たちのかわりにイエス様を十字架につけてくださったので、信じる私たちは罪をゆるされて神の子とされました。イエス様は、私たちのために命をささげてくださいました。これは、何という大きな愛でしょう。私たちは、こんなに神様に愛されています。私たちも、神様に感謝して歩んで行きましょう

ワークについて

● 今日大切な言葉は何か。空いているところに、下の部分をあてはめて完成しましょう。

ワーク B

● 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

● 質問2 神様は天地を造られる前から私たちを選び、罪から救い、神の子としてくださるために、愛するひとり子イエス様を十字架にかけられました。神様はそれほど、私たちが愛してくださいっているのです。

● 質問3 私たちが神の子とされるのは、自分の罪の身代わりに十字架で死んでくださったイエス様を信じることです。なんと大きな神様の愛でしょう。

ちを選び、命を与えて、お母さんのお腹の中にいたときにどのように組み立てられたかを「存知で、髪の毛の数をも知っておられるお方です。私たちの弱いところも醜いところも、みんな知っていてなお愛してくださいます。私たちへの父なる神様の愛の大きさは、測ることができませんか？ どのように長い巻尺があったとしても測ることはできません。神様がどんなに私たちが愛して下さっているかは、私たちのために払ってくださった犠牲の大きさによって測ることが出来ます。

神様は、私たちが神の子としてくださるために、神のひとり子イエス様を十字架にかけられました。だから、私たちは神様の子どもとされたのです。それなのに、神様を親とも思わず、自分勝手に生きて、神様に従わないゆえに、神様との関係が完全に断絶してしまつたのです。しかし、そんな私たちのために神様はもう一度、神の子として受け入れようと、イエス様を十字架につけ、神様と交わることができるよう橋渡しをしてくださったのです。イエス様の命を犠牲にして、私たちに愛が届けられました。私たちがそのことによって、神様を信じて一人ももれることなく永遠の命を受けられるようになりました。神の子とされるために、こんなにも大きな愛をいただいたのです。

例話

ある晩、マンションで火事がありました。お父さんは急いで子どもの部屋に行って、二人の息子を起こしました。もう部屋中が煙に包まれていて、急がなくては間に合いません。たった一つの逃げ

場は窓だけです。窓から隣の家を見ると、幸いなことに窓があいています。隣の窓まで2メートル足らずです。お父さんは躊躇(ちゅうちよ)せず窓から身を乗り出し、精いっぱい腕を伸ばして飛びつくようにして、隣の家の窓に手をかけました。子どもたちに大声で「早く、お父さんの体の上を伝わって渡りなさい」と命じました。そこは6階です。お兄さんがおそるおそる渡りました。弟も渡り終えることができました。そのとき、お父さんは力尽きて下に落ちて死んでしまいました。しかし、お父さんの犠牲によって、2人の息子は助かりました。

神の子として生きる

私たちは、神の子どもとなるためのテストを受けたわけでもありません。ただ神様の大きな愛を受け入れ、イエス様を救い主と信じて神の子としていただきました。では、神の子とされた私たちはどのように生きていけるでしょうか。

1. イエス様がおいでになるときに、イエス様に似た者とされることを望み、悪いことがあつたらおわびして清く生きることを。
2. いろいろな情報に惑わされず、イエス様が正しく歩まれたように、聖書に従って正しく生きることを。
3. イエス様の真実な愛にならって、互いに愛し合って生きることを。

今日、神の子とされたことを感謝し、神様の大きな愛に応えて生きるものとなりましょう。

♪今こそキリストの愛に応えて♪

詞・曲 田中英昭

ワーク C

● み言葉、1節前半「神の子」「大きな愛」「すでに」「神の子」

- 私たちに与えられた大きな愛は、神の子イエス・キリストの命を犠牲にしてくださったことにより示されました。この十字架でイエス様の命と「あなた」の命が交換されたことを示し、交換とは同じ価値があるからできることだと示します。つまり、あなたは神の子とされているということです。
- いつそうだったのかについては、「すでに」という語を示しながら、十字架がゴルゴダの丘に立った2000年前からだとして示します。
- 神の子とされたのだから、イエス様にならって自分を清く保ち正しく生きようと導きます。

ワーク D

● 私たちはイエス様を信じるだけで神の子とされます。ある人は、そんな簡単な事で救われるはずはない、と考えます。私たちが簡単に救われるのは、神様の側が考えられないほどの犠牲を払っておられるからです。それが「大きな愛」と言われるものではないでしょうか。

● 今日は神様、イエス様がしてくださったことがどんなことであるかを知る時となれば幸いです。

● 2の答えはイエス様です。

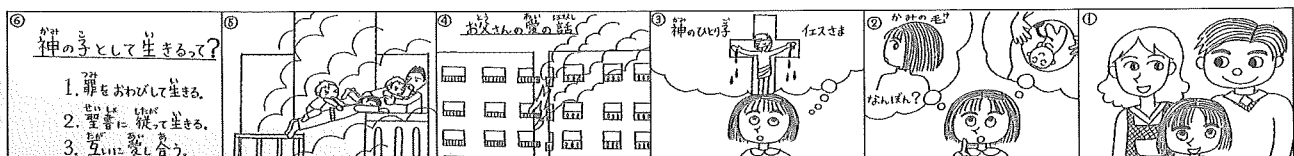
中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 「神の子」についての説明が9節にあり、「神の子」と対照的な言葉が10節にあるので調べましょう。(神から生まれた者、悪魔の子)
- 2 2節で、イエス様のまことの姿とはどんな様子でしょうか。(神の栄光に輝いた姿)
- 3 イエス様に似る者となるという望みをいだいている者は、どのように生きるべきですか。(みずからきよくする、きよい生き方をすること)

考えてみよう

- 1 父から賜った大きな愛とは、何のことでしょうか。(神様が、私たちを救うためにイエス様を十字架で犠牲にしてくださいましたこと)
 - 2 イエス様が再び来られるとき、私たちはイエス様に似る者となると書かれています。それはどのような意味でしょうか。(イエス様と同じ栄光のからだを与えられること)
 - 3 「みずからきよくする」とはどういうことでしょうか。(み言葉に従って歩むこと)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたはすでに神の子とされていますか。さ
 - 2 れているとすれば、それはなぜですか。
 - 3 あなたには再臨のとき、イエス様と同じから
 - 4 だに愛していただけるという希望がありますか。
 - 5 あなたは罪から離れ、み言葉に従って歩むこ
 - 6 とによって、自分をきよくするように生活して



聖書 エペソ5・1～6
テーマ 愛のうちに

序論

(金井)

今週から3回連続でエペソ人への手紙をテキストとして学ぶ。この書は紀元61年ごろにパウロがローマで書いたものと思われる。古い写本に「エペソにいる」(1・1)という語句が無いことや個人的内容が少ないことから、これはエペソをはじめとするアジアの諸教会への回状であったと考えられる。パウロは第2回伝道旅行(49～52年ごろ)でエペソに立ち寄り(使徒18・19～21)、第3回伝道旅行(53～56年ごろ)では2年3か月の間エペソで伝道した(使徒19・1～20・1、17～38)。パウロは獄中であつて(3・1、4・1、6・20)、教会の様子を聞いて祈り(1・15～16)、神の救済計画における教会の意義について熟考した。本書はその果実である。今回は愛の実践について学ぶ。

一、神のたいなる愛のゆえに

パウロは勧める、△こうして、あなたがたは神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい▽。△こうして▽と訳されている語は「だから」とも訳され、たびたび用いられる(4・1、17、5・1、7、15、6・14)。パウロは「くだからくしなさい」と論理を積み重ねて実践を説く。キリスト教倫理には、世の倫理道德とは比較にならない確かな根拠が存在する。

「神は」(1・3) 私たちを選び、神の子にしようとならじお定めになり、罪過によつて死ん

でいた私たちを救し、生かして、御旨の奥義を示してくださった。その奥義とは、ユダヤ人对異邦人、男対女、主人対奴隷といった人類を隔てる障壁を取り除かれ、すべての者が一つとされて、キリストの体なる教会が建て上げられていくことである。歴史を貫き、全世界に拡大するこの救済事業が遂行される中で、私たちが救われたのは、神の一方的な恵みによる。それは決して私たち自身から出たものではない。神の「あわれみ」、「大きな愛」(2・4)、ただそのみが理由である。

二、神に愛されている子どもとして

△こうして▽という接続詞は前節を受けている。「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい」(4・32)。神の「怒り」(2・3)を受けるべき罪深い私たちが神のあわれみを受けて、「御子にあつて」(1・7)赦され、神の子どもとされた。私たちが無償で恩恵にあずかるために、神はどれほど大きな代価を支払われたことか。御子キリストの血による贖いにおいて、私たちは神の完全な愛を知った。だから、私たちが神にならう、「情深く、あわれみ深い者となり」、人を愛することができるとし、愛すべきである。△愛▽は神から出るものである。

三、愛のうちに歩きなさい

パウロはさらに具体的に説く。△愛のうちに歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さつて、わたしたちのために、ご自身を、神へのかん

ばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである▽。私たちが模範とすべきモデルはキリストである。キリストが御自身を献げられたように、私たちも自分自身を献げること、神は要求される。それは正当な要求である。私たちは元来神のものであり、さらに御子の命をもって買い取られたのだから。自らの命を献げること以外に、一体何をもちて神の愛に応え得ようか。愛するとは、キリストのごとく自分自身を与えることである。キリストは、自分を裏切り、敵対し、侮辱して、危害を加える者を赦された。何の犠牲も払わずに、何の痛みも感じずに人を愛することができると考える余地はここには無い。私たちは世人の真実な隣人となるべきである。ただし、決して世人に歩調を合わせてはならない。不品行、汚れ、食欲、卑しい言葉、愚かな話、みだらな冗談は聖徒にふさわしくない(3～5)。私たちはキリストにならう、神に喜ばれる人かんばしいかおりのささげ物▽として己を聖別しなければならぬ。地上で真実の愛を生きたことができるのは、心を高く天に向けて歩む者だけである。

結論

パウロは教会の一体性を強調する。それは教会に分裂する傾向があつたからだろう。それでは世人に証が立たず、霊の戦いは進まない。今日の教会はどうか？教会は「愛のうちに育てられていくもの」である(4・16)。私たちは神に愛されている。だから、人を愛することができる。主は言われる、「わが愛に居れ」と(ヨハネ15・9文語訳)。

研究資料

(足立)

パウロはエペソ1～3章で教理を記したが、その教えを適用する。歩む(ペリパテオウ、4・1、17、5・2、8、15)という言葉の使用から考えて、彼にとつてキリスト教教理は実践されてこそ意味があるものである。つまり教理と生活が結びついていることが大切である。また4章からの文脈を見ると、次のような位置づけが可能であろう。神の子たちは一致のうちに歩む(4・1～16)。聖さのうちに歩む(4・17～32)。愛のうちに歩む(5・1～6)。内容から見ると、5・1～6は二つの区分にわかれている。積極面―愛のうちに歩む(1～2節)。消極面―悪から遠ざかる(3～6節)。

テキスト

1 こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい 5・1～2は、4・25～32の結論的部分としても理解可能である。4・32で「神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さったように」とある。読者たちは天の父が自分たちに示して下さった寛大な赦しを他者に示すことができるよう、自分たちの神を見習うよう熱心に勧められている。彼らは神の家族として受け入れられてきた(参照1・5)。神の愛は、今聖霊によつて彼らの心に豊かに注がれている(参照ローマ5・5)。読者たちは愛を豊かに経験したのであるから、神にならう、神の家族を再現するはずである。パウロは彼の手紙の至るところで、ならう者(ミメテス)という言葉を使っている。パウロがキリ

ストにならうという意味で自分をモデルとせよと教会の信者に命じる場合(1コリント4・16、10・31～11・1、ピリピ3・17、1テサロニケ1・6、2テサロニケ3・7、9)。ある場合彼は他の会衆にならうよう教会員を鼓舞した(参照1テサロニケ2・14)。しかしながらエペソ書のここだけは、神にならう者」であれと信者に命じている。事実旧約、新約聖書のどこにも神にならうことについて明快に言及する箇所はない。すべてにおいて神にならうことは不可能である。イエスは弟子たちに、「あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ」と命じた(ルカ6・35～36、参照マタイ5・44～48)。神の情け深さと憐れみは、信者の行動の模範である。エペソ書の文脈は神の家族にある新しい関係は神にならうという主張を基盤として仕えることにあり、この関わり合いは2節が示すように、キリストにある神の救いのみわざに最終的な根拠がある。

2 また愛のうちに歩きなさい パウロの「愛のうちに歩め」という熱心な勧告は、模倣者の存在に含まれることをさらに明確に説明する。この二つの表現は互に対応している。すなわち神にならうことは愛のうちに歩むことである。読者はキリスト者としてどのように生活すべきかを教育されている(参照4・1、17、5・8、15)。本書の4～6章には一連の愛の教育が含まれている(4・2、15、16、5・2、25、28、33、6・24)。その成就是使徒パウロの祈りによつて完成される(3・17、19)。キリストもあなたがたを愛して下さつて、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、

また、いけにえとしてささげられたのである 愛のいのちを生きたる手本と根拠は、キリストの愛とご自身の犠牲としてのささげ物にある。ここで本書において初めてキリストの愛が言及された。既に私たちの救いのための動機として父なる神の愛が述べられた(2・4)。しかし、これら二つは4・32で二重の言及がなされてあるように矛盾していない。「神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さった」。キリストの愛は十字架に著しく表された。このことから神にならうことは、究極的にキリストにならうことである。そして、代価が払われた犠牲の愛は、互いの人間関係の中で信仰者の特徴づけられる。初期の手紙でパウロは個人的な負債について書いた。「わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子」(ガラテヤ2・20)。エペソ書のこの文脈では、すべての信者のためにキリストの死があつたことを伝えている。これは教会を意識しているのである。後の節でパウロはキリストが教会を愛し、ご自身をささげた点を断言している(エペソ5・25)。「ご自身を…ささげられた」とは、キリストは死に対してご自分をささげることにおいて主導権を持ったことを意味する。彼は自ら進んでささげる犠牲として十字架に赴き、これを成就した。使徒パウロの主張は明快である。キリストが自らを死にささげたことは究極の愛の実証であつた。このような愛で他者に仕えることが、神とキリストにならうことでもある。

参考図書 Hoehner, H. W., Ephesians (Baker).
O'Brien, P. T., The Letter to the Ephesians (Eerdmans).

聖書 エペソ5・1～6
タイトル 神の愛を満タンに
暗唱聖句 愛のうちを歩きなさい。
目 標 神様からいただいた愛の中を歩く。

導入

(水野)

「何か動物を飼っていますか？」犬、ねこ、ハムスター、鳥、かめ、いろいろなありますね。かわいいでしょ！犬はお散歩が大好きです。1日に1回は連れて行かないと、ストレスがたまってかわいそうです。他の動物のお世話もいろいろあると思います。いっしょけんめいお世話して、なつくとうれしいですね。でも、どんなに心をこめてお世話して何の反応もなかったり、手をかまされたりするとかかりしてしまいます。

神様はこの1週間、私たちをいつでもどこでも守り、愛してくださいました。私たちがイエス様のことを忘れても、無視しても、離れず、いっしょにいてくださいました。

神様の愛によって生きる

先週は、神様の大きな愛によって神の子どもとされたことについて学びました。今週は、私たちが神の子どもとして神様の愛によって生きること学びます。

私たちは、いつも神様の愛をいただかなくては

人を愛することや親切にすることはできません。自動車が行くには、ガソリンが必要です。私たちも神様の愛をいつも満タンにして、いじめられているお友だちの味方になったり、小さい子に優しくしたり、お母さんのお手伝いを喜んでする子どもになりましょう。

神の愛が足りなくなったら

ところが、「ばか」「お前なんか死んじゃえ」「もういっしょに遊んであげないから」「あっちへいけ」というような汚い言葉を使ってしまったら、友だちに調子をあわせてエッチな話や悪口を言ったり、先生やお母さんの言うことがきけないときがあったら、赤信号です。すぐに神様のもとに行き、おわびして神様の愛を満タンにしてもいいでしょう。神様が私たちに与えてくださった、大きな愛を忘れて、自分勝手に歩んでしまいやすい私たちです。毎日、神様の愛を満たしていただきましょう。

例話

昔、南アメリカのアンデス山脈という高い山の東側の村と西側の村とは大変仲が悪く、いつもけんばかりしていました。今日も自分たちのかわい羊たちにおいしい草を食べさせようと、それぞれの村から山に登って行きました。羊たちは仲良しですからさっそくメエー、メエーとあいさつをしながら楽しそうに草を食べ始めました。すると村の人たちはこの草は私たちの草だ、この水は自分たちの水だとお互いに主張しあつてゆずらな

いので大けんかになってしまいました。かわいそうに羊たちはこわくて岩陰でふるえながら小さくなっていました。

やがて夜になってそれぞれの村に帰り、けんかで傷ついた人たちの手当てをしながら「なんて自分たちはばかだったのだろう。けんかに勝ってもけがをしたり、人を殺したりしてはなんの得にもならないの」と気がつきました。そこで東西の村長さんが峠の上に集まって相談をしました。どちらともなく「私たちはイエス様をすっかり忘れていた。イエス様は互いにゆずり合い、互いに愛しあいなさいと言われてるのに」と言つて、これからはイエス様を決して忘れないようにと、両方の村からよく見える峠の高い所に大きな十字架を建てました。それから東の村と西の村の人たちは大変仲良くなったと言ふことです。

まとめ

私たちは神様から愛されている神様の子どもです。いつも神様の愛を「ありがとう」と受け取り、もし、神様の喜ばれないことをしたら「ごめんなさい」とおわびして、イエス様が歩まれたように私たちも歩みましょう。

毎日、ハンカチやティッシュペーパーを持ち歩くように、「ありがとう」と「ごめんなさい」を笑顔といっしょに持ち歩き、どんなことにも感謝し、迷惑をかけたからおわびして、神様の愛をまわりの人たちにもあらわしていきける子どもになりましょう。

♪愛をください♪ (友よ歌おう74)

ワーク A

話し方のヒント

先週は、私たちがとても神様に愛されているというお話を聞きました。愛されているというのは、とてもうれしいことです。そして、ただ愛されているだけではなくて、自分のほうから回りの人々を愛してゆくことも大切です。でも、心の中に神様がおられなければ、私たちはみんなを愛することはできません。心の中に、イエス様をお迎えしましょう。

ワークについて

私たちの心が、わがままや意地悪のままでは大変です。心の中を神様の愛でいっぱいにしていただきます。好きな色紙をはってください。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 愛による歩みは、救いと共に与えられる恵みです(エペソ2・10)。実際の経験を分かち合いながら、良き行いを与えてくださった神様に感謝しましょう。

●質問3 イエス様の十字架によって罪が赦されたことをいつも感謝することが大切です。多く赦された者は多く愛する(ルカ7・47参照)のです。神様に対する愛は、兄弟愛と関わり合っています(1ヨハネ4・20、21)。

ワーク C

●み言葉、「愛のうち」【歩き】

●「愛のうち」とは神様の愛を感じ、イエス様の十字架の愛を注いでいただいている状況です。

●「歩く」とは毎日の実際の生活のことです。その生活の中で神に愛された、その愛によって周囲の人々に愛の実践をしていくということです。

●その歩みは、具体的には①神様と人に「ありがとう」と感謝し、②間違ったり失敗したら「ごめんなさい」とあやまり、イエス様の愛に欠乏したら祈りの中で、さらに愛を注いでいただいて生きることだと示します。

ワーク D

●子どもの気持ちを聞いてあげるとき、否定しないで受けとめてください。否定的な気持ちであっても聞いてくれて、受けとめてくれる人がいるだけで心はいやされ、開かれていくものです。「うと思っただね」と、その子が表現した言葉でそのまま返してあげます。するとわかってくれた、受けとめてくれた、と感じることができます。

●愛のうちを歩くということは、抽象的で、どんなことかわかったようではないことかも知れません。しかしそれはキリストの愛にふれ、キリストの愛を知っていく生活です。「神は愛です」と心のそこから言えることではないでしょうか？研究資料をお読みください。

中高校へのヒント

観察してみよう

1 1節で、あなたはという者だと言われているか。(神に愛されている子ども)

2 2節で、イエス様はあなたのために何をしてくださったと書かれていますか。(ご自身を神へのいけにえとしてささげられた)

3 1、2節であなたに命じられていることは何ですか。2つあげてください。

4 3～5節で、クリスチャンとしてふさわしくないと言われている行為をあげて下さい。

●考えてみよう

1 どうしたら神に愛されている子どもになれると思いますか。(イエス様を救い主として受け入れて罪を赦していただくことによって)

2 4・32から考えると、神にならう者になるとはどういうことでしょうか。(神様が私たちを赦してくださいように、人を赦すこと)

3 2節の「愛のうちを歩く」とは、どういうことでしょうか。(主が私たちのためにご自分を与えて下さったように、まわりの人に仕えること)

●自分に当てはめてみよう

1 あなたは神様からすでに罪を赦していただいていますか。

2 あなたにはいま赦せないと思う人がいますか。どうしたらその人を赦すことができますか。

3 愛のうちを歩くために、あなたが仕えるべき人は誰でしょうか。



聖書 エペソ5・7～14
テーマ 光の子として

序論

(金井)

冬は光が恋しい季節である。一年で最も日照時間が短い時期にクリスマスがあり、それ以降、春に向かって徐々に明るさが増してきた。これは、世の光であるキリストによって、やみが駆逐され、私たちが光の中を歩むようにされたことを象徴している。今日は「光」をキーワードとして学ぼう。

一、やみから光に変えられたから

先週のテキストに続いて、パウロはこう教える、
「だから、彼らの仲間になつてはいけない。あなたがたは、以前はやみであつたが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい」。
現在キリスト者として歩んでいる異邦の信徒たちは、「先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であつて、かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従つて歩いていたのである」(2・1～2)。彼らだけではない。パウロは自らを含めて「わたしたちもみな、肉の欲に従つて日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であつた」と告白する(2・3)。しかし、神は「罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし」(2・5)、「神の作品」(2・10)として新しく造り変えてくださった。私たちキリスト者は神の子ども・天国の民とさ

れた。私たちはもはや、世に在りながら、世のものではない。やみの領域から光の領域に移された私たちは、今や光そのものとなっている。

二、光の子らしく歩きなさい

「光の子らしく歩く」とは、具体的にはどのようなことか。パウロは、
「光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである」と言う。かつては「無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり」「悪意」が私たちの思いと言葉と行いを支配していたとしても、今はそれらを「捨て去り」(4・31)、「善意」に支配されて、人に接するべきである。また、かつては「不品行」という汚れたやみ(5・5)が生活の中にあつたとしても、今はこの世の基準ではなく、神の「義」を基準として、きよく生きるべきである。「真実」とは、隠されたところが無い状態を意味する。私たちは神の前にも人の前にも、光の子らしく誠実に歩みたい。私たちが日々、光の中を歩み続けるならば、御霊は豊かに「実」を結ばせてくださる(ガラテヤ5・22～23)。そのために、「主に喜ばれるものがない」であるかを、わきまえ知らなさい」と、パウロは勧める。「わきまえ知る」とは「試験によって適格と判別すること」である。私たちは聖書から学んだことを実践し、試行錯誤を繰り返しながら、神の子どもとして成長していく。神が与えてくださる訓練を軽んじてはいけない。

三、やみのわざを明るみに出さなさい

この世は「やみのわざ」に満ちている。日本に、

研究資料

(足立)

この箇所ではパウロは悪人のわざに参加するのではなく、神を喜び光の中を歩むよう信者に勧告している(5・7～14)。この部分は3つに分けることが可能。「1」悪人に巻き込まれるな。光の子として歩め(7～10)。「2」悪人の仲間になるな(11～13)。「3」キリストの光の賛同を得よ(14)。

テキスト

7 だから、彼らの仲間になつてはいけない 読者たちは罪深い行為に関して、律法に服従しない異邦人の仲間にならないよう強く勧告されている。しかし、パウロはそのような人々との接触や関わりをすべて禁止しているのではない。そうであるならば、読者たちはこの世のすべての事から出て行く必要があるであろうに(参照1コリント5・10)。仲間(スノメトコス)とは、所有や関係を共有する人を意味する(3・6)。従って読者たちは不道徳な異邦人と不潔な行為を共有しないよう、また神のさばきから免れるように(IIコリント6・14～7・1)念を押されている。

8 あなたがたは、以前はやみであつたが、今は主にあって光となっている キリスト信仰者が異邦人の不道徳な行為の仲間にならない積極的な理由は、この場合来るべき神のさばき(5・6)ではなく、彼らが回心したとき自分たちの生活に起こった力ある変化にある。この8～14節の段落全体は光と闇(やみ)との豊かな象徴を提示し、再びパウロは信仰者が経験した支配の移行に焦点を絞るために、かつてと今という対照的な図式(参

照2・1～10、11～22)を導入している。昔、彼らは闇(やみ)の支配に属していた(参照コロサイ1・13)が、今や自分たちの主との新しい関係により光の領域に仲間入りしている。既に信者と不信者との違いは「古き人」と「新しき人」という言葉で表現されてきた(エペソ4・22、24)。ここでは闇(やみ)と光というイメージで識別されている。不信者が闇(やみ)、キリスト者が光である。エペソ書において闇(やみ)は無知、誤り、悪(参照4・18)を表し、特に神から離れた人々の生活に関して不道徳を示している。一方光は真理、知識(参照1・18)を意味し、ここでは神から来るすべてのきよさを表している。そして読者たちは回心したとき、闇(やみ)から光へと移された。この著しい移行は「主にあって」起こった。すなわちキリストとの結びつきにより信仰者は新しい支配に入れられ、光となったのである。

光の子らしく歩きなさい パウロはここでのように歩むべきか、命令形を使っている。読者たちは今光であつて、光の子たちとして歩く。すなわち彼らの生活は、光に特徴づけられている。再度鍵の動詞「歩く」が登場している(4・1、17、5・2、15、参照2・2、10)。

9 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである 手短かにパウロは3つのキリスト者の恵みに言及することにより、光の子たちとして歩むことが何を意味するかを最初に説明している。これらは光の実として表現され、実を結ばない闇(やみ)のわざ(5・11)とはっきりした対照を引き出している。ここで実とは、聖なる力に見

世界に起こる事件は、驚くようなことばかりではないか。「やみのわざ」は「実を結ばない」。

パウロは「やみのわざ」に対して二つの態度をとるように命じている。一つはそれに「加わらない」ことである。やみの子らの「仲間になつてはいけない」。もう一つは「それを指摘してやめる」ことである。「指摘する」とは「明るみに出す」ことである(新改訳、新共同訳)。「彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかにする。明らかにされたものは皆、光となるのである」から。

神は「やみの世の主権者」(6・12)に対抗する戦士として私たちを召された。それは、悪魔に捕らわれている人々を解放し、神のみもとに連れ戻して、光の子とするためである。パウロは命じる、「主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい」(6・10～11)。万軍の主と共に戦い、光によってやみを駆逐しよう。

結論

やみそのものであつた罪深い私たちが、やみの支配から解放され、今や世の光とされている。こんなにすばらしい身分を与えてくださった主に感謝しよう。私たちは世にあつては悩みが絶えないが、主のみ助けにより、光の子として歩み続けたい。やみのわざは時々刻々、人々をむしばみ、子どもたちをむしばんでいる。彼らの救出は急務である。主の導きに従い、共に救霊戦を続けよう。

られる光の倫理的な結果を表明している。光はそれを受け入れる者の上にきわだった効力を持つている。光は善意、正義、真実という恵みの中に自ずと現れ、またこれらは神ご自身の「性質を反映している」(4・24)。この意味において光の実は、御霊の実の意味にとっても近い(ガラテヤ5・22、参照ピリピ1・11)。

新しい命が好む事を簡潔に表現する3つの性質は、読者たちに4・20～5・2で言及されたポイント想起させる。そもそも神はあらゆるよい行いのためにご自分の民をキリストにあつて新創造された(エペソ2・10)。光の結ぶ実として善意、正義、真実は霊的な性質であり、神の創造的行為の結果である(4・21、24、25)。この三組はミカ6・8で神が人に求める言及を連想させる。

10 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知らなさい わきまえ知らなさい(ドキマゾー)という動詞は、この文脈では行為の正しい方向を決定するために問題を吟味、鑑賞する意味を持ち、ここでは主に喜ばれることとして述べられている(参照コロサイ1・10)。読者たちがキリストのからだとして一体性を持ちつつ個人的に成長し、向かうところのゴールは、あらゆる状況において主に喜ばれることである(参照ローマ12・2、14・18、IIコリント5・9、ピリピ4・18、コロサイ3・20)。

11 光の子として歩むことは、実を結ばない闇(やみ)のわざへの参加を拒否することでもある。参考図書 O'Brien, P.T., The Letter To The Ephesians (Eerdmans). Hoehner, H.W., Ephesians (Baker).

聖書 エペソ5・7～14
タイトル 光
暗唱聖句 光の子らしく歩きなさい。
目 標 暗い世にあつて、光の子として歩
き続けよう。

導入 (水野)

2月は光の季節といわれています。暦の上でも立春といつて春がはじまり、日差しがだんだん強くなりはじめます。明るい光が差し込むだけで、心も体も元気になるような気がします。

光は素晴らしいですね。いろいろな働きがあります。暗いところを照らします。

光はまっすぐ進み、しかも毎秒30万キロメートルの速さで伝わります。現代は、光通信であつという間に、全世界にメールを送ることが出来ます。光は動力にもなります。ソーラーカーのように車の上につけた太陽電池によって、太陽の光を電気にかえ、その電気によってモーターを回して走ります。今日は光の子としての歩みを学びましょう。

世の光であるイエス様

イエス様は光として、この世に来てくださいました。光であるイエス様は、やみを追い出し、悪いことをみんな明るみにさらけ出します。だから、悪魔はイエス様が大きらいなのです。

かつて私たちは、暗やみの親分である悪魔にと

らえられ、わがままで、すぐにおこり、威張りちらし、神様を神様と崇めないで、神様が悲しまれるような悪いことばかりをしていました。神様が望んでおられる良いことができなくて、暗やみの中にいるみじめなものでした。

そんな私たちを、暗やみの中から救い出すために、十字架にかかつて死んでくださり、3日目に墓の中からよみがえつて、やみの支配から勝利してくださいました。このイエス様によって、私たちはやみから光に移され、光の子、天国の民としていたできました。

光の子らしく歩く

光の子とされた私たちは、どのように歩いたらいいのでしょうか。

もう、暗やみの世界に戻ることはできません。差し込む光で部屋のほこりがはつきり見えるように、聖霊なる神様によって私たちの心の思いや、ことば、行いを点検してもらつて、光の子としてふさわしくなかつたら、すぐに光なる神様のもとに持つていき、清くしていただくことが大切です。神様からの光に照らされて歩んでいくと、心に喜びがあり、周りの人を愛し、仲良くし、優しく親切にすることができるようになります。勉強やお手伝いを、忠実に、忍耐強く行うことができるようになります。すばらしい、聖霊の実が結ばれるのです。

例話

はじめ君は、少し弱虫の少年でした。友だちか

ら、「はじめ、おまえ教会学校に行ってるんだって。弱虫のおまえが行つて何か良いことがあるのかよ」と言われると、「教会学校に行くの止めようかな」と心配になったり、弟や妹からちよつといたずらされるとむきになって飛びかかり、大げんかになつてしまします。

ある日の教会学校で、荒野を旅したイスラエルの民を、神様が夜は火の柱となつて、恐ろしい猛獣から守つたことを聞きました。はじめ君は「ぼくは、弱虫で悪魔の猛獣に立ち向かう力がありません。イエス様が心の中に入つて、燃える火のようになつて、悪魔の猛獣をやっつけてください」とお祈りしました。それから、弱虫はじめ君は、けんかを売られても、悪口を言われても、平気になりました。友だちから「どうしてそんなに強くなったの」と聞かれると、「ぼくの心にはファイヤーが燃えているのさ」と答えました。

まとめ

まっ黒だった私たちの心がきれいになり、暗くしてさびしかった心に神様の光が差し込み、明るい希望が与えられ、イエス様が心のうちに住んで輝いてくださっています。だから悪魔の誘惑に打ち勝ち、光の子として歩んでいきましょう。

たくさんのお友だちが、暗やみの中にいます。光の子としてイエス様を指し示し、お友達や家族を教会学校に誘つて、いっしょに天国を目指して歩みましょう。

♪ひかり、ひかり♪ (こどもさんびか52番)

ワーク A

話し方のヒント

暗いところにいると、さびしくてこわくなりま
す。誰でも、暗いところにはいたくありません。
私たちの心の中が罪で暗ければ、わがまを言つたり意地悪をしてしまいます。でも、どんなに暗い所でも光が差し込むと、明るくなります。イエス様が世の光で、私たちの心の中も照らしてくださるといふのは、とてもうれしいですね。いつも、光であられるイエス様の内を歩きましょう。

ワークについて

ゴールを目指して、光の中を歩いて行きましょ
う。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 光の結ぶ実はあらゆる善意と正義と真実です(9節)。設問にあげられたもの以外にも考えてみると良いでしょう。
- 質問3 いつも光の中を歩むために、罪が示されたら、それを告白し、イエス様の十字架を仰いで神様との間に妨げるものがないようにしましう。もし、そのような生徒がいたら共にお祈りし、み言葉によって信仰に立てるように導きましよう(ヨハネ1・7～9)。

ワーク C

●み言葉、8節全体「やみ」「光」「光の子」

●「以前やみであつた」とは、罪のために心は暗く寒くさみしく、隠れてこそこそし、実を結ばない人生を歩んでいたことです。

●まことの光は、ヨハネ1・9にあるごとくイエス様のことです。このお方の前に、ありのままの罪人として出て、罪を告白したとき罪赦され、心に愛を注がれて立ち上がることが出来ます。

●太陽は自ら光りますが、月には光がありません。太陽に照らされたときだけ、その光を反射して、暗い夜道を照らし、人間の助けになります。そのように、私たちも自分のうちに光が無くとも、イエス様の光の前に照らされたとき、その光を反射することによって役に立ち、実を結ぶ人間になれると示します。

ワーク D

●罪から救われた私たちは、自分が光の子であるとは思つてもみないことです。でも神様は、私たちが光の子であることを自覚させてくださいます。ライオンの子はライオン、羊の子は羊であるように、光なる神様の子は光の子です。最近「女らしく、男らしく」という勧めは敬遠されますが、「くらしく」ではなく、「くとして」ではないでしょうか。なぜなら、真正正銘そのようにされていて、ライオンがライオンらしくする必要はなく、ライオンそのものののですから。あとは自覚するだけのことです。●子どもたちといっしょにそのことを自覚したいと思ひます。

中高科へのヒント

●観察してみよう

- 7節の「彼らの仲間」とはどういう人たちのことでしょうか。(5節を参照)
- 8節で、イエス様を信じると何から何に変えられると書いてありますか。(やみから光に)
- 8節で命じられていることは何ですか。(光の子らしく歩むこと)
- 9節では、光はどんな働きをすると書いてありますか。(善意、正義、真実の実を結ばせる)と考えてみよう

- 8節の、以前はやみであつたとはどういうことだと思ひますか。(神様に背を向けて罪を犯していた、悪魔の言いなりになつていた)
- 「主にあつて光となつていく」とはどういうことだと思ひますか。(イエス様を信じて神の子とされたこと)
- 光の特徴は、どんなことだと思ひますか。(暗やみを照らす、ものをはつきり見せる、など)

- 自分に当てはめてみよう
- あなたはまだイエス様を信じないというやみの中にいるでしょうか、それともイエス様を信じて光とされたでしょうか。
- あなたはみことばの光に照らされて、自分の罪を認めたことがありますか。
- あなたがたにとって、光の子らしく歩くとはどういうことでしょうか。
- まだやみの中にいる人をどう思ひますか。



聖書 エペソ5・15～21
テーマ 賢い者のように

序論

(金井)

本書でパウロは、天上に達する高まいな真理を説き、天地創造以前にさかのぼる長大な計画を教えるが、彼の生活指導は実際的で細かい。真理を学ぶことは第一に必要なことだが、学んだことを実践することも同等に重要である。当時の教会には、異教的な生活をする人々からの攻撃や誘惑に負けて、信仰を離れ、捨てたはずの古い生活に戻ろうとする信徒がいた。これは世俗化する現代社会にあつて、私たち日本のキリスト者が経験している戦いに似ている。今日は、私たちが世に打ち勝って信仰を守り、前進するために必要な姿勢を学ぼう。

一、賢い者のように歩きなさい

パウロは勧める。△そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい▽。△歩きかた▽とは具体的な生活態度のことである。△よく注意して▽とは、「正確に見きわめなさい」(岩波版)という意味である。車を安全に走らせるためには、絶えず点検し、必要なものを補充し、修理することが必要である。私たちの霊性も、礼拝、教会学校、聖書研究祈祷会、聖会などによって、点検・補充・修理を欠かさないことが大切である。

△時を生かして用いなさい▽は「機会を買ひ取りなさい」とも訳せる。私たちは機を見るに敏で

あろうか? 目を見張り、力を尽くし、犠牲を払つても、宣教・救霊のチャンスをものにしよう。なにしろ、△今は悪い時代なのである▽。1世紀の小アジア、とりわけエペソは交通・商業が発達し、優れた文化を誇っていた。今日でも巨大な神殿や劇場の遺跡が残っている(使徒19:27, 29)。

しかし、偶像崇拜や魔術が盛んであり(同19:19)、アルテミス神殿には娼婦が多数いて、極めて官能的な祭りを行っていた。この墮落した世俗文化の侵入は、教会を内側からむしばむものであった。加えて、外側から教会を脅かす迫害の問題もあった。キリスト教は初めユダヤ教の一派と見なされていたが、両者の違いが明白になるにつれて、ユダヤ教徒はキリスト教徒を迫害するようになった。本書が書かれた直後、62年には、主の兄弟ヤコブが処刑された。64年にはローマ皇帝ネロによる大迫害が起こり、パウロもペテロも殉教した。

△だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい▽とパウロは勧める。私たちは「堅い食物」を食べこなし(ヘブル5:14)、「考えかたでは、おとな」とならなければならぬ(1コリント14:20)。今の世に対する主の御旨を悟り、賢明に行動する教会でありたい。

二、聖霊に満たされて主を賛美しなさい

パウロは続けて勧める。△酒に酔ってはいけな。それは乱行のものである。むしろ御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌をもつて語り合い、主にむかつて心からさんびの歌をうたいなさい▽。小アジアはぶどうの産地であり、この地の人々は

酒を好んだ。酒を飲みながら踊ってエクスタシーを得ようとする祭儀もあった。ユダヤ人もぶどう酒を飲むが、アルコール度が低いものを常用した。飲酒について聖書はおおむね否定的である(箴言31:4～7)。酒は自制力を奪い、△乱行▽を生む。これは主の御旨にかなわない。酒に満たされて、支配されてはいけない。聖霊に満たされて、支配されよ/ 私たちに主の御旨を悟らせ、「自制」力を与えるのは聖霊である(ガラテヤ5:23)。

聖霊に満たされた者たちの口には△詩とさんびと霊の歌▽がある。これは教会の礼拝の姿である。△詩▽はユダヤ教から受け継いだ詩篇歌の伝統、△さんび▽はキリスト教会に生まれた讃美歌、△霊の歌▽は聖霊に導かれて歌う即興の歌と思われる。私たち教会の民は共に、△御霊に満たされて……語り合い▽、△主にむかつて……さんびの歌をうたい▽、△父なる神に感謝▽する。三位一体の神を礼拝することこそ、教会の最も重要な使命であり、キリスト者の生命線である。

結論

パウロは続いて具体的な人間関係について教えるが、その根本は△仕え合う▽ことである。これができるのは、△キリストに対する恐れ的心を▽持つ者である。私たちは目先の問題に振り回されやすいが、信仰生活・教会生活の根本ができていなければ、結局、何も解決しない。み言葉を忠実に学び、今がどのような時なのかよく考えて、賢明に行動しよう。何よりも公同の礼拝を大切に、聖霊に満たされ、主を賛美しながら歩もう。

研究資料

(足立)

エペソ書の構造から考えると5・15～21は、5・15～6・9までの導入部分と位置づけられる。賢い者のように歩く(5・15)ことは、愛のうちに歩く(5・2)こと、或いは光の予らしく歩く(5・8)ことと同種のものである。神が恵みと知恵を惜しみなく与えた(1・8)人として信仰者は、一貫して賢い人のように歩くことが求められている。このようなライフスタイルは、無知で知性が暗くなった異邦人(4・17～18)のそれと対照的である。また既に感謝することの大切さが力説された(1・16、5・4)が、ここにも出てくる(5・20)。キリスト者の基本的な態度は、あらゆることを主イエス・キリストの御名により父なる神に感謝することである。最後に聖霊に満たされること(5・18)への熱心な奨励がなされているが、これは本書の初めから信者の生活にある聖霊のみわざとして繰り返し言及されている(1・3、13、14、17、2・18、22、3・16、4・30、6・17、18)。聖霊の満たしに含まれる内容が、4つの節(語ることに賛美すること、感謝すること、仕えること)で説明されている(5・19～21)。5・15～21でパウロは、3つの「～ではなく」(メ～アツラ)を用いて賢く歩むことを奨励している(15、17、18)。

テキスト

15 賢くない者のようではなく、賢い者のように歩き 第一の対照が提示されている。読者たちはキリストにあつて知恵が与えられ(1・8～9)、神を知るために御霊の知恵を祈り求めることがで

きる(1・17～19)。また教会を通して神の知恵が知らせられる(3・10)。したがって神の恵みの目的を、真に理解できない賢くない人たちのようではなく、神の贖いの計画の中に入れられた者として生きるよう、読者たちは求められている。

16 今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである 賢い者は時に対する正しい態度を持つ。そして信者はあらゆる機会を最善に生かすことが求められている。理由は時代が悪いから(参照ガラテヤ1:4)。この時代は神とその目的に敵対する空中の権を持つ君の支配下にある(エペソ2:1～3)。しかし読者たちは主にあって光となつていく(5・8)。クリスチャンの使命は、墮落した世にあつて神を喜ばす生き方を実践すること。

17 だから、愚かな者にならないで、主の御旨が何であるかを悟りなさい パウロは、第二の対照によつて読者に細心の注意を払うよう勧告している。先ず読者たちのキリストにある選びそのものが神の御心である(1・4～5)。また信者は既に知らされている神の御心(1・9～10)を理解するよう求められている。そして、キリストにある真理に形造られる生活が要求されている(4・20～21)。また、何よりもこの文脈(5・15～6・9)にある勧めに従うことでもある。本書における神の御心は、信仰者が個人的な導きをもとめるというより、神の恵み深い救いの計画と、その成就のためにキリスト者(教会)がキリストに似せられた民へと変えられていくことに焦点があると考えられる。個人的な導きも神の恵み深い救いの計画という枠組みの中で意味を持つものとなる。

18 酒に酔ってはいけな。むしろ御霊に満たされて 第三の対照もキリスト者の読者たちが注意深く、賢く生きるために大切なことを明確にしている。それは飲酒禁止に始まり、「聖霊に満たされる」という積極的忠告で結論づけられている。パウロの主要な関心は、読者たちが継続して聖霊によつて生きることを促すことにある。この勧めこそ4～6章の根底にある鍵の役割を果たすものである。原文では18～21節は一つの長い文章であり、5つの分詞が「聖霊に満たされる」命令を修飾している(語ることに賛美すること、詩「音楽」を作ること、感謝をさげること、服従すること)。読者たちは既に自分たちが聖霊の証印をおされた者(1・13)であり、御霊を悲しませてはいけな(4・30)を語られてきた。そして、ここでは御霊に満たされることが強調されている。キリストのからだとしての教会は主が満ちているところであり(1・23)、神ご自身の満ち満ちたさまにまで信者が満たされることが求められ(3・19)、キリストのからだを立てあげられるために信者がキリストに満ちて成熟することが目的である(4・12～13)。この過程において聖霊は信者たちを個人的にまた体としてキリストのかたちに力強く変えていく。したがって私たちが賢く、主の御心を十分理解して生活していくためには、聖霊に満たされて神のわざに与り続けることが中心にある。霊的な満たしと成熟は、キリストにある霊的原则によつて達成される。参考図書 Foulkes, F., Ephesians (IVP). O'Brien, P.T., The Letter To The Ephesians (Eerdmans).

聖書 エペソ5・15～21
タイトル 賢い者として歩こう
暗唱聖句 賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。
目 標 今の時をよく知って、賢く生きよう。
エペソ5・15、16

導 入 (水野)

♪主イエスと共に歩きましょう、どこまでも、主イエスと共にあるきましょう、いつも♪
(ふくいんこどもさんびか90)

2月は、「神の子として歩むこと」「神様の愛によって歩むこと」「光の子らしく歩むこと」と毎日の生活で、イエス様と共に歩くことのすばらしさを学んできました。今日は、「賢い人のように歩くことについて学びたいと思います」

賢い人とは？

賢い人ってどんな人ですか？「頭がいい人」「勉強ができる人」なのでしょうか？

イエス様は、賢い人と愚かな人のたとえ話をされました。愚かな人は砂の上に家を建て、賢い人は岩の上に家を建てました。砂の上に家を建てるのはとても楽でした。岩の上に家を建てるのは大変で、とても苦勞して家を建てました。嵐がやってきて雨や嵐が強くなり、砂の上の家はぐらぐらし始め、ついに倒れてしまいました。ところが、岩の上に建てた家はびくともしません。しっかりと土台に建てられているからです。

賢い人とは、神様にしっかりと土台を置いて生きる人です。神のみ言葉に従って歩むとき、いろいろな困難や問題がやってきてもぐらぐらしません。心のうちが聖霊なる神様に満たされ、正しく歩むことができるからです。
神様に土台をおかないで、この世の楽しみや好きなことに心が奪われている人は、お酒を飲んでふらふら歩く酔っ払いのようで、すぐ誘惑に負けてしまうのです。

賢い人のように歩こう

いつも神様を第一にして、神様が望んでおられる道を歩もうとする人は、どんなことにも感謝することが出来ます。「神様、新しい1日を感謝します」「おいしいごはんをありがとうございます」「お父さんお母さんありがとうございます」「お友だち、犬、ねこ、虫、みんなありがとう」、勉強することや遊べること、どんなことも感謝していくと喜びがあふれ、神様をほめたたえて歩めるのです。

例 話

5、6人のお友だちが、鬼ごっこをして遊んでいました。追いつ追われつ楽しく遊んでいましたが、1人の女の子が何かにつまづいて、ばったりと倒れてしまいました。この少女は目が見えないのです。でもとても元気なので、すぐ飛び起きてまた遊ぼうとしました。すると年上のお友だちが、「もういやになっちゃうわ、目が悪いのでちょっと役に立たないから」と、何の気なしに言った言葉聞いた少女は、たまらなくなつて、そのまま家に帰り、机に顔を伏せて泣きました。あとから

あとから泉のように涙があふれてきます。やがて指を組んで祈り始めました。ぶるぶる震えながら「神様、私は目が見えませんが、何にも役に立てません。でも、やっぱりあなたの子どもですから、人の役に立たなくても神様に役立つ子どもにしてください」と、熱心に祈りました。
そのお祈りは、やがて神様に聞かれ、一生涯に5、6千の讃美歌を作り、95歳で天国へ召されました。この少女こそ有名なファニー・クロスビーです。彼女は、目が見えなくても、イエス様と共に歩き続け、聖霊に満たされ詩と霊と賛美の歌を作り、今も世界中の人々を慰め励まし続けています。あなたもファニー・クロスビーのように賢い人のように歩きたいと思いませんか？

ま と め

今はとても悪い時代です。油断していると、すぐ悪魔に負けてしまいます。教会学校に励み、聖書を毎日読んで祈り、信仰生活の土台をしっかりと築きましょう。祈りによって神様と交わり、聖書のみ言葉が蓄えられることによって、私たちは神様の武具を身につけることができ、悪魔に勝利することが出来ます。

教会に来ていないお友だちは、どんなに楽しそうに見えても、気楽そうでも、嵐が来るとぐらぐらして行き詰まってしまう。お友だちにも、イエス様のことをお話しして、ここにしか確かな土台はないことを知らせ、いっしょに希望を持って歩いていきましょう。これが神の子とされた、私たちの大切な使命です。賢い人となって、神様のお役に立つものとなりましょう。

ワーク A

話し方のヒント

誰でも賢い人になりたいですね。では、賢い人というのはどんな人でしょう。それは、いままで教会学校で学んできたように、神の子とされて、神様の愛の中を光の子らしく歩いて行く人です。どんなにつらいことや悲しいことがあっても、神様の言葉が心の中にあれば、へこたれたりしません。ちょうど、岩の上に建てられたおうちが、嵐がきても倒れたりしないのと同じです。

ワークについて
砂の上に建てたおうちでは困ります。岩の上に建てましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
●質問2 本当の賢さは、この世の知恵とは違います(1コリント1・18～25、マタイ7・24～27)。

しかし、勉強は不必要なことではなく、むしろ神から与えられた能力を最大限に生かすことが求められています。
●質問3 この悪い時代に、この世に押し流され悪魔に負けてしまわないように、生徒たちに神の武具を身につけ戦うことができるように、み言葉をたくわえること、祈り、教会学校に集うことを教えましょう(エペソ6・10～18)。

ワーク C

み言葉、「賢い者」【今の時】

●「賢い者」とは、どういう人かを尋ねます。それは単に勉強ができる人ではなく、仕事ができる人や人気者でもなく、神を信じてみ言葉に従って(土台として)生きる人のことです。

●この悪い時代に、どのように備えたら、賢い者として生きていけるでしょうか。その準備について一緒に考えます。なかなかできないのが現状でしょうから、工夫したり励ましあったりすると良いです。

●お祈りの中の「…」の部分には、①「自分が示され教えられた事を自由に祈る」という意味と、②「主イエス様のお名前によってお祈りします」を入れる」という2つの意味が込められています。

ワーク D

●「賢い者のように」といわれると、抵抗を感じる人もあるかも知れません。自分は賢くないなあ、と思つて遠慮するかも知れません。けれどもここで言う「賢い」とは、神様を知らない、神様を無視した生き方とは反対に、神様の贖いの計画の中にいる人のことです(研究資料参照)。むしろ、聖書では「わたしは知者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしものにする」(1コリント1・19)と言われます。

●マタイ7・24、27を見れば賢い生き方がよくわかります。表に書き込みながら、自分もそのように生きたいと、願いが起これれば幸いです。

中 高 科 へ の コ ン ト

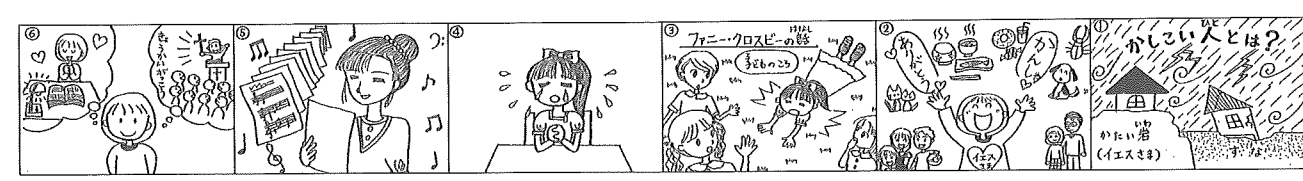
観察してみよう

- 1 「歩きかた」とは実際の生活のことですが、どのように歩くようにと書かれていますか。
- 2 なぜ酒に酔つてはいけなさと書かれているのでしょうか。(それは神様を悲しませる乱れた行動をしやすいため)
- 3 御霊に満たされて、どんなことをするようにと書かれていますか。(19～21節)
- 考えてみよう

- 1 賢い者とは、どんな人だと思いますか。(主を畏れる、悪いことを避ける、など)
- 2 今の時代はどのように悪いと思いますか。
- 3 どのように今の時を生かして用いるべきだと思いますか。

- 4 御霊に満たされるとは、どういうことだと思いますか。(魂が御霊に支配される、御霊に自分を明け渡すこと)
- 自分に当てはめてみよう

- 1 お酒でなくてもあなたが酔い、やめられなくなるものがありますか。(ゲーム、マンガ、テレビなど)
- 2 あなたには、御霊に満たされたという経験がありますか。
- 3 御霊に満たされたことがあると言う人は、今でも御霊に満たされ続けているでしょうか。
- 4 仕えるとは犠牲を払つて、従うことを意味しますが、あなたが仕えるべき人は誰ですか。



聖書 黙示録2・8～11 テーマ いのちの冠

序論

(金井)

12月から「希望に生きる」という期題で学びを続けてきた。3月は「未来の希望」をテーマとして、まず、ヨハネの黙示録を2週続けて学ぶ。

本書は使徒ヨハネがドミティアヌス帝の治世(81～96年)末期に書いたとする説が有力である。難解な書であり、様々な解釈がなされてきたが、歴史的事情と預言的性格を併せて考慮しつつ読み解くのが適切であろう。すなわち、当時、教会を迫害していたローマ帝国・皇帝を終末時代の「獣」、「大いなるバビロン」のモデルと見るのである。本書には当時の状況をはるかに越える内容が含まれている。本書はアジア州の7教会に送られたものであるが(1・4、11)、7は完全数であり、各教会への個別のメッセージすべてに「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい」と記されている。現代を生きる私たちも、本書のメッセージを自分に向けられたものとして学びたい。

一、真の支配者はイエスである

ヨハネは紀元30年にキリスト教会が誕生して以来、ペテロと共にエルサレムで指導的な役割を果たした。ユダヤ人やローマ帝国による迫害によって使徒たちは次々と殉教したが、ヨハネは生き延びてエペソで晩年を過ごした。ドミティアヌス帝の時代に彼はエーゲ海の小島パトモスに流刑となった(1・9)。そこで彼は「イエス・キリストの

黙示」(1・1)を受けた。「黙示」とは覆いが取り除かれて、隠されていたものが現れることである。主イエスは「すぐにも起るべきこと」(同)をヨハネに啓示された。

スミルナの教会へのメッセージの冒頭で、イエスはご自分を「初めてであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者」と言われた。神は「今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかた」(1・4、8)、「アルパであり、オメガである」(1・8)。アルパ(α)はギリシア語のアルファベットで最初の字、オメガ(ω)は最後の字である。すなわち、主イエスはご自分を、父なる神と同じ神性を持つ永遠の神、歴史の支配者として提示されたのである。この頃、ドミティアヌス帝は自らを神とし、国民に皇帝礼拝を強要していた。しかし、イエスこそ「地上の諸王の支配者」(1・5)であり、礼拝されるべき神である。

二、死に至るまで忠実であれ

主はスミルナの教会に語られた、「わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている」。スミルナは優れた港を持ち、商業が盛んな都市であった。しかし、この地のキリスト者は極度に貧しかった。ローマ時代のキリスト者の多くは下層階級に属していたが、さらに彼らの家庭は略奪されたのかも知れない。△サタン△(敵対者)の会堂に属するユダヤ人はキリスト者を迫害していた。

主は彼らの現状も未来も知っておられる。彼らがこれから△受けようとする苦しみ△、すなわち投獄についても主は知っておられたので、彼らに

言われた、「△あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。……死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう△」。

三、いのちの冠をめざして

スミルナの人々はローマへの忠誠で知られた。紀元前195年に、この町にローマの女神の神殿が建てられた。高台に建つ美しい神殿は「スミルナの冠」と呼ばれた。この滅び行く世の栄華に優る△冠△がキリスト者には用意されている。私たちは神から永遠の△いのち△をいただいており、やがて栄光の体に化せられて輝くのである。

この△冠△は競技の勝利者に贈られる花輪である。この世の花冠は朽ちるが、霊の戦いに△勝利△を得る者は、第二の死によって滅ばされることはない△。永遠の栄光をめざして、戦い抜こう。

主はスミルナの貧しいキリスト者に、△しかし実際は、あなたは富んでいるのだ△と言われた。試験の中でも、主が彼らを豊かな恵みで満たし、彼らの信仰を守っておられたのである。

結論

本書には、サタン(悪魔、龍、へび)とその使いたちと反キリスト(獣、大いなるバビロン)が、キリストと天使と教会に挑みかかる姿が描かれている。これは私たちが経験している戦いの霊的本質であり、この預言はことごとく具現する。国家権力による偶像崇拜の強要を日本のキリスト者は経験してきた。それ以上の迫害の時がやがて来る。死に至るまで忠実であれ。いのちの冠を受けよう!

研究資料

(足立)

スミルナはその当時よりつく唯一の町で、現在の名はイズミールである。この町は当時小アジアにおいてエペソに次ぐ大都市で、エペソの北方約60kmにありエーゲ海に面する港町であった。港は陸地に深く入り込み、立地条件に恵まれていた。紀元前195年にはローマのために神殿を建立し、ローマに忠誠を尽くしていたので、ローマもこの町を保護した。

テキスト

8 初めてであり、終りである者 この称号は本書においてキリストのみに使われている(1・17、2・8、22・13)。アルパであり、オメガである(1・8、21・6、22・13)。これらの称号は神とキリストが歴史を統治しており、過去だけでなく将来も支配していることを意味する。キリストは永遠の神であり、彼の苦しみに従う者に対して弁明を保証している。この称号はイザヤ44・6と48・12から引用されている。旧約からの引用で注目すべきことは、スミルナのユダヤ主義者を意識しているのである。迫害下にあるスミルナの教会は、イエスが卓越し彼らを見守るお方であることを認め、この方に間かなければならない。死んだことはあるが生き返った者 この称号はさらにキリストに適している。二つの動詞が過去時制であることにより、イエスの死と復活という歴史的事実を指し示すことがわかる。スミルナの町それ自体も前600年に滅ばされ、前290年に再生した。そのようにイ

エスはその死後再びよみがえった。既に1・17、18で言及されている。ここでのポイントがスミルナが今のいのちを取り戻したことは、イエスがその未来のいのちを保証していることにある。スミルナの教会がいま苦悩に満ちていても、究極の時は既に安全であるとの保証を得ていた。

9 わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている 「あなたの」(ソウ) 辛苦、貧困、中傷による痛みをキリストは分かち合っており下さっている。初代教会は苦しみを分かち合っていた(参照ピリピ3・10)。キリストのために苦しむことは特権であって悲しみではなかった(ヘブル12・11)。スミルナ教会は苦しんでいたが、結果として神によって賞賛された。当時苦悩は神の民が味わう基本的な問題であった(1・9)。迫害によって教会は貧しさを経験した。信仰者は異教社会で仕事を失った。それゆえ貧しさがしばしば主の弟子たちに重くのしかかった。なぜならこの世の民は光の子たちを嫌うから(ヨハネ15・18、16・4)。

旧約において貧しさは、神の民の間では許されない異常事態として見られた。全体として主に属する民が信仰によって与えられる土地は貧しくなかった(参照、申命記8・9、15・1、18、24・14、22)。しかしイエスにおいては幸いの最初に貧しさがある(マタイ5・3、ルカ6・20)。神の国は彼らのものである。主は貧しい者を見守っておられる。黙示録で「貧しさ」が出てくるとき、何らかの意味で「富んでいる」とこと対照的であることは、興味深い(3・17、13・16)。9節の貧しさ(ブトラーイアン)は極度の貧困を意味し、スミルナの信仰

者がキリスト教への改宗の結果職を奪われ、経済的困窮のただ中であつたと考えられる。しかしながらこの迫害は、実際には教会を神に近づかせた。しかし実際は、あなたは富んでいるのだ 神の右の座に着くキリストはこう言われた。換言すれば彼らに通ってきた苦痛にもかかわらず、神は彼らに霊的な富を与えてきたということ。マルコ10・29、30にあるイエスのみ言葉が、これを保証している。

10 あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない 強調されているのは、だれをも恐れるなということ(参照詩篇46・1、3、マタイ10・28)。迫害下の教会(読者)を意識した手紙においてこのテーマが間断なく出てくる(ヘブル10・31、11・23、27、12・13、13・3、6、1ペテロ3・14、15、4・12、14、19)。ここで言う苦しみとは、迫害と殉教であろう(参照3・10、6・10、11)。見よ、悪魔が、あなたがたのうちの者をだめすために悪魔の目的は信者に信仰を捨てるよう誘惑することであるが、神の目的は彼らの信仰を試すことにある。死に至るまで忠実であれ 「忠実」は本書の鍵を表す言葉である(1・5、2・10、13、19、3・14、13・10、14・12、17・14、21・5、22・6)。そうすれば、いのちの冠を与えよう この冠は王のかぶる冠(ディアデーマ)ではなく、競技者が受ける勝利の冠(ステファノス)である。

参考図書 鈴木英昭「ヨハネの黙示録」『実用聖書注解』(いのちのことば社)、W・ヘンドリックセン『ヨハネ黙示録講解』(聖恵授産所出版部)、Osborne, G.R., Revelation(Baker)。

聖書 黙示録2・8～11
タイトル いのちの冠をめざして！
暗唱聖句 死に至るまで忠実であれ。そうすればいのちの冠を与えよう。
目 標 主の再臨の時、主の前に出る時まで、忠実に進もう。

導 入 (長谷川)

3月に入りました。3月は学年の最後の月、卒業、卒業の近いお友だちもいますね。新しい学年を迎えるための大切な3月、一日一日を大切に過ごしましょう。

さて、教会学校3月のテーマは「未来の希望」です。皆さんは「未来に希望がありますか？ 悲しい事件が多かったり、戦争やテロのニュース、大きな災害のことも心配ですし、本当に不安なことが多い今の世の中ですね。そればかりを見ていると未来が心配になりますが、「未来の希望」は確かにある、と聖書はそう言っています。

未来を握られるイエス様

黙示録を書いたヨハネは、パトモスという島でイエス様から特別な「黙示」をいただきました。「黙示」というのは、「隠されていたものが表わされること」です。つまりイエス様が、「特別な約束をわかり易く説明してくださいました」のです。その黙示録の最初の部分で、イエス様は素晴ら

しい約束をたくさん述べてくださいました。それは、一言で言うところ、「未来の鍵を握っているのは、わたし、イエス・キリストです」と言うことでした。何と言う安心でしょう。未来をちゃんと握ってくださるお方がおられるとは！

「初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者」、「今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかた」(1・4、8)、「アルパであり、オメガである」(1・8)、「地上の諸王の支配者」(1・5)等のみ言葉は、全てイエス様が「未来の希望」を私たちに約束してくださっているお言葉なのです。未来の心配は無用です。

私たちのすべきこと

「棚からぼた餅」という言葉がありますが、イエス様の約束があるから、と私たちは何もせずダラダラと、勝手な生き方をして「未来を待つ」のでしょうか。イエス様は、「死に至るまで忠実でありなさい」と言われました。

つまり、天国に迎えられるその日まで「忠実に信仰生活に励みなさい」と言われたのです。この「忠実」とは、「ま心を尽くしてよくつとめる」(国語辞典)と言うことです。

昨年の秋、バスケットボール選手の田臥(たぶせ)勇太さんが日本で初めてアメリカNBAチームの選手に選ばれました。記者会見で田臥さんは「これからの目標は？」と聞かれ、「これからも今まで通りコツコツと練習することが目標です」と答えました。スポーツ選手は目標に向かって毎日コツコツと練習に励みます。イエス様を信じる私たちはスポーツ選手以上にコツコツ、それこそ「忠

実に」イエス様の道を歩むことが大切です。それは、イエス様が「命をかけて」私たちを愛してくださったからです。

いのちの冠をめざして

学校でも家でも一生懸命何かを頑張った時「こほうび」がいただけますね。イエス様を信じ抜いた人にも「こほうび」が用意されています。それが「いのちの冠」です。この「冠」は、競技の勝利者に贈られる「花輪」です。アテネオリンピックではメダリストにオリーブの葉の冠が贈られていましたね。あのように、「忠実に」最後まで走り抜いた人に、「冠」が用意されているのです。

イエス様から「いのちの冠」をいただく日を夢見たとき、とてもうれしくなりますね。

まとめ

イエス様に従う時、つらい思いをすることもあります。たとえば、日曜日の朝は友だちと遊べない、人をいじめる友だちとは仲間になれないなどがあります。でも「いのちの冠」がいただけると思うとき、そんなことは平気になりますね。私たちが忠実に続けることはどんなことでしょうか？ それは毎日お祈りをする、聖書を読む、日曜日の礼拝を守る、お友だちにイエス様を伝える、隣り人を大切にするなどです。

天国の表彰台にはイエス様に従い抜いた人の名前が書いてありますよ。私たちも、「いのちの冠」を目ざして、コツコツお従いし続けましょう。

♪王のかんむり♪(ふくいん子どもさんびか54)

ワーク A

話し方のヒント

私たちは、未来のことについては誰もわかりませんが、イエス様が全部知っておられ、ちゃんと導いてくださるので安心ですね。それに、いのちの冠を用意してくださっているというのは、うれしいことです。でも、これはイエス様に従った人がいただけるものです。私たちも、大好きなイエス様にお従いしていきましょう。

ワークについて

いのちの冠をいただけるように、ゴールを目指して道を進みましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 信仰の戦いは子どもの時からあります。一つ一つ忠実であることの大切さを教えましょう。特に聖日を守ることが基本です。やがて中学生となり部活の問題もできます。そのときに急に戦うことは難しいので、今から神を第一にすることを教えるべきです。

●質問3 それぞれ直面している戦いを聞き、共に祈りましょう。またそれをはるかにまさる勝利を得る者の報いのすばらしさを教えましょう(Ⅱコリント4・16～18)。

ワーク C

み言葉「死」「忠実」「いのちの冠」

●最近のいろんな事件、事故、災害や日常生活の中で、こわいと思ったことはないかと尋ねます。

●こわい理由を考えると、結局は「死」と「貧しさ」(生活の困難)に行き着きます。

●実はイエス様こそ「死」を解決してくださったお方。また生活の必要を満たしてくださるお方です。そして、このお方がいつも共にいてくださるということ、すでに根本的な解決を与えられており、こわがらなくてよいことに気づかせます。

●そして、「いのちの冠」(黙示2・10)が待っており、「いのちの書」(黙示20・12～15)に名が記されているからには、このお方の前に立つまで、このお方に忠実に従って歩もうと勧めます。

●さらに忠実に歩むことの具体的内容を考えます。

ワーク D

●分級の中では、生徒一人一人の信仰の戦いの内容を聞くことはできなくても、その時の感情を話し合うことは可能と思います。そのことに時間を十分取ってください。

●その後ワークの質問を通して、イエス様のみ言葉に生徒一人一人が直接ふれていただきたい。先生からの解説でも説教の確認でもなく、生徒のみ言葉からいただいた慰めを分級で分かち合ってください。

●先生は生徒がすぐに話さなくても3分沈黙を受け入れて待ってください。先生が解説等を最初にしないようにしましょう。ただし話さなくても、「あなたがたは富んでいる」「忠実」「いのちの冠」の意味を自分の言葉で表現できるようにしておくことは大切です(研究資料参照)。

中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 「初めであり、終りである者、死んだことはあるが生き返った者」とは誰のことでしょうか。(復活して生きておられるイエス様)
- 2 イエス様は何を知っておられると書かれていますか。(9節)
- 3 死に至るまで忠実であれば、どんな報いがあると書かれていますか。(10節)
- 4 勝利を得る者への約束は、どんなことだと書かれていますか。(11節)

考えてみよう

- 1 復活の主はこの個所を通して、誰に向かって語っておられるのでしょうか。(現代の私たち)
 - 2 「初めであり、終りである者」とは、どういう意味だと思いますか。(イエス様は、この世の初めから終りまでを支配しておられる方)
 - 3 「いのちの冠」とは、どんなものだと思いますか。(永遠の命をあらわすもの)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたの心の苦しさや、つらい思いをいちはばん理解してくれる人は誰でしょうか。
 - 2 イエス様は復活していま天におられますが、この個所を通してあなたに直接語っておられます。あなたはどのように答えますか。
 - 3 あなたは自分の力で、死に至るまでイエス様に忠実であることができるでしょうか。できないとすれば、どうしたらよいでしょうか。



聖書 黙示録3・14～22
テーマ 交わりの希望

序論

(金井)

時の流れは原初から終末へと直線的に進行する。やがて万物更新の時が来て、この世は終わり、新天地が出現する。これが聖書の歴史観である。夜は更け、日が近づいている(ロマ13・12)。世人は快樂におぼれ、靈的に眠り込むが、私たちは目を覚まして黙示録を学び、主の日に備えたい。

一、慢心のしつ責

△ラオデキヤ△は、小アジアの内陸部を貫通してエペソとアンテオケを結ぶ街道の途中にあり、ペルガモを通ってマケドニア方面へと抜ける街道の起点ともなっている要衝の地である。この都市は商業や金融業、織物業が盛んであり、紀元60年の地震によって崩壊した後も自力で復興できたほど強い経済力を持っていた。この地に伝道して、教会の基盤を築いたのは、パウロの同労者エパfrasのようである(コロサイ1・7、4・12～16)。

ラオデキヤの教会は、前回学んだスミルナの教会とは対照的である。スミルナの信徒は経済的に貧しかったが、靈的には富んでおり、迫害に耐えていた。一方、ラオデキヤの信徒は△自分△は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っている△が、靈的には△みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者である△。彼らはそのことに△気がついていない△。この教会では、主であるイエスが△戸の外に△開

め出されて、△立って△おられる。

△熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう△と、主イエスはこの教会の信徒を厳しくしかられた。この町には遠くの温泉から引かれた水道があり、その水は生ぬるかった。そのごとく、彼らも熱き祈りの人エパfrasに導かれて初めは熱い信仰を持っていたが、次第に冷めて、生ぬるくなってしまうたのである。

二、悔い改めの勧告

彼らに対して主イエスは△アアメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるか△と御自分を提示された。△アアメン△は元来、「それは確かである」、「確かにそうであれ」という意味のヘブル語である。ユダヤ教の礼拝で説教や祈禱、賛美に同意して会衆がこれを唱和した。イエスはこの語を愛用され、時には「アアメン、アアメン(よくよくあなたがたに言っておく)」と重ねて断言された(ヨハネ1・51、他)。△アアメンたる者△という表現はイエスが「アアメンの神(真実の神)」「イザヤ65・16」であることを示す。私たちが不忠実であつても、主はどこまでも真実を尽くされる。主の証言に偽りは無く、いかなる被造物も主の目に隠されてはいない。

主は彼らの実情を知るゆえに、三つの物を△買いなさい△と勧告された。彼らは犠牲を払ってでも、信仰をリバイブすべきである。第一に彼らは△火で精錬された金△すなわち純粋な霊の恵みを求めなければならない。第二は△白い衣△である。この地方の羊は光沢のある柔らかない黒毛を産出し

ており、人々は高級な衣服を着用した。しかし、彼らに本当に必要なのは「小羊の血で洗」われた衣、すなわちきよい品性である(7・14、19・8)。この衣を着ない者は△裸の恥をさらす△。第三は△目にぬる目薬△である。この町には薬学校があり、目の痛みをいやす薬が売られていたが、彼らには聖霊による霊的視力の回復が必要であつた。

三、交わりの希望

△すべてわたしの愛している者を、わたしはしなかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になつて悔い改めなさい△と主は言われる。主は試練を用いても信徒を覚せいしようとしておられる。△見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう△。心の戸を開いて主を迎えるなら、豊かな交わりが回復される。主と共に戦い抜く者には栄冠が輝く。△勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である△。

結論

私たちの生活の王座に主がおられるだろうか。教会に聖霊の火は燃え上がっているだろうか。あるいは主を閉め出して、人間中心に生きてはいないだろうか。今も主は、私たちの心の戸をノックしておられる。悔い改めて心を開き、主を王座に迎えよう。リバイバルを期待して祈ろう。

研究資料

(足立)

ラオデキヤ、ヒエラポリス、コロサイの三姉妹教会の設立は同時期であり、エバfrasが深く関わったようである(コロサイ1・7、4・12)。ラオデキヤとコロサイの町の間は約20数km。パウロのコロサイ人への手紙は、ラオデキヤ教会でも読まれた(コロサイ4・16)。ラオデキヤは温泉地に近く、また有名な医学校があり、特に弱視に効く薬を作っていた。この町は毛織物の町でもあり、特に黒い羊の毛で織った布地が有名であつた。しかしラオデキヤが有名なのは、富裕階層の町であり、何よりも銀行家が幅をきかせていた。

ラオデキヤ教会は残念なことに、21世紀初頭の現代キリスト教会が内包している最も大きな問題を既に抱え込んでいた。それは私たちの言葉で言えば、成功という名のもとにある自己充足であろう。すなわち多くの会衆、綺麗な建物、多額の献金こそ神の祝福であるという偶像崇拜をなし、「なまぬるい」体質を温存させていた。

テキスト

14 アアメンたる者 これはおそらくイザヤ65・16を繰り返しているであろう(真実の神が2回)。ヘブル語アメンは、真実であることを証明する、或いは確証することを意味し、旧約においては祈り(歴代上16・36)や賛美(詩篇41・13)をささげるときしばしば用いられた。イエスは特に重要なことを宣べるにあたり、これをしばしば使った(マタイ31回、マルコ13回、ルカ6回、ヨハネにおいて2重のアメンを25回)。この文脈において

はイザヤ書の側面が支配している。イエスは神の真実をともししている。イエスお一人のみ言葉を保持する上で信頼できる(ラオデキヤの信徒は信頼できない)。忠実な、まことの証人 イエスは忠実な証人(1・5)。キリストはまこととなる者(3・7、19・11、ヨハネ14・6)。証人(2・13、11・3、17・6)。これらの3つの言葉は、なまぬるいラオデキヤ人とは著しい対照を成している。神に造られたものの根元であるか この称号はコロサイ1・15△16を想起させる。イエスは神の創造の源であり、創造者なる神である。

15△16 あなたは冷たくもなく、熱くもない ヒエラポリスは熱い温泉で有名であり、コロサイは冷たい不純物のない飲み水で知られていた。ヒエラポリスの流れは癒しに効果があると知られ、コロサイの冷たくいのちを与える水はその地域で役に立った。ラオデキヤにはそれ自身で供給できる水はなかった。「冷たくもなく、熱くもない」という言葉は、ラオデキヤの教会にとつて象徴的な意味を持ったであろう。なまぬるいので これは彼らの霊的状态を言い当てている。なまぬるさは私たちの救いのために御子を惜しまず与え尽くした父なる神ご自身とは、まったく重ならない(ローマ8・32)。また御子イエスの贖いのスピリットとも相容れない(マルコ10・45)。神に受け入れられる生きた聖なる供えものとして自らを明け渡すことこそ、ご自身を与え尽くした神への筋の通った応答である(ローマ12・1)。私たちの贖いのために主が完全な自己放棄をなさったことにより、私たちの奉仕においてもまったく自分を捨てることの間違ひなく出てくるはずである(ルカ14・26、

33)。なまぬるさが原因でラオデキヤ教会のメンバーの実体は、主とその御名に結びつかなかった。あなたが口からはき出そう 彼らは働きが無く、主に対して役に立たない。結果としてイエスは彼らをはき出さざるを得ないという。これは差し迫った状況を意味している(黙示録2・10、3・2、10)。速やかに神の審判が下る。

17 ラオデキヤの自己充足、自己礼賛のスピリット(実際は偽り)は、エフライムの誇りを連想させる(ホセア12・8)。コリント教会は自らの賜物と哲学的資質の豊かさゆえにうぬぼれを膨らませたが、ラオデキヤ教会は富の豊かさのために自分たちを見失い、神への信頼を忘れてしまった。彼らはすべての良きものと完全な贈り物は上から来るといふ真理に対して目を閉じていた(ヤコブ1・17)。コリント教会同様、ラオデキヤ教会も神によって祝福されてきた。しかし感謝を忘れたしるしである彼らの自己夢中の姿により、霊的誇りこそ教会を衰弱させている疾患であることを彼らが学ばねばならなかったことがわかる。

18 結局ラオデキヤ教会が富に信頼していたことは偽りであると証明され、迫害や主のさばきという試みを断じて通過できなかった。というのは私たちの墮落した社会がその魂を売り渡すすべての滅び行く商品より、信仰の純粋さははるかにまさって計り知れなく高価なものだからである。

参考図書 W・ヘンドリックセン『ヨハネ黙示録講解』(聖恵授産所出版部) Hughes, P. F., The Book of The Revelation (Eerdmans). Osborne, G. R., Revelation (Baker).

聖書 黙示録3・14～22

タイトル イエス様を心の王座に！

暗唱聖句 見よ、わたしは戸の外に立って、

たたいている。 黙示録3・20

目標 キリストとの最高の交わりを保ち続けよう。

導入

(長谷川)

皆さんの心は今、何でいっぱいですか？ゲーム、おもちゃ、カード、本？ある人は「お金だよ」なんて答えるかもしれませんね。つまり、それらのものはみんな「大好きなもの」ですね。

今日は、私たちの心に何を迎えることをイエス様は願っておられるかを一緒に学びましょう。

ラオデキヤ教会の状態

今日の聖書の箇所は「ラオデキヤ教会への手紙」です。ラオデキヤは今のトルコの国の一部にあった町です。この町はとても栄えている町で、住んでいる人々も豊かな生活を送っていました。今の日本のようですね。

その町の教会は、やはり、物もお金もある豊かな教会でした。「自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もない」という言葉を言う程の教会だったのです。それは嬉しく、感謝なことですが「もうそれだけで十分だ」と思ってしまったのでした。物やお金を豊かに与えてくださった「神様」を忘れて、それらのものに「心」を奪われて

いたのです。言い換えれば、世の中が中心の教会になってしまっていました。もちろん、パウロ先生やエパfras先生によって教会が始められた頃は「イエス様が一番！」だったのですが。

「なまぬるいぞ」との忠告

皆さんは温泉が好きですか？最近では色々なところに温泉が出来ていますね。「あったかくなる」ので気持ちがいいのですが、その温泉が「ぬるい」お湯だったらどうでしょう。カゼを引いてしまうかも知れませんね。またココアでも、紅茶でも、お茶でも「ぬるい」ものは美味しくありませんね。熱いか冷たいか、このどちらかがいいですね。イエス様はラオデキヤ教会に、「あなたたちの信仰はなまぬるい！」とおしかりになられました。また「熱くもなく、冷たくもない」とも。その上、「あなたを口から吐き出そう」とまで言われました。すごくキツイお言葉です。

イエス様は「中途半端」な信仰を注意されたのです。ラオデキヤ教会の人々の心が「イエス様が一番」になって欲しいと願っておられたからです。

戸の外に立ってたたきイエス様

厳しい忠告をされたイエス様ですが、実はとても優しい、愛の溢れたお方でした。なまぬるくなっていたラオデキヤ教会の人々に、「わたしはアーメンたる者、忠実な者だから、今からわたしのところに戻るなら大丈夫ですよ」と言ってくださいました。そのお言葉が「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいています。…わたしはその中にはいて彼と食を共にし…」です。

「食事を共にする」ことは、「赦していますよ。受け入れていますよ」という意味なのです。「今からでも遅くないので、あなたの心にわたしを迎え入れて下さい」と声をかけて下さったのでした。「トントントン！」イエス様はいつも私たちの心のドアをノックして下さっています。「ハイ、どうぞお入り下さい」とドアを開けるのを待っていて下さるのです。いつも、なのです。

まとめ

若い時にクリスチャンになられた山田さんは、お仕事が忙しくなり教会から離れていました。それから30年以上たったある日、駅前で配られていた教会のコンサートのチラシをもらい「あーなつかしいなあ。また行こうかなあ。どうしようかなあ」と思い電話をしてみました。「もしもし、教会ですか？」「あー、山田さん、その声は山田さんですね」と先生が言われたのです。30年以上も会っていない山田さんを、先生は覚えていてくださり、ずっと祈り続けておられたのですね。

山田さんは感激でした。それから山田さんは教会に戻られ、今は、教会の役員として一生懸命イエス様のために働いておられます。奥さんも他の宗教に熱心でしたが、一年後にイエス様を信じてクリスチャンになられ、今、お二人で喜んで教会生活を送られています。この牧師先生は岡南教会の鈴木一郎先生です。

皆さんも、イエス様を心の王座にお迎えしてイエス様と親しいお交わりをしていきましょね。♪心の戸の外に♪(ふくいん子どもさんびか20)

ワーク A

話し方のヒント

おうちの玄関にお客様が来ておられるのに、気が付かなかつたら大変です。でも、お客様は、呼びリンを押したり扉をたたいたりして、やって来たことを知らせてくれます。今日は、イエス様が私たちの心の扉をたたいておられることを学びました。でも、イエス様はすぐに帰ってしまうお客様ではありません。私たちはイエス様を心の中にお迎えして、いつもお交わりをしましょう。

ワークについて

今日のみ言葉が書かれた、しおりを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様を信じていても、なまぬるい状態をイエス様が「戸の外に立って」おられると表現しています。心にお迎えするとはイエス様を第一にし、絶えざる交わりと信頼の中を歩むことです。

●質問3 自分の中に、イエス様以上に優先させてしまうものがないか考えさせ、具体的に悔い改めることが大切です(19節)。

ワーク C

み言葉、20節全体【戸】【中】【食を共に】

【食を共に】

●ラオデキヤ教会のクリスチャンの信仰が生ぬるくなっていた原因を考えます。豊かになるにつれて、心の王座に座っているのはイエス様ではなく自我となっていたのです。

●イエス様は、そういう者をも見捨てず、悔い改めを勧めて心の戸をたたき続けておられます。

●自分も心にイエス様を受け入れ、心の王座に座っていたらどうするかを考えます。

●自分が心の王座に座っていることを悔い改め、イエス様を迎え入れる祈りをします。

ワーク D

●今回の分級でイエス様がドアの前でノックしている絵を用意してください。先生の手書きでもいいですが、ドアの外側に取手(フ)は書かないでください。

●ワークの7番目の質問は生徒にとって大切な質問です。「なぜ、あなたの心の中にイエス様がおられると言っているのですか」の問いに(他の生徒の声が入らないように各自答えを紙に書かせる方が良いでしょう)いろいろな答えが返ってくると思います。その時もう一度「じゃあ、なぜそうしたら、あなたの心の中にイエス様がおられるというのですか」と問い返してください。「神様が聖書でそう言っておられるから」と相手が気づくまで質問してください(必ず一人一人に)。なぜならこのことは生徒のこれからの信仰生活の土台を自分の観念や感情や行いでなく神のみ言葉による(聖書信仰)ことを認識させるからです。必ずそのことを生徒一人一人に確認してください。

●このわざをなされるのは神様ですから、教師側の祈りの備えなくして、今回の分級も成り立ちません。

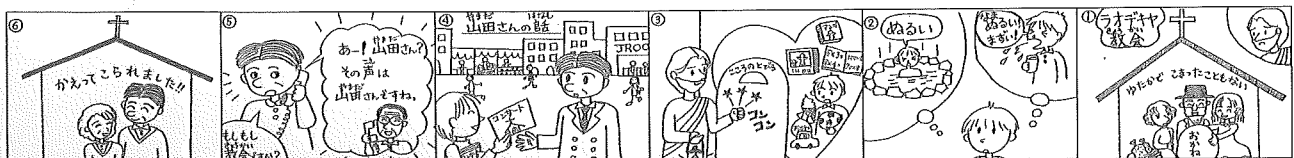
中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 イエス様は、ご自分をどんな方だと言っておられますか。(14節)
- 2 ラオデキヤ教会の人々は、イエス様から見るとどんな状態ですか。(15、17節)
- 3 20節で、イエス様は私たちに何をしてくださっているとおられますか。(心の戸をあけてご自分を迎え入れること)
- 4 イエス様に従って勝利を得る人にはどんな約束が用意されていますか。(21節)

考えてみよう

- 1 「熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるい」とはどういうことだと思いますか。(救われた喜びがさめ、信仰生活がマンネリ化している状態)
- 2 「白い衣」を身に着けるとは、どういうことだと思いますか。(イエス様の血で、罪と汚れをきよめていただくこと)
- 3 イエス様は何のために「戸の外に立ってたたいている」と思いますか。(私たちの心の中に入って、共に生きて下さるため)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 17節の中で、自分に当てはまるものがありますか。
- 2 あなたのイエス様への愛は、熱いでしょうか、なまぬるいでしょうか。
- 3 あなたはイエス様の声を聞いて心の戸を開けたことがありますか。



聖書 ルカ23・39～43

テーマ 十字架の上の希望

序論

(鎌野)

受難週が始まった二〇〇四年度は、また受難週で終わる。今日のテキストは、昨年4月4日に学んだ箇所が続くもので、参照していた。ただいま。ただ今回は、「希望に生きる」という期題にそつての展開である。過去2週間で学んだように、主イエスを救い主として信じる者は、この世において主が常に共にいてくださるだけでなく、死後にはいのちの冠が与えられる。十字架につけられていた犯罪人のひとりも、生涯の最後に、この希望に生きることができたのである。彼がそのような恵みにあずかった理由を考えてみよう。

一、自分の罪を認めたから

十字架につけられていた別の犯罪人は、△あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、われわれも救ってみよ△と叫んだ。これは、キリスト(救い主)と言われながらも、十字架上で無残な姿をさらしている主に對する△悪口△だった。十字架の下にいた民衆や役人や兵卒たちと同じように、彼は主をあざけたのである。それと対照的に、この犯罪人は、△お互は自分のやった事のむくいを受けているのだから、こうなったのは当然だ△と、自分の罪をそのまま認めている。

犯罪人は2人とも、将来に對する希望は断ち切られていた。死刑に処せられているのとき、もうしばらくするなら息をひきとり、その先には何

の希望もない。それを恐れて、ひとりは苦しまぎれに主に叫んだのであろう。私たちも、例えばガンなどで、「あなたの余命は3ヶ月」と宣告されたとき、どんな希望をもつことができるだろうか。「罪の支払う報酬は死である」(ローマ6・23)。罪が解決されていないなら、人は死後に希望をもつことはできない。しかし、自分の罪を認める謙遜さがあるなら、恵みは近くに迫っている。

二、救い主を信じたから

この犯罪人は、自分の罪を認めた後に、3つの重要な告白をしていることに注目しよう。まず第一に、△このかたは何も悪いことをしたのではない△と、主が無実の罪で十字架につけられたことを認めている。彼は昔、主の言動を見聞きしていたとは思われないか、直前の「父よ、彼らをおゆるしてください」との祈りで、主が本当に正しい人であることを悟ったと考えられる。第二に、△あなたが御国の權威をもつておいでになる時△と言った。眼前で、十字架刑を受けている傷だらけの人物が、将来、御国の權威をもつておいでになると告白したのである。「祖先から語り伝えられていた来たるべきメシヤ(救い主)」とは、まさにこのお方なのだ」と彼は確信していた。第三に、△わたしを思い出してください△と、このお方が憐れみ深い方であることを信じて、厚かましいほどの願いをしている。主イエスが救い主であると信じていなければ、これら3つの告白をすることができはざないだろう。

救い主を信じるとき、希望が生まれる。自分を

見るなら何の希望も見出せなくても、救い主こそは希望を与えてくださる。彼は土壇場でこの救い主にお会いし、信じたのだ。

三、み言葉を受け入れたから

以上のような信仰告白をした犯罪人に、主は力強く宣言された。△あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいる△と。ここには、過去2週間で学んだ希望が明確に示されている。まず△わたしと一緒に△という交わりの希望である。彼が過去にどんな罪を犯していたとしても、主は彼を△思い出す△だけでなく、一緒にいてくださるのだ。しかも、△パラダイス△といわれる、いのちの冠の与えられる所で。この語は、新約聖書の中でも2回、Ⅱコリント12・4と黙示録2・7で用いられ、特に後者は、「神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう」と、エデンの園を想起させる表現になっている。

彼は、主の言葉をそのまま受け入れた。何の善行もなく、功績もなかった彼が、主と共にパラダイスに迎え入れられるとは、何と幸いなことか。彼は十字架の上で大きな希望を抱いていた。

結論

紀元30年におこったこの出来事は、その後2千年間、主の十字架が話されるたびに、語り伝えられてきた。救いはただ信仰によることを、明確に示しているからである。私たちも、自分の罪を認め、救い主を信じ、み言葉を受け入れて、この大きな希望をいだくのではないか。

研究資料

(足立)

十字架上の犯罪人の回心はルカ特有の記録である。マタイとマルコは、イエスとともに十字架につけられた強盗たちがイエスをば倒したことだけを私たちに伝えている(マタイ27・44、マルコ15・32)。

テキスト

39 ルカは再び二人の犯罪人を登場させる(23・32～33)。彼らがユダヤ人なのか、異邦人なのかは定かではない。犯罪人のひとりがイエスに無礼なあざけりの言葉を吐き続けている(参照22・65)。彼の、ののしりは指導者たちや兵士たちの言葉を想起させる(22・35、37)。あなたはキリストではないか。それなら、自分を救いまたわれわれも救ってみよ。これは決してイエスへの信仰から出た言葉ではない。彼は自分自身の地上の生に對して執着している。残念ながら彼には、自分の人生を振り返り、悔い改める心がない。

40 第二の犯罪人は、もうひとりをたしなめている。神をも恐れないのか。彼は自らの十字架刑を神の審判としてとらえている。断末魔に及んでこの犯罪人は自分の一生を深く反省している。

41 お互は自分のやった事の報いを受けているのだから、こうなったのは当然だ。自分の犯した罪を認め、告白する言葉。しかし、このかたは何も悪いことをしたのではない。この犯罪人はイエスが間違ったことを何もしていないことを知っている(参照23・4、14、15「2回」、22)。彼はイエスの無罪性を主張しているが、彼が以前からイエ

スのことをよく知っていたとは考えにくい。おそらく十字架上でイエスが繰り返し祈り続けた言葉(23・34)を聞き、またイエスの姿に聖なるものを感じての故であろう。彼は決して学習や教育によってこのように導かれたのではなく、このギリギリの場面において聖霊によって心の目が開かれていったのであろう。

42 イエスよ、あなたが御国の權威をもつておいでになる時には、わたしを思い出してください。十字架上で死につくある犯罪人が、同じく十字架で死を経験しつつあるイエスに對して言った言葉。彼がイエスの人格とみわざについて深い理解と知識とをもっていたとは考えにくい。おそらく彼は無知故に、呪いの木に架けられたのであろう。しかし、ここでこの犯罪人が口にしている内容は、少なくともイエスが死で終わるお方ではなく、死を超えた權威がイエスに与えられることを彼が悟ったことを示している。これは断末魔という驚くべき瞬間に、救いとはほど遠いと思われる罪人の口から出た見事な信仰告白と言えるであろう。この犯罪人は、人が自分の死に際においても信仰告白可能な存在であることを私たちに伝えている。

43 イエスの応答は犯罪人の求めにはるかにまさるものであった。よく言うておくが(アメンソイレゴ、真実にあなたに告げる)。イエスが特別重要なことを宣言されるとき用いられた表現である(4・24、12・37、18・17、29、21・32)。しかもこの表現が一人の人間に向けられているのは、唯一この箇所だけである。あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。きょう(セメ

ロン)という言葉は、最大級の重みを与えている。決してやがてとか、将来ではなく、即刻性を含む新しい日を強調している(参照ルカ2・11、5・26、13・32～33、22・34、61)。イエスは取税人ザアカイに對して、「きょう、救いがこの家に来た」(19・9)と言われたが、この十字架上の犯罪人に對してもまったく同じ救いが、このとき実現していることを主張された。「わたしと一緒に」とは、イエスが王として君臨され、しかもこの犯罪人が救われた者として、という意味である。パラダイス(パラデイソス)とは、普通「楽園」を意味する。しかし、ここでは天国との関わりで使われている。イエスがルカ22・29、30で言われたことを考慮に入れるならば、パラダイスとは永遠にイエス・キリストとともに統治するところである(参照Ⅱコリント12・4、黙示録2・7)。イエスはこの犯罪人がイエスとともに、また義とされた多くの人々の中に住むことを約束している(参照、使徒3・21、7・55)。この犯罪人は地上の命が奪われるギリギリの場面、イエス・キリストの十字架の恵みによって、神とともにある永遠の御国に移されたのである。そして罪人はこのようにして救われるという証しを二千年に亘り、地上のすべての人々に提供するあわれみの見本として、聖徒の輝きを放ち続けている。

参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』いのちのことば社、Bock,D.L., Luke 1:1-9:50 (Baker), Liefeld,W.L., "Luke's The Expositor's Bible Commentary, Vol.8 (Zondervan), Morris,L., Luke (IVP).

聖書 ルカ23・39、43
タイトル どこでも希望が！
暗唱聖句 あなたはきょう、わたしと一緒に
パラダイスにいるであろう。
目録 キリストにあつてのみ、どこでも
も希望が与えられることを知る。
ルカ23・43

導入 (長谷川)

今日は今年のパームサンデー(棕櫚の主日)、今日から受難週に入ります。イエス様は今日、ロバの子に乗ってエルサレムに入城されました。そして、今週の金曜日に、私たちを罪から救うために十字架にかかって命を捨ててくださいました。今日はその金曜日の出来事を一緒に見てみたいと思います。

悔い改めた犯罪人

イエス様は3本の十字架のまん中にかかけられました。悪いことは何一つされなかったイエス様ですが、ただ人類を救うためにそうしてくださいましたのです。そのイエス様の両側に罪を犯してしまつて十字架にかけられた二人の犯罪人がいました。その内の一人が「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、われわれも救つてみよ」とイエス様をあざけりました。自分は罪人でありながら、とても失礼な態度ですね。

ところが、反対側の犯罪人は違いました。この人は、「お互いは自分のやったことのむくいを受け

ているのだから、こうなったのは当然だ」と言つたのです。この二人の大きな違いは、自分のしたことがわかつて、それを認めているかどうかでした。後の人は「自分は罪人です。悪いことをしてしまつた者です」と正直に認めました。自分の人生を反省したのです。このことが、この人の将来を変える始めになりました。

十字架上のイエス様にふれた犯罪人

自分の罪を認めた犯罪人は続けて言いました。「このかた(イエス様)は何も悪いことをしたのではない」と。また、「神を恐れないのか」と、もう一人の犯罪人を厳しくたしなめました。

自分が十字架刑を受ける身でありながら、イエス様を「主」と告白し、また、イエス様は何も悪いことをされていない、と言つて出来たのは何故でしょうか？ 以前からイエス様のことを聞いて知つていたのでしょうか。そうではないと思います。今、この十字架上でイエス様の愛に触れたからです。イエス様の十字架の姿の一部始終をしっかりと見て、その素晴らしさがわかり彼は変えられました。この最期の時に、イエス様の愛に触れることができたのです。

そして思わず「あなたが御国の権威をもつておいでになる時には、わたしを思い出してください」と言いました。その人は、イエス様が死で終わる方ではない、とわかつたのでした。十字架にかかりながらもイエス様には「未来の希望」があるとわかつたのでした。

約束をもらった犯罪人

「わたしを思い出してください」と願つた犯罪人に、イエス様は素晴らしい約束を告げられました。「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう」と。「パラダイス」とは、「樂園」つまり「天国」です。ずっと、イエス様と一緒にいらせていただける、という約束を下さいました。きつと、涙があふれて止まらなかつたと思います。犯罪を犯して、今や、地獄に落ちるべきこの時に、イエス様によつて天の御国に引き上げていただける約束をもらったこの人は、本当に幸せ者でした。

まとめ

この出来事は、今から2000年近く前のことです。けれども、聖書の中で最も感動を与える出来事として今も語られています。それは、救われない、もうだめだ、と思える人が見事に救われることの証人だからです。誰でも、いつでも、どこでもイエス様を信じれば救われるのです。

岡山で一人の女性の方に「イエス様を信じられませんか？」と尋ねると、その方は病弱な方でしたから、「私は教会の奉仕が出来ないので、クリスチャンになるのは無理だ」とずっとあきらめてきました」と言われました。そこで、今日の「金曜日の出来事」から、救われるのは、奉仕の報い、献金の報い、善行の報いでなく、イエス様を信じるだけでよいことをお話しました。喜んで洗礼を受けられ、数年前に天に帰つて行かれました。

イエス様こそ、本当の「希望」です。

♪さあイエスさまを信じましょう♪

(ふくいん子どもさんびか1)

ワーク A

話し方のヒント

イエス様は何も悪いことをしておられなかったのに、私たちの身代わりとして十字架にかかってくださいました。イエス様といっしょに十字架につけられた犯罪人のうちの一人は、イエス様のお姿を見て、本当に反省したようですね。そしてイエス様からすばらしい約束をいただくことができました。イエス様は、助けてほしいと願う人を誰でも救うことがおできになるのです。

ワークについて

自分の罪をおわびした人に約束されたのは、何かな。印のついている所に色をぬりましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 救われた犯罪人の言葉(40、42節)に表われている心、悔い改めと信仰を教えましょう。

●質問3 死刑の最中に悔い改めて信仰をもつて救われたこの犯罪人を通して、神の救いの恵みは、いつでも、どこでも、誰でもあつても、受けることができるものであることを教えましょう。いつでも、いつか救われるということではなく、今、救われるのだということとして信じるよう導きましょう(IIコリント6・2)。

ワーク C

●43節のみ言葉を書き入れます。

●最初は、二人の犯罪人ともイエス様をののしつていました。それは、イエス様を自分と同じような人間と考えていたからです。

●ところが、一人は途中から、このお方は救い主だと心から信じるに至りました。その理由をイエス様の十字架の言葉から考えます。

●この犯罪人には、善行も教会生活もすることは許されません。ただ、死刑になり死ぬだけです。しかし、この人が救われたことは、救いがただ罪の悔い改めと信仰のみによるということを示しています。そのことを確認します。

ワーク D

●救われる条件を多くつけてむずかしくしているのは人間の側ではないでしょうか。

●素直に十字架上のキリストの言葉に目覚め、自らの罪を認め、キリストを神と認め、救いを求めるなら、即座の救いが信じる者にあると聖書は証しています。

●信じるということを質問では手術の例話を通してすべてを委ねることであることを示しています。●今回の分級で救いに導かれる魂が起こされたら、その決心の時を逃さないようCS教師会などで備えが十分なされますように。

中高科へのヒント

観察してみよう

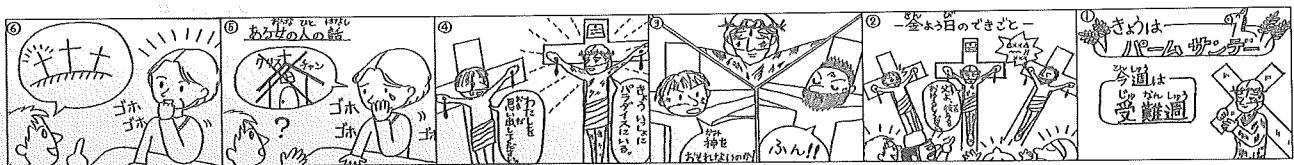
- 1 二人の犯罪人にはどんな違いがありますか。
- 2 もう一人の犯罪人は、自分の罪をどのように受けとめているでしょうか。(悔い改めている)
- 3 彼は、イエス様がどんな方であると理解していますか。(罪のない方/41節)
- 4 彼はイエス様にどんなことを願っていますか。(自分を思い出してもらうこと)

考えてみよう

- 1 悪口を言い続けた犯罪人は、自分の犯した罪を悔い改めたと思いますか。
- 2 もう一人の犯罪人は、なぜ悔い改めてイエス様を信じるように変わったと思いますか。(34節のイエス様の祈りを聞いてと考えられる)
- 3 凶悪な犯罪人が、死ぬ間際にイエス様を信じて救われたことについてどう思いますか。
- 4 イエス様が犯罪人の願いを聞いて、天国の約束を与えられたことをどう思いますか。

自分に当てはめてみよう

- 1 あなたがこの犯罪人だとしたら、二人のうち、どちらの態度を取りたいと思いますか。
- 2 あなたは人と比べてではなく、神様の前に自分の罪を認めたことがありますか。
- 3 あなたは悔い改めた犯罪人のように、イエス様の十字架の意味を悟つたことがありますか。
- 4 あなたは悔い改めた犯罪人のように、イエス様に本気で救いを求めたことがありますか。



聖書 Iテサロニケ4・13～18

テーマ 復活の希望

序論

(鎌野)

クリスチャンでない人々でも、「死んだら星になる」とか、「天国で再会しよう」となどと言う。だがどこにその保証があるのか。彼らにとつては、それは「単なる望み」(Iコリント15・19)にすぎない。しかし、主イエスの復活を信じている者にとつては、それは確実な希望である。イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあつて眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるからである。イースターの今日、単元「希望に生きる」の総まとめとして、私たちに約束された復活の希望と、それに深く関係する主イエスの再臨について学んでみたい。

一、復活の意義

使徒17章からもわかるように、テサロニケ伝道は迫害の中で始まった。救われた者にも迫害の手が伸ばされた。殉教した者たちもいたであろう(3章参照)。パウロはそういう人々を、「死んだ人々」ではなく、△眠っている人々△と呼んだ。それは、「彼らは必ず眠りから覚め、復活するのだ」ということを示すために他ならない。△無知でいてもいたくない△という表現は、パウロがどうしても知ってもらいたい事柄を述べるときの決まり文句である(例・ローマ1・13、Iコリント10・1)。そして、△望みをもたない外の人々(主を信じていない人々)のように、あなたがたが悲しむこと

のないため△にと、主を信じる者の復活について詳しく述べるのである。

もし復活がなければ、愛する者が死んだときの悲しみはいやしがたいものになる。しかし、愛する者が復活し、再び会うことができるなら、どれほど大きな喜びだろうか。ここに復活の大きな意義がある。復活は死に対する勝利なのである。

二、復活の時期

しかし、彼らはすぐに復活するのではない。復活の時期は、△主ご自身が、天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下つてこられる△時である。復活された主イエスは、その40日後に昇天された。そして、他のだれでもない、その△主ご自身△が、再びこの地上においでになる。それはパウロがテサロニケの人々に伝えたことであつた(1・10)。聖書の中で「再臨」といわれるこの時に、△キリストにあつて死んだ人々△が復活するのである。

△主の言葉によつて言うが△と記されているように、再臨の日については、主ご自身も言及されていた(特にこの部分と最も似ている表現は、マタイ24・31に見られる)。しかし、直後の5章にも述べられているように、その日がいつなのかはだれにもわからない(マタイ24・42も参照)。だが確実なのは、再臨の時にクリスチャンの復活があることだ。それゆえ、復活の希望は再臨の希望に直結する。主イエスを救い主と信じる私たちは、たと死んでも復活する。そして、復活の日、キリストご自身とお会いできるのである。

三、復活の歓喜

死が終わりではなく、復活の日があることを知っている者には、大きな喜びがある。さらに、その日には、先に死んでいた愛する人々と再会できることも非常な喜びである。しかし、最大の喜びは、主イエスご自身と、顔と顔をあわせてお会いできることではないだろうか。

パウロは、自分が生きている間に主がおいでになることを思い、△生きながらえて主の来臨の時まで残るわたし△、また△生き残っているわたし△と二度も繰り返す。そして、復活した人々と△共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいる△ことを確信し、喜んでいた。そして、△これらの言葉をもつて互に慰め合いなさい△と勧めたのである。パウロの喜びは、「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいる」と言われた強盗の喜びと同じである。それはまた、現代に生きる私たちの喜びでもある。

結論

パウロの生きている時代に再臨はなかった。またその後2千年間、今日に至るまで再臨はない。その間、多くのクリスチャンは、再臨の日を望みつつ地上の生涯を過ごし、息を引き取る時には、復活の希望に胸をふくらませていたのである。主の復活を祝うこの朝、私たちも確認しよう。たと再臨が遅れようとも、主と同じように私たちは復活し、主とお会いできることを。そして、△いつも主と共にいる△喜びを味わえることを。

研究資料

(足立)

テサロニケ教会のキリスト者にあてた最初の手紙で使徒パウロは様々な事柄を扱っているが、1・3で彼は彼らの「信仰」、「愛」、「望み」に触れている。そして4・13～18で「望み」という徳を取り扱っている。ここでの議論は、会衆が既に召天したメンバーに対して落胆した気持ちを持つていたことにある。ある信徒たちはキリスト再臨以前に死んだ信仰者のことを案じ、終わりの時の不思議な出来事を共有できないのではないかと、誤解していた。これは教会史の初期に持ち上がった問題で、パウロはこれに対して丁寧に答えている。

テキスト

13 兄弟たちよ…無知でいてもらいたくない。これはパウロの愛情あふれる常とう句であつて、読者に対して重要な事柄に注意を向けるよう、また新しい視点を与えるために使われている(参照ロ1マ1・13、11・25、Iコリント10・1、12・1、IIコリント1・8)。眠っている人々については「眠っている」という言葉は死に対する遠まわしの表現として古代社会に共通のものであり、旧約と新約においても見受けられる(創世記47・30、申命記31・16、列王上22・40、ヨハネ11・11～13、使徒7・60、13・36、Iコリント7・39、11・30)。望みを持たない外の人々のように、未信者全般を指す一般的な言葉。

14 わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、キリスト者の確かさの根拠は、神がキリストの死と復活において成された事実にある。パウロは至るところでイエスを死

者の中から復活させたのは神であると言及している(ローマ4・24、8・11、10・9、Iコリント15・15、IIコリント4・14、ガラテヤ1・1、コロサイ2・12、Iテサロニケ1・10)。パウロが眠っているイエスではなく、死んだイエスに言及していることは重要である。同様に神はイエスにあつて眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるのである。これはイエスが再臨されるとき信仰を持つて召された人々もイエスとともに導き出されることを意味している。イエスにあつて死んだ信仰者は主の再臨を共有する。

15 わたしたちは主の言葉によつて言うが「主の言葉」とはパウロがイエスの言っていることを引用していると理解できるが、福音書においてこのように厳密に言っているところはない。しかしパウロが記録されていないイエスの言葉を引用し提示したと考えることは可能。というのは正典としての福音書に記録されていないことは十分にあり(ヨハネ20・30、21・25)。例えば、使徒20・35を参照。生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、これはパウロが主の再臨の時、生きていたいという期待を意味している。事実彼はそのときを知らない(5・1～3)。パウロ及び初代のキリスト者たちが、主の再臨は自分たちの時代に起こりうるという緊迫感をもって生きていたことは推測できる。しかしパウロは主の再臨が近いとは教えていない。眠った人々より先になることは、決してないであろう。パウロが問題にしていることは、再臨のとき既に死んだ信者が不利なこととはまったくないということ。

16 主ご自身が…天から下つてこられる 新約聖

書においてこの節ほどに再臨の仕方に関して言及している箇所はない。しかし詳細についてはわずかなことが記されているに過ぎない。強調点は、主ご自身だけが来られるという事実だけにある。この主は十字架の死、葬り、復活、昇天を経たイエスご自身である(参照使徒1・9～11)。御使いや他の被造物が主に代わることはない。これ以外を細かくせん索する態度は慎まなければならない。私たちに必要なことは、主ご自身が来られることを期待して備え、生活することである。天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、パウロはここで、主の再臨は王の尊厳と栄誉の現れであると伝えている。その時、キリストにあつて死んだ人々が、まず最初によりがえり、パウロはここで既に信仰を持つて召された人々が最初に復活すると伝えている。

17 それから生き残っているわたしが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、再臨時、地上で生きてとどまっている信者たちが、よみがえらされた聖徒たちと一緒に引き上げられる。引き上げられ(ハルバゲソメサ)という動詞は、神の圧倒的な力のうちに見られる支配力と突然性を示している。空中で主に会い「会い」と訳された言葉(アパンテンシ)は、新しく到着した高官を公式に迎える際の専門用語である(参照マタイ25・6、使徒28・15)。こうして、いつも主と共にいる、これこそ信者の究極である。

参考図書 Morris, L. The First And Second Epistles To The Thessalonians (Eerdmans), Morris, L., 1 and 2 Thessalonians (IVP), Marshall, I. H. 1 and 2 Thessalonians (Eerdmans),

聖書 イテサロニケ4・13～18
タイトル 最高の幸せ

暗唱聖句 空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。

目標 イテサロニケ4・17
キリストの復活は、終わりの日の復活の希望につながることを知る。

導入

(長谷川)

イースターおめでとうございます。今日はイエス様が、私たちの罪の身代わりに十字架で死んで下さり、3日目によみがえってくださった日です。本当に感謝の日ですね。イエス様が埋葬されたと言われるエルサレムのお墓は空っぽです。そこにはたくさんの方の言葉で「イエスはよみがえられてここにはおられません」と書かれてあります。私たちの信じるイエス様は死んだままのお方ではなく、死んでよみがえられたお方です。誰一人イエス様のようなお方はおられません。心から「ハッピー・イースター」とお祝いしましょうね。

イエス様復活の出来事

イエス様は金曜日に十字架で息を引き取られました。そして、アリマタヤのヨセフさんの墓に葬られました(マタイ27章)。3日目の朝、つまり今朝の出来事ですが、早朝、マグダラのマリヤさんたちがお墓に行くと見ると、なんと、封印をしていた大きな石が転がされ、その上に天使が座って

いたのです。マリヤさんたちはとてもびっくりしたと思います。天使は「もうここにはおられない。かねて言われたとおり、よみがえられたのである。さあ、イエスが納められていた場所を「ごらんさい」(マタイ28・6)と言いました。

マリヤさんたちは恐る恐る中をのぞいて見ました。確かにイエス様はおられません。そして、他の弟子たちにこのことを知らせに走るのですが、その途中でイエス様に会ったのです。イエス様は「平安あれ。恐れることはない」とマリヤさんたちを励ましてくださいました。きっと、マリヤさんたちはうれしくて涙が止まらなかったことでしょう。イエス様は確かによみがえってくださいました。

さらに素晴らしい恵みが！

うれしいイースターのニュースと共に、今日はさらにうれしいニュースを学びましょう。それは、イエス様を信じる人も「復活する」ということです。私たちよみがえれることができるのです。「えっ！本当ですか？」と尋ねるお友達もいると思いますが、本当なのです。「イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあつて眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出して下さるであろう」また「生き残っているわたしたちが、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう」と書いてあるのです。では、私たちの復活はいつあるのでしょうか？それは、イエス様がもう一度来られる時、再臨の時です。「主の来臨の時」とある通りです。でも、それが何年何月何日であるかは、神様以

外わからないのです。

「再臨の様子」のいくつかが聖書に書かれていますね。イエス様ご自身が「天使のかしらの声」と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられるのです。イエス様がもう一度来てくださる、イエス様にお会いできると思うと本当にうれしくなりますね。

そして16節には、続いて「人々の復活」が始まると「復活の順番」が書かれています。まず、イエス様を信じて死んだ人々がよみがえり、次に、まだ生きていてイエス様を信じている人々が、そのよみがえった人々と一緒に、雲に包まれながら空中に引き上げられるのです。そこでイエス様と出会って、ずっとイエス様と一緒に居続けられるのです。イエス様はもろろんのこと、アブラハムさん、ノアさん、ヨセフさん、マリヤさん、パウロさん、そして、バックストン先生、そして、イエス様を信じて天国へ行かれたお家の方や教会の方、お友達みんなと会えるという訳です。なんだかワクワクしてきましたね。「希望がわいて」きますね。

まとめ

よみがえられたイエス様に、私たちもよみがえらせていただき、ずっとイエス様と一緒にいられるのです。

これは最高の幸せです。いつその日が来るかわからないので、いつも、心の準備をしてイエス様の再臨を待ち望んでいきましょうね。

♪イエスさまのさいりん♪

(ふくいん子どもさんびか76)

ワーク A

話し方のヒント

今年も、イースターの日になりました。イエス様は、十字架で死なれたままではなく、よみがえられたお方なのですね。そして、イエス様がもう一度来られるとき、私たちも復活すると言われています。何よりもうれしいのは、私たちがいつもイエス様といっしょにすることができということです。イエス様によって、どんな時にも希望を持つことができるのは、本当にうれしいですね。

ワークについて

絵に色をぬり、み言葉の壁掛けを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様がよみがえられたように、イエス様を信じる私たちもよみがえれることをこのイースターの日にはっきりと信仰をもって、その希望に生きるよう導きましょう。

●質問3 再臨時の空中に引き上げられる状況を想像しながら、この中に自分も入りたいということだけでなく、共に引き上げられてほしい人々(全体的な人々ですが、特に家族、友人など)を思い、救いのために祈るよう導きましょう。

ワーク C

17節のみ言葉を書き入れます。

●「罪があると死ぬ」というのが聖書のルールです。逆に言えば「罪がなければ(赦されれば)死なない」となることを確認します。

●イエス様の十字架により、すべての人の罪は処分されました。それなのに、すべての人はその肉体においては死にます。では、死なないとはどういうことか、それが「復活」ということだと示します。そのことを14節から(ローマ6・4～5も参考)確認します。

●また、16～17節から(1コリント15・20～28も参考)復活の順番を確認します。

ワーク D

●この度のイースターメッセージは、イエス様の復活とイエス様の再臨です。キリスト者の究極の喜びと望みが語られます。

●説教者のみならず、分級担当者もこの喜びにまず満たされて生徒の前に出るだけで、生徒にこの出来事がどんなことであるかが伝わることでしよう。

●生徒の中には再臨がいつなのかと聞く人がいるかも知れませんが、この世の終末観は恐怖や不安を与えます。しかし、聖書はその時については神以外わからないと記しながらも、イエス様とお会いできる最高の希望であり、また闇(やみ)でなく輝きであることを伝えていきます。

中高科へのコント

観察してみよう

- 1 イエス様が天から下ってこられると、まずどんなことがおきると書いてありますか。(死んでいたクリスチャンがよみがえれる)
- 2 その次には何が起きますか。(生き残っているクリスチャンが雲に包まれて引き上げられる)
- 3 クリスチャンが天に引き上げられた後はどうなりますか。(いつも主と共にいる)

考えてみよう

- 1 イエス様を信じている人が死ぬと、その人はどうなるのでしょうか。
- 2 イエス様を信じている人は、イエス様が天から下ってこられたら、どうなりますか。
- 3 イエス様を信じて死んだ人と私たちは、再び会うことができるでしょうか。
- 4 イエス様を信じた人がよみがえれることができるのはなぜでしょうか。(イエス様ご自身がよみがえられたから)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたは、イエス様が死んだ後、三日目によみがえられたことを信じますか。
- 2 あなたは、イエス様が再び天から下って来られることを信じますか。
- 3 そのときあなたは、引き上げられてイエス様と会うことができると信じますか。
- 4 どうしたらあなたも天に引き上げられることができるでしょうか。



牧羊ひろば

教会学校のお楽しみ行事

私たちの教会にきている子どもたちが大人たちとも交わり、教会生活を楽しむことができるようになることを願って、いくつかの行事を考えました。そして、この行事を通して、未信者の子どもたちも教会につながるようになります。

① ディーキャンプ(3月)

新学年になる前に、生徒とCS教師とが親しくなることを目的に始めました。マイクロスバスで少し離れた公園に行き、メッセージと遊ぶ時を持つようにしました。行き先にもよりますが、帰りに子どもたちと一緒に温泉を楽しみます。とても良い交わりとなります。

② パーベキュー大会(5月)

大人から子どもまで楽しく交わることは何だろうかと考えて、礼拝後の昼食にパーベキュー大会をしています。材料は教会員の方たちが献品してください。ほぼ食べ放題状態です。教会員の子どもたちはもちろん、クリスマスチャンでない友人も誘う伝道の時でもあります。また、アイスクリームやかき氷やジュースが食べ放題、飲み放題です。パーベキューを囲んで、普段はあまり話す機会がない子どもと大人が、楽しい交わりを持つことができます。

③ イモ植え(6月)、イモ掘り(10月)

お昼ご飯の後で集会を開きます。その後、広場に行き野球をします。子どもたちは、大人と一緒に野球ができるので、大変に喜んでいきます。イモ植の後の世話は畑を貸してくれている教会員の方がしてくれます。そして10月の後半にイモ掘りをします。子どもたちは、誰が一番大きなイモを掘るかで競争します。また、形が変わったイモを掘った時は、それを教会に飾ります。収穫したサツマイモは教会で分けます。イモ掘りが終わると、子どもたちと魚釣りをします。主が与えてくださる収穫を喜び一日です。

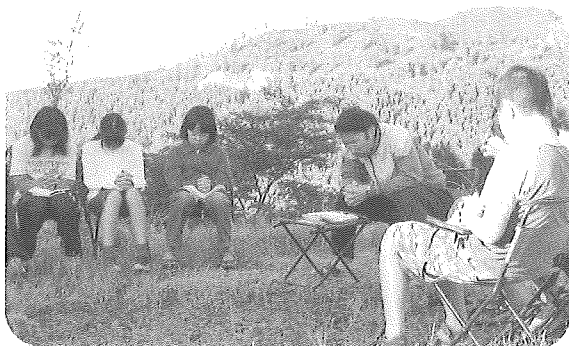


いも掘り

員の畑をお借りして、教会員が用意したサツマイモの芋づるを植えます。最初の頃は、子どもたちは2、3本のつるを植えたから、飽きてどこかに遊びに行っていました。ある時、釣りをすることを思いつきました。芋づるを全部植えたら、釣りをするというルールにしたところ、子どもたちは先を争って植えました。この時、中高生が小学生や幼稚園科の子どもたちのお手伝いをしてくれます。釣った魚はお昼ご飯に唐揚げになって出てきます。

トなどをトラックに積み込むところから、子どもたちと一緒にします。午前中は川で遊び、午後からキャンプ場に向かいます。開会礼拝の後、みんなで荷物を降ろして会場作りをします。その後小学生以下は工作タイムです。この時に中高生の女子が幼稚園科の子どもを補助し、男子はパーベキューとキャンプファイヤーの準備をします。キャンプの食材は教会員の献品でまかないます。おかげで、参加費が安くなり、一人でも多くの子どもが参加できるようにしました。パーベキューはお肉を食べ放題という状況です。消灯後に二度目のパーベキュー大会をする子どももいます。

キャンプファイヤーではゲームと賛美と教師劇とメッセージで、とても楽しい時です。特に教師劇は人気があります。



次の日はラジオ体操から始まり、分級の折り会の中で、罪の悔い改めをします。9時から子ども礼拝を行います。礼拝後、CSに部屋を片づけ、荷物をトラックに載せます。

自由時間には、子どもと大人とが一緒に遊ぶ

びます。ドッジボールや野球をして楽しみます。昼食後に開会礼拝を行い、教会に向かいます。そして、子どもたちと一緒に、教会で荷物を降ろし、後片づけをして解散です。

普段はできない子どもたちの魂の取り扱いも、キャンプの自由時間を通して行うようにしています。また、教師と生徒の良い交わりの時です。

⑤ イースター子ども大会

イースター子ども大会の目玉行事は、卵探しです。以前は本物のゆで卵を隠していましたが、新会堂になり、ゆで卵を隠す場所がなくなりました。そこで、卵形のネームプレートに番号を付けて隠すことにしました。参加人数によって、一人が集められる枚数を決めます。小さい子どもがとれるように、小学生は膝から下のプレートはとれないようにします。また、多く集めた人は、少ない人に分けるようになります。その後、番号くじを引いて、当たった人はプレゼントがもらえます。



敬天荘慰問

子どもたちと一緒に、年に二回訪問します。花の日と、アドベント第一週です。花の日には、教会で飾った花を一人一人に

バスツアー

⑥ 教会バス旅行

バス旅行は、教会役員や奉仕者が、自分の子ども

たちと一緒に遊びに行くことができないかと思っ

て考えた企画でした。バス旅行の目的は、教団の教会を訪問し、その地域のキリスト教の歴史を学ぶこと。子どもたちが遊ぶことです。問題は、時間通りに帰れないことです。大人にも、子どもにも人気の企画です。

⑦ 敬天荘訪問

敬天荘は、私たちの教会の近所にある特養ホームです。子どもたちと一緒に、年に二回訪問します。花の日と、アドベント第一週です。花の日には、教会で飾った花を一人一人に

プレゼントします。また、クリスマスにはミカンをプレゼントします。一番のプレゼントは子どもたちの訪問です。賛美をする時は、集まった方々の間に、子どもたちが入って、一緒に賛美をします。何人も顔なじみになり、私たちの訪問を楽しみに待ってくださるのは、本当に感謝です。入居者の方の健康のために祈る時は、職員の人たちも心を合わせてくれます。

このほか、クリスマス会や教会音楽会、そうめん流しなどで、子どもたちが楽しめる時を教会内に持つようになっています。

日田福音キリスト教会 教会学校

おわりに

『牧羊者』二〇〇四年度第IV巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々には、秋の各種伝道会やクリスマス諸準備の中に執筆いただき心から感謝いたします。また、前号より「教師養成講座」を、聖書宣教会の内田みづえ先生が執筆してください好評を得ております。去る10月18日にCS局員と執筆者が集まり、次年度の「牧羊者」について協議と意見交換を行いました。新しいカリキュラム2年目を迎えるに当たって、より良い「牧羊者」にと、中高生の聖書日課について、CS教師養成講座についてなどが協議され、「牧羊者」がいよいよ子どもたちの育成や救済に、CS教師の方々の育成にも大いに用いられるように、引き続きお祈りください。

終わりに今号の執筆者を紹介いたします。

聖書講解 鎌野善三 金井望
研究資料 足立宏 長田栄一
メッセージ例 小野淳子 水野晶子
ワーク 飯田牧子 小平徳行 長谷川ひさ子
中 高 科 石田高保 土屋直子
ボランティア 陰山恭子
み言葉カード 小野淳子
子ども聖書日課

また、監修を手伝ってくださった鎌野善三師、和田治師、石田高保師、光田隆代師、森明子師、また、発送とワーク印刷をされた教団事務所の方々、そして、印刷会社あくとの本田慈郎兄に心から感謝いたします。(長谷川和雄)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇四年度 IV巻

発行所 有限会社 ベラカ出版

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局

神戸市兵庫区塚本通三三一九

電話 〇七五五五五五五五五

FAX 〇七五五五五五五五五

印刷所 有限会社 あくと

電話 〇二九七七八一五九三五

*日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み